

編集復刻

（財）女性のためのアジア平和国民基金編

政府調査

「従軍慰安婦」関係資料集成
③

防衛庁関係公表資料(下)

龍溪書舎

目次 (第三卷)

防衛庁関係公表資料 (下)

四八	大東亜戦争関係将兵ノ性病処置ニ関スル件「陸軍省副官」(昭17・6).....	3
四九一(一)	昭和一七年九月副官会同席上意見、質疑及回答「支那派遣軍總司令部」(昭17・10・3).....	7
四九一(二)	昭和一七年九月副官会同席上意見、質疑及回答(追加)「支那派遣軍總司令部」(昭17・9).....	7
.....
五〇	軍政規定集第三号「馬來軍政監部」(昭18・11・11).....	17
五一	檢査成績ノ件通報「イロイロ患者療養所」(昭17・5・12、12・27).....	21
五二	野戦高射砲第四五大隊第一中隊陣中日誌(昭17・5・13、16).....	45
五三	独立自動車第四二大隊第一中隊陣中日誌(昭17・5・14).....	105
五四	独立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌(昭17・5・29、30).....	117
五五	慰安所ニ関スル規定「独立守備歩兵第35大隊」(昭17・6・6、11).....	123

五六	情況報告「フツアン警備隊長」(昭17・6・16)	129
五七	部隊軍紀風紀肅正ニ対スル服務計画提出ノ件報告「イロイロ派遣憲兵隊長」(昭17・6・25)	133
五八	独立自動車第四二大隊第一中隊陣中日誌(昭17・7・6)	139
五九	戦時月報「独立守備歩兵第35大隊」(昭17・7・31)	145
六〇	軍人俱樂部規定「マスバテ島警備隊長」(昭17・8・16)	149
六一	独立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌(昭17・8・18・24)	153
六二	独立自動車第四二大隊第一中隊行動詳報(昭17・8・24)	159
六三	第二五軍情報記録「富集団司令部」(昭17・8・25)	165
六四	独立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌(昭17・9・8)	171
六五	歩兵第一一連隊第一大隊砲小队陣中日誌(昭17・9・8)	175
六六	独立守備歩兵第三五大隊陣中日誌(昭17・10・5)	179
六七	慰安所規定送付ノ件「軍政監部ヒサヤ支部イロイロ出張所」(昭17・11・22)	187
六八	兵站勤務ニ関スル規定ノ件達「第14軍司令官」(昭17・11・17)	195
六九	サツク支給ノ連絡(カトバロガン分隊あて)(昭17・11・21・12・12)	199
七〇	パナイ島接客業組合骨子「パナイ島接客業組合」(昭17・12)	201
七一	情報旬報「独立守備歩兵第35大隊」(昭17・12)	205

- 七二 在淮陰芸娼妓檢梅成績表〔歩兵第54連隊〕(昭18・1・29、18・4)……………209
- 七三 衛生業務要報〔第15師團軍医部〕(昭18・1、18・2)……………213
- 七四 獨立自動車第四二大隊第一中隊行動詳報(昭18・1・13)……………227
- 七五 獨立守備歩兵第三五大隊陣中日誌(昭18・2・14)……………231
- 七六 防犯資料〔第36師團司令部〕(昭18・3・4)……………237
- 七七―(一) 軍慰安並娯樂設備狀況ニ関スル件照会〔バギオ憲兵分隊長〕(昭18・8・2)……………243
- 七七―(二) 軍慰安並娯樂設備狀況調査ノ件「通牒」〔セブ憲兵分隊長〕(昭18・8・10)……………245
- 七七―(三) 軍慰安所並娯樂狀況調査ノ件(回答)〔タクロバン憲兵分隊長〕(昭18・8・14)……………247
- 七八 慰安婦一ノ金錢紛失ニ関スル件報告〔タクロバン憲兵分隊長あて〕(昭18・8・3)……………251
- 七九 巡察計画表〔タクロバン憲兵分隊〕(昭18・10・14)……………257
- 八〇 雪第三五二五部隊日々命令(昭18・11・7)……………261
- 八一―(一) 林第三六二九部隊日日命令(昭18・12・11、21、25)……………263
- 八一―(二) 林第三六二九部隊日日命令(昭19・1・1、3、6)……………271
- 八二 外出及軍人俱樂部ニ関スル規定〔直兵団遠山隊〕(昭19)……………277
- 八三 陸軍軍人軍属非行表(一〇月、十一月)〔バヨンボン憲兵分隊〕(昭19・10・11)……………285
- 八四 タクロバン憲兵分隊作命綴〔垣第六五〇部隊參謀長・獨立混成第33旅団長〕……………

	(昭19・1・10、3・17)	287
八五	軍政月報「馬來軍政監部」(昭19・2・29)	295
八六	サンタクルース患者療養所「第16師団第2野戦病院陸軍軍医中尉」(昭19・5・14)	299
八七一(一)	要塞建築勤務第六中隊陣中日誌(昭19・5・24、26、27、31)	305
八七一(二)	要塞建築勤務第六中隊陣中日誌(昭19・6・4、5、9)	319
八八	オルモック派遣隊現状報告「オルモック派遣隊長」(昭19・5・27)	327
八九	軍人俱樂部利用規定「中山警備隊(在広東)」(昭19・5)	331
九〇	第三魚雷艇隊戦時日誌(昭19・7・20)	341
九一(一)	石兵団会報第五四号(昭19・9・14)	347
九一(二)	石兵団会報第五六号(昭19・9・17)	351
九一(三)	石兵団会報第五七号(昭19・9・19)	355
九一(四)	石兵団会報第五八号(昭19・9・21)	357
九一(五)	石兵団会報第六二号(昭19・9・28)	361
九一(六)	石兵団会報第六四号(昭19・10・2)	363
九一(七)	石兵団会報第七四号(昭19・10・19)	365
九一(八)	石兵団会報第七九号(昭19・10・26)	369

- 九一(九) 石兵団会報第八四号(昭19・11・12)……………371
- 九一(一〇) 石兵団会報第九〇号(昭19・12・4)……………373
- 九一(一一) 石兵団会報第一〇一号(昭19・12・28)……………375
- 九二 沖繩真志喜警備中隊陣中日誌(昭19・11・7、12・16)……………379
- 九三 獨立混成第一五連隊連隊砲中隊陣中日誌(昭19・10・4)……………393
- 九四 獨立混成第一五連隊第二機関銃中隊陣中日誌(昭19・11・4)……………397
- 九五(一) 獨立混成第一五連隊第一大隊本部陣中日誌(昭19・11・7、15、17、26)……………401
- 九五(二) 獨立混成第一五連隊本部陣中日誌(昭19・12・28、31)……………407
- 九五(三) 獨立步兵第一五連隊本部陣中日誌(昭20・1・8、13)……………415
- 九六 獨立混成第一五連隊第八中隊陣中日誌(昭19・11・9)……………425
- 九七 獨立混成第一五連隊第三中隊陣中日誌(昭19・11・24)……………429
- 九八 要塞建築勤務第六中隊北飛行場五六飛大派遣、重信班陣中日誌(昭19・12・24、31)……………433
- 九九 駐屯地会報二於ケル示達事項「南地区駐屯地司令官」(昭20・1・13)……………445
- 百 第二大隊命令「國頭支隊第2歩兵隊第2大隊本部」(昭20・1・14)……………451
- 百一 獨立重砲兵第一〇〇大隊平山隊作命綴「中隊長」(昭20・2・10)……………455
- 百二 第六二師団副官部陣中日誌(昭20・1・15)……………459

百三	獨立混成第四四旅團第二步兵隊第二大隊機関銃中隊日命会報録	(昭20・1・15)	463
百四	輜重兵第四九連隊第一中隊陣中日誌	(昭20・2・1)	467
百五	獨立第二九大隊本部陣中日誌	(昭20・2・24)	473
百六	海軍慰安所利用内規「第12特別根拠地隊司令部」	(昭20・3・18)	477
百七	性病予防ニ関スル件通知「第12特別根拠地隊軍医長」	(昭20・3・29)	481
百八	歩兵第一〇六連隊連隊砲中隊陣中日誌	(昭20・2・23)	487
百九	金辺憲兵隊日誌	(昭20・9・7)	491
百十	復員並居留民船舶輸送情報第七号「陸軍省交通部」	(昭20・9・29)	495
百十一	第四八師團戰史資料並終戰狀況「師團長」	(昭21・7・5)	499

防衛庁関係公表資料(下)

大東亞戰爭關係將兵ノ性病處置ニ關スル件陸軍

一般ニ通牒案

昭和十七年六月 日

陸軍省副官川 原直一

出動地ニ於ケル性病預防ノ徹底ヲ期シ以テ戦力ノ減退ト病癘ノ壓
内搬入ニ依ル民族ノ將來ニ及ホス悪影響トヲ防止センカ爲左ノ通
り定メラレタルニ付依命通牒ス

左 記

- 一 派遣部隊ニ於ケル性病預防ニ就テハ嚴正適切ナル指導ニ依リ感
染ノ機會ヲ避ケシムルト共ニ出動地ニ於ケル慰安所等ノ衛生管
理ニ關シ遺漏ナキヲ期スルモノトス
- 二 内地ニ歸還スヘキ將兵ニ就テハ現地ニ於テ歸還前對性病身體檢査
査ヲ實施シ傳染ノ虞アル患者ハ最寄ノ病院ニ收容加療シ治療又

ハ症狀固定シ傳染ノ虞ナキニ至ル迄内地ニ隔離セシメサルモノトス

三性病患者ニシテ治療後ト雖モ再發ノ虞アル者ハ其ノ旨入院シアル病院長ヨリ退院歸郷ノ際出身地地方長官宛通報スルモノトス

陸軍部第二一二號

昭和拾七年六月拾八日

理由

古今東西ヲ問ハス戰爭後國內ニ性病ノ蔓延シタル事例乏シカラス大東亞戰爭參加將兵ノ内地ニ歸還ニ方リ國內ニ性病ノ蔓延ヲ來サシムル事ハ曾ニ歸還將兵ノ家庭問題ニ止ラス我カ國人口政策上眞ニ由々シキ事ニシテ之カ對策ハ緊急且嚴格ナルヲ要ス

之本案ヲ速セントスル所以ナリ

6

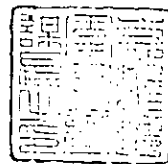
通關人乙第六七五號

副官會同實施ノ件通牒



昭和十七年十月三日 支那派遣軍總司令部 河邊 正三

陸軍省副官 川原 直一 版



九月二十八日、二十九日北支那方面軍、第十一軍、第十三軍、第二十三軍、直轄部隊副官會同ヲ實施シタルニ付關係書類添付通牒ス



(10)

181

昭和十七年九月
副官一處務科夜一會同席上

意見、質疑及問答

支那派遣軍總司令部

- 一、入港ニ關スル事項 (別冊)
- 二、船託運補人ニ關スル事項
- 三、恩賞一枚(探功額)ニ關スル事項
- 四、刑懲罰ニ關スル事項
- 五、在外者寄別休收ニ關スル事項
- 六、功額ニ關スル事項
- 七、陸軍秘密書類ニ關スル事項
- 八、恤兵慰問ニ關スル事項
- 九、宿泊慰安ニ關スル事項
- 一〇、職業輔導ニ關スル事項
- 一一、其 他

八、中文、北支、南支ノ遺骨送送規定ヲ統一規定セラレ處

堆比 中文那、北支那ニ於ケル遺骨送送業務ハ陸々ニシテ當脚圖ノ如ク

三支那ニ且リ駐屯シ且其ノ發掘在類案ナルニ雖ミ中文、北支毎ニ返送

ノ方法、管線ノ様式、両並脚部取、遺骨収容箱ノ寸法並忠靈台台祀ニ

歸スル分骨ノ方法、名簿脚取等相違シアリテ取扱上不便ナリ (三頁)

答 研究スヘシ

九、上海地區ニ於ケル慰安施設ハ比較的少數ナルニ付増設ヲ考慮セラレ處

將ニ健全娛樂施設ハ年少軍屬多ク有スル區隊トシテ將ニ希望ス (自動

車廠、兵務廠、官物廠)

意見 上海地區ニ於ケル慰安施設左記ノ如シ

一、希望慰安所 一六ヶ所 前脚取 一區〇名

ノ復乗アリ價格ノ高ニ付テハ一部種紙燃料等ヲ寧ヨリ拂下ケ向其他諸

實ニツキ解人解疑等ノ方法ニヨリ極刀底價格ニテ販賣スヘク努万シアリ

一一、上海市内ニ於ケル將校、下士官ノ乘賣所ヲ強化増設セラレ度

(自動車廠、兵隊廠、自動廠)

意見 宿行駐ノ新設寺ノ復乗アリ

一二、衛生「サツク」ヲ慰安所經營者ニ拂下ラレ度件

現在軍ニ於テハ一名區リ二ヶ月ニ一編ノ「衛生サツク」ヲ交付シ店レ共

正記ノ毎田ニ依リ此ヲ各慰安所經營者ニ拂下ラレ度

一、従米惣向所ニ於テ使用スル「サツク」ハ各業者夫々市販物ヲ購入シ

且漢者ニ必ス無料ニテ交付シ店リシモ最近市販物ハ拂下シ入手益ク絶

益ノ状態ナリ

2、上海地盤ノ如ク軍ニ於テ慰安所ヲ設置シアリ且兼定ニ依リ各業者ヲシテ登録者ニ必ス交付使用マシメ居ルヲメ各人ニ「サツク」ヲ持参シムルヨリ各業者ニ交付マシムルカ有效ナルヘシ

3、從來ノ状況ヲ省ルニ登録者ニシテ「サツク」ヲ持参セル者ハ殆ントナシ即チ各人ニ交付セラレタル「サツク」ハ殆ント使用マヌ無氣ニ以乘入ルカ或ハ軍慰安所以外ノ場所ニ於テ使用スルモノト推察サル

4、各人ニ「サツク」ヲ持参マシムル時ハ此ヲ利用シ軍慰安所以外ノ場所ニ立入りあキタメ軍慰安所ノ誘因トナル懼アリ

因ニ一ヶ月使用量ハ約四二〇〇個ナリ此カ各業者ニ拂下ハ登録七三三一部隊酒保部ヲ利用シ慰安所所ニ於テ就服薬配ノ上拂下マシム

一三、軍專用調理店及軍食及慰安所ニ軍ヨリ贈與資拂下ラレ度件

取近上海地區モ漸次諸物資拂込トナリ各施設營業ニ必要ナル諸物資モハ
 半函雜トナリ且怕區島價トナレリ

此カ辭人辭庭ノ起メ味良ハ果奔凶走シ居ルモ尤分ナラス此ノ際兵站施設
 ヲ強化スルタメ車ニ於テ左支ヘナキ程故ニ諸物資ヲ有價ヲ以テ拂下スル
 速ヲ請セラレ版（以上 13A）

息見 本件ハ亘果區總務部ニ送スル惟略以直ノ範圍内ニ於テ處理スルヲ
 適岳トスルニ付向應陸部ニ於テ優先セラレ版

秘

昭和十七年九月
副官(庶務科役)曾岡 佈 上
意見、質疑及回答 (追加)

支那派遣軍總司令部

一、南京停車場構内ニ從前ノ如ク宿舍操出場所ヲ設置セラレ度

理田 礎泊場司令部車站總務宿舍等各分散シアルヲ以テ旅行者及出張者

ハ甚シク不便ナリ（九江臨病）

答 研究スヘシ

二、南京ニ於ケル宿務事務取扱者ヲ停車場、礎泊場司令部又ハ偕行社内ニ

ニ設ケラレ度（三訂）

答 研究スヘシ

三、昨夜宿務ニ滿シ夜間途ク南京ニ到着ノ場合ハ車ニ乗替ヲ以テ宿務事務

所ニ連絡ノ上指令ノ旅館ニ夜宿シ莫ノ空日又ハ轉運旅行券ヲ宿務事務所

ニ提出整理シテ差支ナキヤ（款下候類）

〔中略〕

九、上海地味ニ於ケル惣安施設ハ比較的少數ナルニ付増設ヲ考慮セラレ度

符ニ健全設施施設ハ年少五歳多額ヲ有スル宿務トシテ符ニ補強ス（自動車

車廠、兵船廠、貨物廠）

遊覧 上海地蔵ニ於ケル念女施設在託ノ如シ

- 1、看護慰安所 一六ヶ所 酌苑 一四〇名
- 2、休憩娛樂施設

(1) 草母用休憩所 料理店食堂 七ヶ所

右施設ニ包言セラレタル娛樂設備在ノ如シ

撥 球 四邊 ビンボン 三益

スニスコート 二一面 大弓場 一

相撲場 一 函巻將棋 各十面

圖書室 一 電器ラジオ 六ヶ

(2) 演 藝 場

上海演藝 救谷人負初三千名平時ハ裕ント毎日曜日ニ主トシテ

暨其他慰問演藝場更施設シアリ

3 其他利用シ得ル氏園地版

軍政規定集

昭和十八年十一月十一日
第三號

馬來軍政監部

馬來監達第二八號

慰安施設及旅館營業取締規程制定ノ件達

部 内 一 般

慰安施設及旅館營業取締規程左ノ通定ム

昭和十八年十一月十一日

馬來軍政監

慰安施設及旅館營業取締規程

第一章 總 則

第一條 本規程ハ軍人軍屬並ニ一般邦人ヲ對

象トスル慰安施設及旅館ノ整備並ニ營業取

締ニ關スル事項ヲ規定ス

第二條 本規程ノ運用ニ當リテハ常ニ軍卜緊

密ナル連絡ヲ保持シ之方協調ニ努ムヘシ

第三條 慰安施設及旅館ハ軍人軍屬並ニ一般

邦人ノ志氣ヲ昂揚シ日本人タルノ品格ヲ保

持スルコトヲ主眼トス

第四條 慰安施設ハ處理上之ヲ左ノ如ク區分

ス

一 娛樂施設(映畫、演劇、演技、讀書、

音樂、運動)

二 飲食施設(喫茶、食堂、料理屋)

三 特殊慰安施設(慰安所)

第五條 慰安施設ハ特ニ下士官以下ノ教育情

操ヲ助成スル堅實ナル娛樂施設ノ整備ヲ第

一義トシ飲食施設及特殊慰安施設ハ必要ノ

最少限度ニ止メ且ツ酒亂ニ陥リ易キ(例ヘ

ハ日本式カフエトノ如キ）施設ハ之ヲ避ク
ルモノトス

第六條 飲食施設及特殊慰安施設（慰安所）ハ
其ノ營業場所等ヲ考慮シ現地人ニ對スル文
化施策ニ惡影響ヲ及ボサザル如ク努ムヘシ

第七條 慰安施設ノ經營者ハ邦人ニ限定スル
ヲ本則トスルモ從業員ハ爲シ得ル限り現地
人ヲ活用シ邦人ノ使用ハ必要最少限度ニ止
ムルモノトス

第八條 慰安施設營業チ左ノ如ク區分ス

一 軍專用

一般人ノ出入利用ヲ許サザルモノ

二 軍利用

一般人ノ出入利用ヲ許スモ軍人軍屬ニ對
シ特ニ利便ヲ與フルモノ

三 其ノ他ノ營業

右以外ノモノ

第九條 軍專用及軍利用ノ認定ハ軍ニ於テ行
フ

第十條 本規程ニ於テ軍トアルハ第二師團長
又ハ第二師團長ノ指示スル獨立守備隊長ヲ
謂フ

第十一條 海軍ノ所管ニ屬スル慰安施設及旅
館ハ軍政機關ニ於テ關與セザルモノトス

第二章 營業處理

第十二條 左記事項ハ地方長官ニ於テ處理ス
ヘシ

一 營業ノ許可、禁止、停止

二 營業ノ讓渡及營業所移轉ノ許可

三 稼業婦ノ就業及就業所變更ノ許可

四 營業者及稼業婦ノ廢業許可

第十三條 地方長官ニ於テ軍專用及軍利用ノ
認定並ニ取消ノ要アリト認ノクルトキハ其

ノ事由ヲ具シ軍政監ニ報告スヘシ

第十四條 軍政監前條ノ報告ヲ受ケタルトキ

ハ意見ヲ附シ軍ニ要請スルモノトス

第十五條 地方長官ニ於テ營業者及従業員ノ

轉業轉籍ニ關スル許可申請ヲ受理シクルト

キハ實情調査ノ上意見ヲ附シ軍政監ニ進達

スヘシ

第十六條 地方長官ニ於テ邦人ノ營業經營者

及従業員呼寄ノ要アリト認ノタルトキハ關

係者ノ呼寄證明願ニ其ノ事由ヲ具シ軍政監

ニ報告シ其ノ決定ヲ得テ處理スヘシ

第十七條 軍政監前條ノ報告ヲ受ケタルトキ

ハ意見ヲ附シ軍ニ申請スルモノトス

第十八條 地方長官ハ營業處理ニ關シ左ノ各

號ニ準據スヘシ

一 開設ニ關シ軍ノ要望又ハ軍政監ノ指示

アルトキハ家屋設備ノ貸與等ヲ斡旋シ且

ツ敵産ニカカルモシザルトキハ敵産管理

ノ諸規定ニ依リ處理スルコト

二 營業ノ整備並ニ營業者及従業員ノ處分

ニ關シ軍ノ要望アルトキハ其ノ要望ニ從

ヒ處理スルコト

第十九條 本規程ニ依リ許可スル一般邦人ノ

專用ニ供スヘキ旅館ノ經營者ハ邦人ニ限ル

第二十條 軍專用及軍利用店ノ販賣價格、代

金、サービス料等ハ別途定ムル所ニ依ル

第二十一條 地方長官ハ慰安施設及旅館ノ營

業者並ニ従業員ニ對シ毎月一回健康診斷ヲ

行フヘシ

前項ノ外稼業婦ニ對シ毎週一回檢査ヲ行フ

ヘシ

第二十二條 地方長官ハ一般衛生管理ニ關シ

必要アルトキハ關係軍隊ニ援助ヲ求ムルコ

第三章 監 督

第二十三條 地方長官ハ各營業者及従業員ニ對シ馬來監達第二十九號慰安施設及旅館營業遵守規則（以下單ニ遵守規則ト稱ス）ノ勵行ニ付取締ヲ行フベシ

第二十四條 新ニ營業ヲ許可セントスルトキハ遵守規則ノ勵行ヲ許可條件トシ既設營業ニ對シテハ之ニ據ラシムル如ク措置スベシ

第二十五條 地方長官ハ營業開設ニ當リテハ公安風俗及衛生上支障ナキ樣營業所ノ構造設備ヲ爲サシムベシ

第二十六條 地方長官ハ慰安施設及旅館營業者名簿並ニ稼業婦名簿（樣式適宜）ヲ備付ケ異動ノ都度整理スベシ

前項ノ外稼業婦ニ對シ證票（樣式適宜）ヲ交付シ就業中之ヲ携帶セシムルモノトス

四

第二十七條 地方長官ニ於テ軍專用及軍利用營業ノ許否並ニ禁止處分ヲサントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ軍政監ニ稟申スベシ

前項以外ノ處分ニ於テモ特別ノ事情アルトキ亦同ジ

第二十八條 地方長官ハ本規程ニ依リ處理シタル事項ハ其都度軍政監ニ報告スベシ

第二十九條 本規程施行ノ爲必要ナル取締事項ハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得

第四章 雜 則

第三十條 支部ニ於テ從來實施セル事項ニシテ本規程ニ反スルモノハ漸次本規程ニ據ル如ク措置スベシ但シ簿冊ノ如キ支障無キ限リ從來ノモノヲ用ユルコトヲ得

附 則

本規程ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十八年十月五日馬來監達第二十四號慰安施設及旅館營業取締規程ハ之ヲ廢止ス

馬來監達第二九號

慰安施設及旅館營業遵守規則制定ノ件達

部 内 一 般

慰安施設及旅館營業遵守規則左ノ通定ム

昭和十八年十一月十一日

馬來軍政監

慰安施設及旅館營業遵守規則

第一條 慰安施設及旅館營業者ハ軍及軍政監部ノ別ニ指示スル事項ノ外本則ヲ遵守スヘ

シ

第二條 慰安施設營業者ハ營業ノ區分ニ從ヒ店頭見易キ個所ニ附表第一號ノ標識ヲ掲クベシ但シ軍關係ニ非ザルモノハ此ノ限リニ在ラズ

第三條 從業員ヲ雇入レ又ハ解雇シタルトキハ其都度附表第二號様式ニ依リ所轄地方長官ニ届出ツベシ但シ遠隔ノ地ニアリテハ所轄警察署ヲ經由スルコトヲ得

第四條 營業者ハ附表第三號及第四號様式ノ從業員名簿ヲ備付ケ異動ノ都度整理シ置クベシ

第五條 營業者ハ各營業種別毎ニ組合ヲ組織シ所轄地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第六條 營業者稼業婦ヲ雇入レタルトキハ別冊藝妓、酌婦、雇傭契約規則ニ基キ雇傭契約ヲ定メ所轄地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第七條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

- 一 外部ヨリ見透シ得ル場所ニ於テ婦女子ヲシテ客ト戯レ或ハ異様ノ服裝又ハ見苦シキ姿態ヲナサシメザルコト
- 二 婦女子ヲシテ遊興ヲ勧誘セシメザルコト
- 三 婦女子ヲシテ客ニ随伴外出セシメザルコト
- 四 社交ダンスヲ行ハシメザルコト
- 五 旅館ニ於テハ婦人ヲ客室ニ出入セシメザルコト
- 六 「レコード」及樂器類ハ十七時以降二十時迄ノ使用差支ヘナキモ頽廢的ノ歌詞音樂類ノ演奏及擴聲器ノ備付ヲナサザルコト
- 七 營業所ハ常ニ清潔ニシ衛生上遺憾ナキヲ期スルコト

六

八 従業員ノ保健衛生上必要ナル設備ヲナ

シ又冗費ヲ節約セシメ堅實ナル生活ヲナサシムル様常ニ指導監督スルコト

九 營業時間ハ二十二時ヨリ二十四時迄トス

一〇 客室(特殊慰安所ヲ除ク)及裝飾燈ノ全部並ニ屋外照明燈ノ大部ハ二十四時ニ滅燈スルコト

一一 何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ客ニ

所定以外ノ料金を請求セザルコト

第八條 營業者ハ所定ノ販賣價格料金をサービ
ス料其他之ニ準ズルモノヲ各客室ニ揭示シ
置クベシ

第九條 營業者及従業員ハ地方長官ノ指示シ
タル所ニ依リ健康診斷ヲ受クベシ稼業婦ハ
前項ノ外檢査ヲ受クベシ

第十條 營業者及従業員ハ軍ノ衛生巡察ヨリ
指示注意ヲ受ケタルトキハ之ニ従フベシ

第十一條 稼業婦ハ就業認可ヲ受クルニ非ザレバ就業スヘカラズ

檢査ノ結果病毒感染セリト認メラレタル者ハ全治ノ認定アル迄就業スベカラズ

第十二條 營業者及従業員ハ軍政監ノ許可ヲ受クルニアラザレバ轉業轉籍ヲ爲スコトヲ待ズ

前項ノ許可申請ハ所轄地方長官ヲ經由スベシ

第十三條 營業者及稼業婦ニシテ廢業セントスルトキハ所轄地方長官ニ願出許可ヲ受クベシ

第十四條 經營者ハ營業開始ニ當リ敵産ニ付テハ敵産管理人トシテ所要ノ整理ヲ爲スベシ

前項ノ敵産ハ非敵産物件ト區分整理スルモノトス

第十五條 兵站旅館ニ於テ一般人ヲ宿泊セシメタルトキハ規定料金ノ外左ノ金額ヲ徴收スベシ

- 一 將官待遇 五圓
- 一 佐官待遇 四圓
- 一 尉官待遇 三圓

前項ノ徴收額ハ軍政監ニ納付スベシ

第十六條 營業者(兵站旅館ニシテ一部ノ委託經營ニ屬スルモノヲ除ク)ハ現金出納簿(樣式適宜)ヲ備ヘ尙所要ニ應シ補助簿ヲ備ヘ日收支ヲ明確ナラシムベシ

第十七條 營業者(除特殊慰安施設營業)ハ左ノ各號ノ決算書ヲ所轄支部警務部經由ノ上軍政監ニ提出スベシ

- 一 毎月附表第五號ノ收支計算書
- 二 六ヶ月毎ニ附表第六號ノ資産負債内譯

表

第十八條 特殊慰安施設(慰安所)營業者ハ毎月附表第七號ノ收支計算書ヲ翌月十日迄ニ所轄支部警務部經由ノ上軍政監ニ提出スベシ

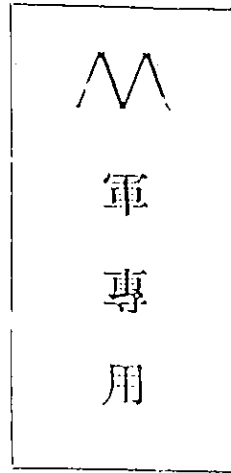
第十九條 營業者ハ本則ノ外地方長官ノ指示命令ヲ遵守スヘシ

附 則

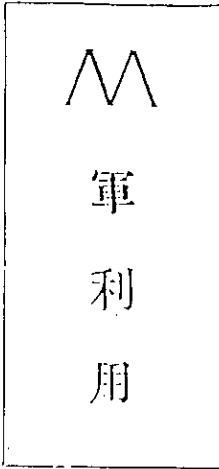
本規則ハ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附表第一號

一 軍専用



二 軍利用



大キサ

縦八十糎

横三十糎

程度ヲ超

ヘザルコ

ト

附表第二號

州(市)長官殿 營業所 營業者	昭利 年 月 日 營業所	解雇年月日	雇入年月日	從業ノ種別	種族	年 齡	性 別	氏 名	住 所	本 籍

從業員雇入(解雇)届

印

附表第三號

一 従業員名簿(其ノ一)

昭和	年	月	日起
従業員名簿			
營業者	屋	號	

附第表四號
從業員名簿(其ノ三)

			從業種別	
			氏名	
			年	齡
			性	別
			種族別	
			本籍	
			所籍	
			雇入解雇	雇入(解雇)年月日

附表第五號

收 支 計 算 書

昭和 年 月 分

業種 屋號 氏名

收 入			支 出		
科 目	摘 要	金 額	科 目	摘 要	金 額
軍支拂宿泊料	名分		營 業 費		
向食事料	名分		勞 務 費		
一般人支拂宿泊料			給 料	人	
料理收入			賃 金	人	
飲料收入			平 當	人	
花代總收入			飲 料 購 入		
接待料收入			材 料 購 入		
雜 收 入			參 妓 支 拂		
			接 待 料		
			給 仕 割 戻 額		
			諸 公 課		
			酒 付 金		
			雜 費		
(差引損失)			(差引益金)		
	合 計				
			合 計		

一三

注意 1. 料理店喫茶店旅館等業種ニヨリ科目ヲ適宜取捨シ又ハ新設スルコトヲ得

2. 營業費中ニハ經營者所有ノ不動産(諸設備ヲ含ム)ノ償却ヲ含ム

以上御店ニ及候也

昭和 年 月 日

右(營業者氏名)

馬 來 軍 政 監 殿

馬 來 軍 政 監 殿

馬 來 軍 政 監 殿

附表第六號

資 產 負 債 內 譯 表

昭和 年 月現在
業種 屋號 氏名

資 產			負 債		
科 目	内 譯	金 額	科 目	内 譯	金 額
固 定 資 產			資 本		
營業用設備什器			自 己 資 金		
			借 入 資 金		
開 業 費			買 掛 金		
貸 付 金			從 業 員 預 金		
賣 掛 金			何 々		
棚 卸 資 金					
預 金					
現 金					
何 々					

一四

右御届ニ及候也

昭和 年 月 日

右(營業者氏名)

馬來軍政監殿

附表第七號

收支計算書

昭和 年 月 分

何々俱樂部

營業者氏名

收 入			支 出			
科 目	摘 要	金 額	科 目	摘 要	金 額	
玉代總收入			玉代 (稼業婦=拂戻)			
雜收入			賄 費			
			尤 惠 費			
			衛 生 費			
			組 合 費			
			家 賃			
			給 料			
			營 繕 費			
			備 品 費			
			雜 費			
			本月利益			

備考1.投資額(稼業婦=貸與シアル前借金及開業迄=特=要シタル經費)
 (イ)當初ノ金額
 (ロ)現在迄=回收シタル額
 前月迄ノ回收額
 本月回收額
 計
 (ハ)差引未回收額
 2.人員數 (イ)稼業婦 名 (ロ)其他使用人 名
 右御届ニ及候也
 昭和 年 月 日
 右何々 (印)
 馬來軍政監殿

一五

資産負債内譯表説明事項

- 一、木表ノ勘定科目ハ業態ノ主要項目ニ就キ設定シタルモノナルヲ以テ指定以外ノ資産負債ニ對シテハ經營者ニ於テ其ノ性質ヲ明確ナラシムヘク科目ヲ區分設定シ各勘定科目ノ月末現在高ヲ計上スルモノトス
- 二、固定資産ニハ開業ノ爲ニ要シタル建物及工作物ノ新築模倣替ヘ等ニ要シタル金額ヲ計上ス
- 三、營業用設備什器ハ當該科目ノ初度調辨額ヲ計上シ別ニ定ムル原價償却法ニ依ル
- 四、開業費ニハ開業ニ至ル間ニ於ケル従業員ノ給料及旅費其他ノ諸掛ヲ計上ス
- 五、貸付金ニハ從業婦ニ對シテ貸付ヲ爲シタル債權額ヲ計上ス
- 六、買掛金ニハ月末現在ニ於ケル未收入金ヲ

計上ス

- 七、買掛金ニハ仕入シタル諸材料品ニ對スル未支拂金ヲ計上ス
- 八、損益計算上諸公課及支拂利子等ニ對シ期間計算ヲナシタル引當金ニ對シテハ之ヲ負債ニ計上スルモノトス
- 九、固定資産ノ減價償却ハ

旅館 年 料理屋 年

(別冊)

藝妓、酌婦雇傭契約規則

- 第一條 營業者藝妓酌婦(以下稗業婦ト稱ス)ヲ雇入レントスルトキハ其ノ契約ヲ左記標準ニ依リ爲スベシ
- 但シ從來ノ契約中稗業婦ノ利益ニ屬スルモノニシテ其ノ契約ヲ存續セントスルトキハ此ノ限りニ在ラズ

一 稼業婦が稼業ニ依ル收益金ヨリ強制貯金ヲ控除シタル残高ノ收得歩合ハ左記ニ據ルヘシ

(イ) 稼業婦稼高ノ配當歩合

債務残額 雇主所得 本人所得

千五百圓以上 六割以内 四割以上

千五百圓未満 五割以内 五割以上

無借金 四割以内 六割以上

(ロ) 前借金及別借金ハ總テ無利息トス

第二條 稼業婦ニ屬スル左ノ費用及物品ハ雇

主ノ負擔トス

一、居室、戸棚、衣類箆筒、消毒用器具

二、寝具一式

三、食費、燈火

四、消毒藥品

五、健康診断ニ要スル費用

第三條 雇主ハ稼業婦ノ毎月稼高ノ百分ノ三

ヲ地方長官ノ指定スル郵便局ニ稼業婦本人ノ名儀ヲ以テ貯金シ稼業婦廢業ノ時本人ニ交付スルモノトス

第四條 稼業婦ノ配當所得金ヲ以テスル前借

金返済ハ毎月其所得ノ三分ノ二以上トシ残

金ハ稼業婦ノ自由トス

第五條 稼業上ニ起因スル妊娠分娩及疾病ニ

要スル諸費用ハ雇主、稼業婦折半負擔トシ

其ノ他ニ起因スルモノハ稼業婦ノ負擔トス

但シ此ノ場合ニ於テモ雇主ハ見舞金トシテ

適當ノ補助ヲナスモノトス

第六條 遊客其他ヨリ稼業婦ニ於テ直接收受

シタル金品ハ總テ稼業婦ノ收得トス

第七條 遊興費ノ不拂ハ總テ營業主ノ負擔ト

ス

第八條 稼業婦廢業シタルトキハ雇主ハ稼業

當日迄ノ稼高ヲ精算スベシ

第九條 稼業婦が本契約締結ノ日ヨリ滿六ケ

月以内ニ於テ雇主ノ意ニ反シテ解約セシト

スルトキハ雇主ニ對シ相當額ノ違約金ヲ補

償スルモノトス但シ其ノ金額ハ所轄地方長

官ノ承認ヲ得テ決定スベシ

第十條 雇主ハ様式第一號ノ貸借計算簿及様

式第二號ノ稼高日記帳各二通ヲ調製シ其ノ

各一通ヲ稼業婦ニ交付シ毎月末計算ノ上整

理シ置クベシ

第十一條 稼業婦一時ニ別借百圓以上爲サン

トスルトキハ所轄地方長官ノ認可ヲ受クベ

シ

第十二條 左ノ場合ニ於テハ貸借計算簿及稼

高日記帳ヲ所轄地方長官ニ提出シ檢閲ヲ受

クベシ

一、稼業婦ノ開業就業所ノ變更又ハ廢業セ

ントスルトキ

二、別借金ノ認可ヲ受クルトキ

三、契約ヲ變更セントスルトキ

四、亡失、毀損等ニ依リ帳簿ヲ變更セント

スルトキ

第十三條 本則ニ定メタル事項以外ノ雇傭關

係ヲ契約セントスルトキハ其都度所轄地方

長官ノ認可ヲ受クベシ

第十四條 本則施行ノトキ契約シアルモノハ

本則ニ依リ契約シタルモノト看做ス但シ稼

業婦ノ不利益トナル事項ハ本則ニ適合スル

如ク變更スベシ

昭和
年
月
日起

貸
借
計
算
簿

軍專(利)用
(屋號)

營業者氏名
氏名
氏名

昭和
年
月
日起

稼
高
日
記
帳

軍專(利)用
(屋號)

營業者氏名
藥名
氏名

稼高日記帳

三三
月分

月 日	稼 高 金 額	印	月 日	稼 高 金 額	印
一 日			十二 日		
二 日			十三 日		
三 日			十四 日		
四 日			十五 日		
五 日			十六 日		
六 日			十七 日		
七 日			十八 日		
八 日			十九 日		
九 日			二十 日		
十 日			二十一 日		
十一 日			二十二 日		

係 主 田	任 主任 内田	長 長 長
-------------	---------------	-------------

⑤1 檢徹成績ノ件通報「イロイロ患者療養所」(昭17・5・12、12・27)★

陸軍

山鹿第一〇隊

檢徹成績ノ件通報

昭和十七年五月十一日

イロイロ患者療養所

内田

イロイロ憲兵分隊御中

第一慰安所本日ノ檢徹成績尤記ノ通り通報ス

尤記

被検査者姓名

検査成績

病名

[Redacted names]

可
可
可
可
可
可
不可

腔部糜爛



							昭和 17 年
12	11	10	9	8	7	6	5
月	月	月	月	月	月	月	月
27	3	5	1	5	7	9	12
日							
	10	13	10	11	13	15	19
	27	19	22	18	20	23	26
	日						
		27	29	25	28	29	29
		日	日	日	日	日	日

別紙

█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	氏
█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	名
可	可	可	不可	可	可	不可	可	可	可	可	可
						腔部 ピラシ					病
			月經								名
											備
											考

陸軍

係	主任	
土田		

山原二六號

検査成績ノ件 通牒

昭和十七年五月二十六日

イノ口忠若 齋養計

宮尾 彦 啓



首題 三箇之件 左記ノ通りニ付 通牒ス

左記

氏名	年齢	可否	病名	氏名	年齢	可否	病名
■■■■	一七	可		■■■■			左
■■■■	一八	可		■■■■			月経
■■■■	二〇	不可	腹部腫瘍	■■■■		可	
■■■■	一八	可	皮膚病?	■■■■		不可	頸部カク
■■■■	三一	可		■■■■	一六	可	
■■■■	一六	不可	外陰部腫瘍	■■■■	一九	可	
■■■■	一八	可		■■■■	一八	可	

陸 軍




係 土田	主任 	
---------	--	--

山脈第一八號

模倣成績ノ件報告








昭和十七年五月二十九日

イ号患者療養所 

憲兵隊市中

首題ニ関スル件左記ノ通り通報ス

左記

氏名	年齢	病名	良否	摘要
	二二	ナシ	可	
	一五	ナシ	可	
	三二	ナシ	可	
	二六	ナシ	可	
	二三	ナシ	可	
	二	ナシ	可	
	二四	ナシ	可	

陸軍

二	二	一	二	二	二	一	二	二	二	一	二
五	一	八	二	七	マ	九	マ	四	三	九	七
	カ	ナ	腔部 瘰癧		カ	リ	カ	リ	リ	ナ	リ
		可	不可		ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ
月 經				月 經							



昭和十七年六月九日
檢徽成績ノ件

イロイロ兵站支那醫務室 (松村)

首題ニ關スル件左記ノ通ニ付

左記

[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	氏名	
十七才	十六才	十六才	十九才	十七才	二十才	十八才	三十一才
可	可	々	々	月經	可	可	可
輕度ノ麻痺							
			[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
			十八才	十八才	二十一才	二十五才	十七才
			月經	可	可	否	可
						脛部糜爛	
							病名

陸軍

53

梅澤成續ノ件

昭和十七年六月九日

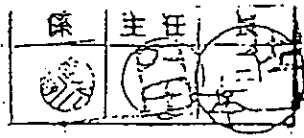
前題ニ關スル件左記ノ通ニ付

イロイロ兵站支那醫務官(松村)

左記

[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	氏名
二十五才	二十二才	二十二才	二十才	二十才	二十三才	二十六才	十九才	年
可	可	可	可	可	月經	可	可	可否
								病名
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	氏名
二十四才	三十才	二十六才	三十一才	二十六才	十九才	二十三才	二十才	年
否	月經	否	可	可	否	可	可	可否
痲病		鹽部癩癩			濕疹			病名

陸軍



檢徴成績ニ関スル件

イロイロ支部 駿西勢室

昭和十七年六月十五日

首題ニ関スル件一長記別紙一通 配布ス

監 印

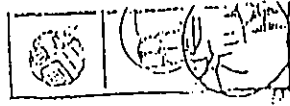
民國 卅 年 月 日

[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	氏名		
二十才	二十三才	十五才	二十六才	三十一才	三十五才	二十一才	二十三才	十九才	二十五才	二十才	二十四才	年
月經	可	可	可	可	可	不在	可	可	可	可	可	可否
						盲腸入院					腫切糜爛	病名
											[Redacted]	氏名
											二十三才	年
											可	可否
												病名

陸 軍

氏名	年	可否	病名	氏名	年	可否	病名
[Redacted]	二十才	可	陸部瘰癧	[Redacted]	十八才	可	
[Redacted]	二十才	可					
[Redacted]	二十才	可					
[Redacted]	十八才	可					
[Redacted]	十八才	可	陸部瘰癧				
[Redacted]	十九才	否					
[Redacted]	二十才	可					
[Redacted]	十六才	可	陰部潰瘍				
[Redacted]	十六才	否					
[Redacted]	三十一才	月經					
[Redacted]	三十一才	可					
[Redacted]	三十一才	可					
[Redacted]	二十一才	可					
[Redacted]	二十一才	否	陸部瘰癧				
[Redacted]	二十一才	可					
[Redacted]	二十一才	可					

陸部瘰癧



檢査成績ニ因スル件

昭和十七年六月二十三日

イロイロ兵站支那密函勢多

首題ニ因ル件左記ノ通り別紙配布ス

密函兵隊古中

陸

軍

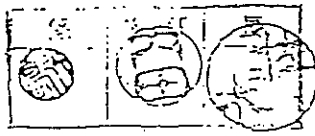


第二慰安婦

										氏名	
		二四才	二五才	三才	二六才	一七才	二才	三才	三才	三〇才	年
		可	可	可	可	可	入院	可	月經	可	可否
							盲腸				病名
											氏名
		二七才	二八才	二九才	三〇才	三十一才	三十二才	三十三才	三十四才	三十五才	年
		可	月經	月經	可	月經	否	月經	月經	可	可否
							外部濕疹				病名

第一慰安婦

陸軍



檢 査 成 績 三 圖 エ ル 件

昭 和 十 七 年 六 月 二 十 九 日

イ 日 イ 日 兵 站 支 部 販 出 教 力 室

松 村

各 隊 中

陸

軍

第一慰安所

第二慰安所

[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	氏名
十六才	十九才	十七才	十八才	二〇才	十八才	三十一才	二十七才	二十七才	十八才	二十才	十六才	年
阿	可	可	否	可	可	可	否	可	可	可	可	可否
			腔却糜爛				淋病					病名
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	氏名
		二十四才	二十才	二十三才	二十六才	三十一才	二十五才	十九才	二十三才	二十一才	三十一才	年
		月經	可	否	可	可	月經	可	可	送良生	否	可否
				腔却糜爛							腔却糜爛	病名

陸軍

第二慰安所

氏名
年
番
病
名

[Redacted]

三
天
可

[Redacted]

三
月
經

[Redacted]

三
月
經

[Redacted]

三
月
經

[Redacted]

三
月
經

[Redacted]

三
月
經

[Redacted]

三
月
經

[Redacted]

三
月
經

[Redacted]

三
月
經

[Redacted]

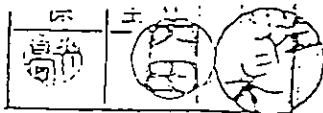
三
月
經

[Redacted]

三
月
經

[Redacted]

三
月
經



檢 徴、成績ニ関スレ件

昭和十七年七月十三日

首題ニ関スレ件別紙ヲ配布ス
 一七〇三兵站支却醫務ノ上室
 (松村)

陸

軍

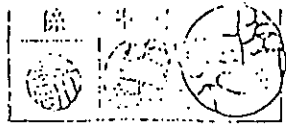
第一慰安所

[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		氏名
三十才	十八才	十八才	十八才	十七才	十七才	十八才	二十才	十八才	三十才	年
可	否	否	可	可	可	月程	可	可	否	可否
	子宮腫切症開	淋病							淋病	病名
									子宮腫切症開	

第二慰安所

[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		氏名
		二十四才	二十才	二十五才	十九才	二十一才	二十三才	二十三才	三十才	三十才	年	
		可	可	可	可	可	可	可	否	可	可否	
									病系	病名		

罪



檢 査 成 績 二 開 ス ル 件

昭 和 十 七 年 七 月 二 十 日

イロイロ兵站支部歐西務室

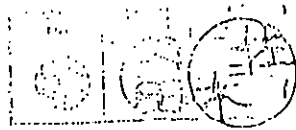
首 題 二 開 ス ル 件 左 記 一 通 二 付 通 報 ス

左 記

氏 名						氏 名
[Redacted]						[Redacted]
天	七	一八	三〇	一八	三二	一八
可	可	可	可	否	可	可
				子 宮 腫 部 糜 爛		淋 病
氏 名						氏 名
[Redacted]						[Redacted]
一	九	一	七	三	一	六
可	可	可	可	否	否	可
				淋	淋	
				病	病	
氏 名						氏 名
[Redacted]						[Redacted]
一	九	一	七	三	一	六
可	可	可	可	否	否	可
				淋	淋	
				病	病	

陸 軍

1/1



檢査成績ニ附スル件

昭和十七年七月二十八日

イロイロ兵站支部政務室(松村)

首題ニ附スル件左記通りニ付通報ス

左記

氏名							氏名
[Redacted]							[Redacted]
天	天	一七	一八	一六	三	一八	年
可	可	纏	可	可	可	可	日
					子宮腫		病
					静脈瘤		名
[Redacted]							[Redacted]
三	一	一七	一六	二	一八	一八	年
否	可	可	否	可	可	可	日
淋			淋				病
病			病				名

以上第一慰安所

陸軍



檢 査 成 績 二 開 入 件

昭 和 十 七 年 八 月 五 日

口 口 兵 社 支 部 西 方 室 (松村)

首 題 二 開 入 件 左 記 一 通 二 付 通 報 入

左 記

							氏 名
八	八	六	七	六	三	八	年 月 日
可	可	可	否	可	可	可	病
			淋				病
			病				
							氏 名
			六	九	七	六	年 月 日
			可	可	可	否	病
						淋	病
						病	病

以 上 第 一 慰 安 所

陸 軍

係	主任	役
島	(印)	(印)

検
 懲成績ニ関スル件

昭和十七年八月十一日

イロイロ兵站支
 部西啓字
 (印)

首題ニ関スル件左記ノ通
 リニ付通報ス

左記

氏名
 年
 可
 病
 名
 氏名
 年
 可
 病
 名

[Redacted]							
八	天	七	八	天	三	八	八
可	可	否	可	可	経	否	可
		淋				子宮腫部糜爛	
		病					
[Redacted]							
二	九	五	六	九	七	六	八
可	可	経	経	可	可	否	可
						淋	
						病	

陸軍

係	主任	

昭和十七年八月十八日

検徴成績ニ附キル件

八月拾九日

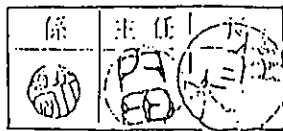
イロイロ兵站支部 西務方室 (秘封)

首題ニ開スル件左記ノ通りニ付通報ス

左記

氏名新	旧	名年	署病	名	氏名新	旧	名年	署病	名
		八	可				六	否	淋病
		八	可				七	可	
		六	可				九	可	月経
		八	可				六	可	
		六	可				五	可	
		八	可				九	月経	
		八	可				二	月経	

陸軍



檢 徵 成 績 二 関 ス ル 件

昭和十七年八月二十五日

台口兵站支那敵西教力宰

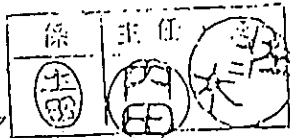
首題ニ関スル件 左記ノ通ニ付テ通報ス

左記

							氏名
六才	三才	七才	一才	一才	三才	六才	年
可	可	否	可	可	可	可	可否
		淋病					病名
							氏名
三才	三才	六才	一才	一才	三才	六才	年
可	可	可	可	否	可	可	可否
				干定程部糜爛			病名

陸軍

三才	元才	三才	三才	二才	三才	三才
月格	可	可	可	否	可	可
				急性氣管炎		
			三才	元才	三才	三才
			否	可	否	可
			急性氣管炎		淋病	



第一慰安所

檢査成績ニ関スル件

昭和十七年九月一日

白百合兵站支那醫務室

首題ニ関スル件左記ノ通りニ付テ通報ス

左記

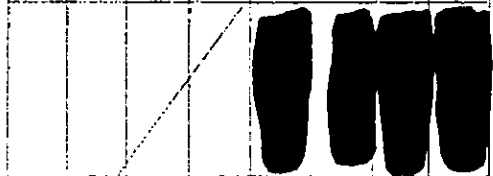
陸軍

[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
一才	二才	三才	四才	五才	六才	七才
可	可	可	可	可	可	可
子官腔却癒病		淋病				
			[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
			一才	二才	三才	四才
			否	可	可	不在
			淋病			

所安慰二第



三才	三才	三才	三才	三才	三才	三才	三才
可	可	月經	可	可	可	可	可



			三才	三才	三才	三才
			可	月經	可	月經

保	主任	姓

[REDACTED]

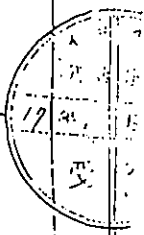
六	六	六	天	七	天	三	八
可	可	可	可	否	可	可	否
				淋			子宮腔管カタル
				病			病
							名

首題ニ附スル件左記ノ通りニ付通報ス
左記

昭和十七年九月三日

検 査 成 績 三 開 ス ル 件

イロイロ島支部 西野務方 皇 (松村)



[REDACTED]

	二	三	二	二	一	一	氏名
	否	否	可	可	否	可	年
	子宮腔部摩滅	淋	淋		子宮腔管カタル		可否
(以上才一慰安所)	病	病			病		病
							名

[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	氏名
三	三	三	三	三	三	年
可	可	全	休養中	可	可	可否
						病
						名
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	氏名
三	三	三	三	三	三	年
可	可	月經	可	否	月經	可否
				外陰部濕疹		病
						名

(以上不三付安所)

第	區	部	名
		酒井	大島

[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	氏名
九	七	六	六	六	三	六	年
月	否	可	可	可	可	可	可否
	子宮腔部療用						病
							左記

昭和十七年十月十三日
 検査成績ニ附スル件
 首題ニ開スル件左記ノ通クニ付通報ス
 イロイハ兵站支部醫務室(附)

[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	氏名
	二	二	三	一	三	二	年
	可	可	否	否	可	可	可否
(以上第一慰安所)			淋				病
		全					名

陸軍

[Redacted Name]							氏名
一九	二一	二三	三三	三三	三六	三五	年
可	可	月經	可	休養中	可	可	可否
							病
[Redacted Name]							氏名
二〇	二〇	二九	二六	二六	二四	三二	年
可	可	可	月經	可	月經	可	可否
							病
							(休養中)
							名

(以上第一慰安所)

(附在表一表)

宇野 宇野

係	任上	長班	長分
天鳥		酒井	水谷

[Redacted Names]

三	七	八	八	天	天	三	六
可	可	可	可	可	可	可	可

氏名年可否

病

左記

[Redacted Names]

	九	三	二	九	五	天
	可	可	可	可	可	可

氏名年可否

病

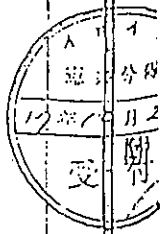
名

首題ニ關スル件
左記、通リニ付通報ス

イロイロ兵站支
部隊事務室
松村

昭和十七年十月十九日

檢
鑑
成績ニ關スル件



(以上第一慰安所)

[Redacted]								氏名
二六	二六	二四	二二	一九	三三	三三	三一	年
可	可	可	可	可	可	可	可	可
								病
[Redacted]								氏名
		二一	二六	二五	二〇	二〇	一九	年
		月經	月經	月經	可	可	可	可
(以上第二慰安所)								病
								名



検査成績ニ関スル件

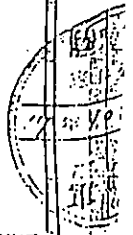
昭和十七年十月二十七日

首題ニ関スル件左記ノ通りニ付通報ス
イロイロ兵站支部醫務室(料)

左記

[Redacted]							氏名
三	八	八	六	六	三	六	七
可	可	可	可	可	可	可	可
[Redacted]							病
[Redacted]							名氏
[Redacted]							名
[Redacted]							年
[Redacted]							可
[Redacted]							病
[Redacted]							左

(以上第一慰安所)

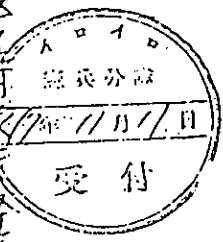


係				班		分隊	
D	U	(M)	(H)	(酒)	(大)		
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	世	井	大	會
二	二	一	一	名	弟	一	慰
口	六	六	八	年	一	慰	安
可	可	可	可	令	取	取	取
又	可	△	△	績	績	績	績
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	姓	弟	二	慰
二	二	三	二	名	二	慰	安
三	五	一	九	年	取	取	取
可	可	可	可	令	績	績	績

一、檢徽成績左記
 通報
 通報
 通報

通報

十月十日イロイロ警備隊医務室



左記

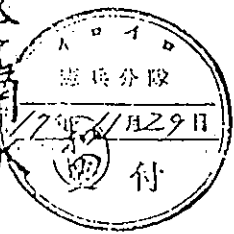
z	J	α	T	y	r	h	e	A	z	v	m
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
=	一	一	一	=	=	一	一	三	三	一	一
五	六	九	八	一	五	九	八	一	口	九	七
月	月	月	不	不	月	月	月	月	可	可	可
月	月	月	淋	癩				脛			
			病	癩		リ	十	糸	人	ト	カ
						■	■	■	■	■	■
						一	=	=	=	=	=
						九	口	口	口	四	=
						不	可	月	月	月	可
						淋				脛	
						病					



一檢 懲 記
 成 績 左 記
 通 報 入

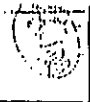
通 報

十月二十七日イロイロ警備隊



D	U	(M)	(H)	姓名	第一
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	姓名	第一
二	一	一	一	年令	二
▽	六	六	八	成	二
可	月	シ	可	績	二
ハ	ト	(カ)	ラ	績	二
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	姓名	二
三	二	二	二	年令	二
シ	四	二	九	成	二
シ	シ	シ	可	績	二

α	J	T	γ	ε	α	r	A	A	⊙	v	m
二	一	二	二	一	一	二	一	三	三	二	一
五	六	八	一	八	九	五	九	一	▽	九	七
〃	不可	腔 糜 爛	子 宮 糜 爛	內 膜 火 火	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
						△	リ	又	▽	+	△
						〃	〃	〃	〃	〃	〃
						三	一	二	二	二	二
						一	九	三	五	▽	▽
						不可	可	可	月 經	〃	〃



第一慰安所				
姓	名	年令	成	績
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
一八	一六	三一	一八	一一
"	"	"	"	可
第二慰安所				
姓	名	年令	成	績
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
二四	二五	二〇	三一	一九
"	"	"	"	可

通 報

一 檢 査 ノ 成 績 左 記 ノ 通 リ 通 報 ス

左 記

十二月二十七日イロイロ警備隊



元 木

[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
一 八	三 〇	二 五	一 九	一 六	一 八	一 六	一 九	二 九	一 七
月	"	"	"	淋	"	"	"	"	"
脛				疾					
				[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
				二 六	一 九	二 二	一 九	二 六	二 〇
				"	月	陰 部 濕 疹	淋		
					脛	疾	疾		

ICPDA 24 330-M

⑤野戰高射砲第四五大隊第一中隊陣中日誌(昭17・5・13、16)

自昭和十七年五月一日
至昭和十七年五月二十日

陣中日誌

第拾貳號 壹

野戰高射砲第四五大隊第一中隊

3-475
(32)

EXAMINED AND
NOT RECLASSIFIED
ICPDA 24 330-M

陣中日誌用紙

陸軍

五月十三日 水曜日

天候

曇勝驟雨

任務及陣地

兵站病院西南方ニ在リテ工場地帯重平施設

中部兵營強ニ東京新宿西驛ノ掩護ニ任ス

至一〇九三〇分隊放練實施放官荒木少尉

訓練命令受領

左記命令ヲ受領ス

左記

中隊命令

五月十三日 一六〇〇
又三ハヤ市

一高四五日命第四十八號ニ基キ中隊職分担ヲ左記

ノ如ク一部變更ス

左記

一陸軍准尉 桑畑豊吉

免 第二小隊長

陸軍准尉 柳原藤雄

會報受領

免人事掛

命第二小隊長

但シ當分間人事掛ヲ指導スヘシ

陸軍曹長 清永 勝

免 庶務掛

命人事掛

陸軍曹長 吉永 林合

命庶務掛

中隊長 山田中尉

左記會報ヲ受領ス

左記

會報

五月十三日一六〇
スラバヤ市

一左記を通リ48D 參謀長ヨリ注意下リタルニ付爾今

カカシ 注意ヲ再ビ受ケサル様指導相成リ度シ

左記

(一) 一般民家ニ尚立入リ物品等無断持出且亂暴ヲ働ク等ノ不徳儀ヲ犯ス者アル甚ク遺憾ナリ殊ニ兵團食堂ノ近隣ニ此種ノ事故頻發スル趣ナルニ付嚴ニ注意セシメ度シ

ニ目下兵站宿泊所休養中ノ朝鮮慰安婦ヲ無断運出ス者有リト注意アリタルニ付念ノ爲會報ス

三 五月十一日書間ヲキム映画館ニ於テ黒皮靴布一ツ48D

ニ届出アリタル由ニ付調査ノ上明會報時迄通報スル内容品 ギルタ軍票一〇円一枚 ヲソ軍票一券一枚

ジヤウ紙幣一円一枚 日本銅貨一券一枚 小形鏡一ツ

寫眞五枚 名刺六枚 御守ニ枚

四 朔五月十四日ヨリ十日間在スルハヤ駐留部隊將兵ノ慰問映画會開催ナルニ付警備並ニ勤務ニ支

ニ字挿入

集 結

命令受領

高四五日命
追加命令

會報受領

中訂兵營並ニ東京、新宿兩驛、掩護ニ任ス

高四五作命第四十九號第三項ニ基キ井上小隊ハ

二〇中隊主力陣地ニ集結完了ス

左記命令ヲ受領ス

左 記

大隊命令

五月廿六日一六〇〇
二三八ヤ市

一 陸軍少尉

大森新次

交換兵器調査ノ爲 五月十六日出發 マランニ出

張シ用済後歸隊スベシ

大隊長

王田少佐

下達法 命令受領者ヲ集テ口達筆記セシム

左記會報ヲ受領ス

左 記

會 報

五月十六日 一六〇〇
二三八ヤ市

一本十六日一四〇〇ヨリ左記ニ依リ日本慰安婦營業

ヲ開始ス

左記

南慰安所 明月組 十三名

第三將校俱樂部 曙組 十名

值 段 兵 一時間 二圓

他ハ從前通り

ニ第三將校俱樂部ニ於テハ爾今サービス料ヲ玉代ノ

半分トス

日本人 三〇分 一圓

現住民 三〇分 五〇錢

ビール一本四五錢ニ値上サル

ニ慰安所ニ於テ經營者ノ規定通りニ料金ヲ支拂ハ

ナル者アリクニ後違反者ハ處罰セラルニ付注意アリシ

昭和五
年五月十日

種 藥

四別紙禁止區域(有毒慰安婦隔離區域)ニ入リテ
嚴禁セルガ市内巡察ハ右區域ヲ巡察セラレ度シ
井上小隊ノ中隊主力ヘノ復歸ヨリ中隊彈藥現在
數左ノ通り

人 員

高射砲光銃彈 七八三發
小銃 彈 二一九〇發
中隊長以下 一〇九名

五月十日
天候 晴

日曜日

任務及陣地

兵站病院西南方ニ在リ工場地帯市重要施設
中野兵營並東京新宿兩驛ノ掩護ニ任ル

以下略

CAPTURED AT
HUMBOLT
25 MAY 44

軍事機密

⑤3 獨立自動車第四二大隊第一中隊陣中日誌(昭17・5・14)

自昭和十七年五月一日
至昭和十七年五月三十一日

陣中日誌

獨立自動車第四二大隊第一中隊

212104

212104

第八號

調製部教九部之内
第九號

第一中隊之印

WDC#
18304
396,901

八本日ノ勤務者左ノ如シ
 日直將校 守山准尉
 日直下士 戸倉兵長
 衛兵司令 中村軍曹
 九給與ハ中隊給與トス

五月廿四日

一 昭南島ニ駐留ス
 二 〇九三〇中隊(穿)ハ依然前任務ヲ續行

第三十三野戰兵隊ニ協力シテ輸送ニ在ス
 (イ) 突一小隊ハ一〇車輛ヲ以テ屑鉄及彈藥材木ヲ

アレキサンダリヨリ西埠頭ニダングリソヨリ
 「バ」 ナリピスタリボリトニ輸送夫々一九〇〇歸

隊ス

(ロ) 第三小隊ハ一〇車輛ヲ以テ屑鉄ヲアレキサン
 ダリヨリ西埠頭ニ又ハ西埠頭内ニ於テ救回輸

送シ一八三〇ヨリ歸隊ス

三 一〇〇ヨリ注射ヲ實施ス
 四 一八三〇左ノ獨自四二大日命第三九號受領ス

尾

閱砲、實包射撃ヲ實施ス

二 官制第一日ノ實施要領ハ一般ニ不良ニシテ軍

隊及軍人ニ於テ不良ナルハ嚴ニ注意ヲ要望ス

遊光設備ナク燈火、屋外ニ殘レルモノ又ハ遊

光履ノ形式的ヲ短イモノ又ハ高過キルモノ布

亦ハ紙ノ薄過キルモノニ付テ注意ス

三 夜間自動車、運行民間側ハナク軍隊軍政部新

聞社等ニシテ遊光設備ナキモノ多数アリ注意

サレヌ

一 本日ニ二〇〇ヨリノ映画、上映ハ二〇〇〇ニ

交更サル

二 最近軍人軍属ニシテ慰安所等ノ往復ニ自動車

ヲ使用スルモノ多シ揮發油節約上禁止スヘシ

六 左ノ富集參甲第四十六號受領ス

件達 在昭南部隊ノ敬禮及起立容儀振肅ニ関スル

省 略

四

〔以下略〕

⑤4 獨立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌 (昭17・5・29、30)

昭和十七、三、二十七

獨立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌

防衛研修所戦史部



罹患(初發再發)セル者及當日罹患中ノ者ヲ含ム

ニ總人員ヲ調トス(南方作戦上陸前日現在調トス)

六、本日、勤務員左ノ如シ

曰直主官 清水曹長

曰直下官 石原軍曹 曰直上軍兵 北野上等兵

車廠當番 塚田伍長 以下九名

七、亦曰、人數前日ニ同シ



一月三十九日

晴

バクビヤ

シ十八時歸營又

自十四時至十七時曰直司令、許ニ使役兵トシテ

兵一名服務ス

午後未教育者、總縱教練既教育ハ車輛、

整備ヲ密員施ス

為セザルモアリ

三 將校ノ乘車シタル自働車ニ所定ノ標旗ヲ立

テザルモノアリ

三 將校ニシテ下士官兵ノ食堂ニ多數ニテ入ルモノアリ

四 將校慰問所ニ下士官兵ノ出入スルモノアリ

九 自予時至予三時講堂ニ於テ映畫見學ヲ實施ス

十 本日ノ勤務員左ノ如シ

日直勤務前日ニ同シ

車廠當田米田細田上等兵以下八名

土 本日ノ人車數前日ニ同シ



五月三十日

晴

バタビヤ

一 霜村少尉以下九時出發附表ノ如ク輸送ニ任ジ

十七時歸營ス

ニ 炊事場工事使役兵トシテ水村一等兵服務ス

三 午前午後軍需ノ整備キ入ヲ實施ス

四 自九時三十分至二十時三十分武井軍醫ハ花柳病

地ニ外傷ニ關スル衛生學科ヲ實施ス

五 騎馬等兵退室ス

六 左ノ如ク七隊命令ヲ受領ス

一 花柳病豫防ニ關シ別紙規定ノ通定ト

檢テ五月三十一日ヨリ實施スベシ

七 左ノ如ク八隊命令ヲ下達ス

一 明三十一日左ノ通部隊衛兵ヲ命ズ

司令 德島伍長 歩哨掛 第一隊

哨ハキ 指揮班 一 歩哨 指揮班 一

歩哨 第一隊 二 歩哨 第二第三隊各三

六月一日 二日 日直下士官 德島伍長ヲ中山

軍營ニ變更ス

五月三十日第六項別紙

花柳病豫防規定

第一條

慰安婦ニ接スルハ萬止ラ得サル場合ニ限ル

第二條

慰安婦ニ接スル場合ハ必ず「サック」並ニ星秘膏ヲ使

用スルト共ニ交接後ハ直ニ陰部ノ消毒ヲ實施スベシ

第三條

慰安婦ニ接シタル場合ニハ三時間以内ニ歸營シ醫務

室ニ到リ申告簿ニ所要ノ申告ヲナスト共ニ當直軍醫

ノ診療ヲ受クヘシ

第四條

陰部ノ検査ハ每週必ず一回實施ス

第五條

交接後三時間以内ニ申告ヲ怠リ罹病セル者ハ處

分スル外前屬市長村長ニ其旨通達報スルモノトス

一字抹消

別表

慰安所ニ關スル規定

於六月六日

一 慰安所開設ニ關シ左記ノ如ク規定ス
二 開始時間

兵

自 一 〇 〇

至 一 七 〇 〇

下士官

自 一 七 〇 〇

至 二 〇 〇 〇

將校

又後

又金額

兵

一 五 〇 〇

下士官

二 〇 〇 〇

將校

三 〇 〇 〇

三日別

山口家 呂火水六

中家 日水

公休日 金曜日

外出ハ勤務ニ支障ナキニテ小家毎ニ外出セシムル
モノトス

5. 下等官ノ外出ハ所屬中家ト共ニ外出スルモノトス
一 衛生施設ニ関シテハ由中見習士官之ヲ担任スヘシ
二 其他細部ニ関シテハ各家長ニ於テニ規定スヘシ

六月十一日
本 晴
於カガヤニ

一本曰九時武陽部警長月本報裏合...

長ハ訓示ヲス

二 吉江大佐ハ本日十三時ヨリ狀況視察ノタメ武陽

隸下站部ホリノ巡視ス

三 大塚本部ハカガヤニ到着後ニ於ケル現在ノ狀況別

紙ノ如ク守備隊司令官ニ報告ス

四 本日吉江部隊日々命令別紙ノ通リ

五 前項命令書ハ別紙ノ如シ

六 大塚新隊命令令(五)別紙ノ通リ

七 本日事情報別紙ノ如シ

八 本日會報別紙ノ如シ

九 本日隊令左ノ如シ

缺字ニ正隊令ハ才五部

陸

軍

會報

六月十一日

一、慰安所設置ニ関シ左ノ通り定ム
時間

兵 一三〇〇 — 一八〇〇
下士官 一八〇〇 — 二〇〇〇
將校 二〇〇〇 以降

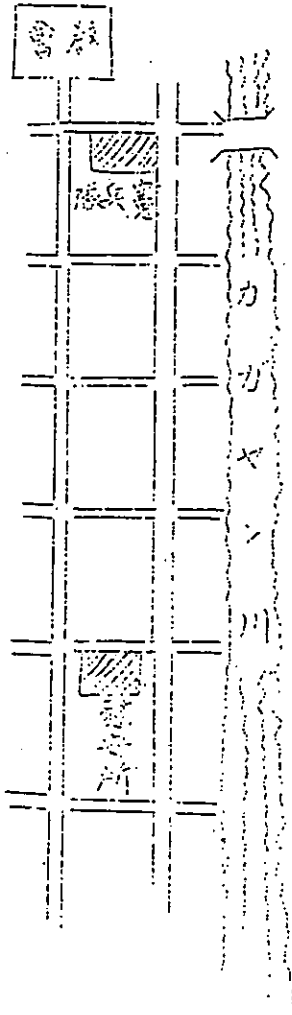
二、料金

時間	三十分	同將校及 同待遇者	下士官及 同待遇者	兵
一時	四〇〇		一五〇	二〇〇
二時	六〇〇		二五〇	二〇〇
三時	八〇〇			

前卒及後卒被

一、泊

小場所



二「フコ」東方山道五軒ノ道路破壊セノ夕メ六月十二日ヨリ約五日間

立花道路作業隊ニ於テ橋梁ヲ改修ス依テ十五日(一日間)ハ

一般ニ「カガヤン」マラライ一箇ノ通行ヲ禁止ス

⑤⑥ 情况報告 [フツアン警備隊長] (昭17・6・16)

昭和十七年六月十六日

情况報告

フツアン警備隊

山口中

尉 出

四、衛庄情態

スツアン警備隊(鉄平田隊)全員元氣旺盛ニシテ日夜警備ニ其ノ他勤務ニ奮キシツク在リ山口隊ニ患者約十名半田隊ニ約三名ニシテ其ノ等ハ主トシテアング熱患ニ苦ニシテ之ヲ予防ノタメ蚊蠅ノ驅除法舎内外ノ清潔ニ一層留意シテ兵ノ健康増進ヲ図リツク在リ

五、慰安所及酒保

此女三名ヲ以テ慰安所ヲ開設シ兵ノ慰安ニ供シツク在リ將秉女ノ増員ヲ計画シツク在リ

酒保ハ主トシテ果物、ゴロヒ、ウドシ等ヲ販賣セシメ兵ノ慰安ニ供シツク在リイストモ概シテ好成績ノ傾向ニ在リ

六、給養

鼠携行ノ糧秣意外ニ復食物ハ主トシテ附近住民ヨリ買入シ野菜肴等ハ十日程前迄アハ可ナリ不便ヲ感シテキ

國秘

昭和十七年

⑤部隊軍紀風紀肅正二對スル服務計畫提出ノ件報告「イロイロ派遣憲兵隊長」(昭17・6・25)

警務書類綴(甲)

133
保存期限
三年

イロイロ派遣憲兵隊

Handwritten signature and date: 21.12.17

4064

WD 2/69/1

6 301

163-397

14635
1200

293



係	主任	長
櫻谷	田	木

イロイロ憲敬言第一五號

部隊軍紀風紀肅正ニ對スル

服務計畫提出ノ件報告

昭和十七年六月二十五日

イロイロ派遣憲兵長 佐々木幸太郎

第一野戰憲兵隊長 大田清一殿

六月十日一野憲敬言第五三號ニ基テ首題ノ件別紙ノ通
計畫シタルニ付報告ス

發送先

隊長



(了)

部隊軍紀 區一分	風紀肅正 對正服務計畫	手 段 方 法	摘 要
<p>寄港部隊 上陸時取締</p>	<p>掠奪、強姦、離隊 (逃亡) 上官侮辱 暴行、防謀、抗命</p>	<p>(1) 岸壁附近、巡察 (2) 部隊長、 (3) 一齊取締、 (4) 慰安所、 敬米亞街、 娛樂場</p>	
<p>通過部隊 宿營時二 茶多取締</p>	<p>防謀、掠奪、強姦 賭博、逃亡、暴行 刃脅迫、上官侮辱 自殺</p>	<p>(1) 部隊長、連終宿營期 間、明カニス (2) 宿營地附近、絶、サレ巡察 安實施 (3) 言動、内查(造言、 二、三、其他犯罪關係) 詰軍機</p>	
<p>駐留部隊 取締</p>	<p>上官暴行、暴行 脅迫、侮辱、抗命 防謀、經理、非違 傷害、逃亡、掠奪 強姦</p>	<p>(1) 部隊、連終 內務刷新、狀況内查 (2) 部隊、精神教育徹底、 (3) 巡察(豫防警察) (4) 酒場、繁華街、慰安所 娛樂場、取締(視察) (5) 宿舍附近、環境、及起居 設備、適正 (6) 將校、宿舍附近、巡察 偵察、 偵察</p>	
<p>駐留部隊 外出時、 取締</p>	<p>無錢飲食(遊興) 暴行、脅迫 逃亡(離隊) 自殺、傷害 上官暴行(侮辱) 賭博、強姦 掠奪 及戰及軍策動 流言、 外出行、外出者有 濫用</p>	<p>(1) 部隊、連終 巡察 (2) 非違、犯罪、敬防 言動、内查(造言、 二、三、其他犯罪關係) (3) 一齊取締(視察) (4) 酒場 (5) 繁華街 (6) 慰安所 (7) 娛樂場 (8) 檢問所、強化 (9) 外出軍人、取締 (10) 酒販賣、制限並強烈 少年、販賣取締 (11) 暴利販賣、取締 (軍政部、協察)</p>	<p>一本計畫八當派遺隊二於了既二安實施中ノモノナリ</p>

⑤8 獨立自動車第四二大隊第一中隊陣中日誌(昭17・7・6)

軍事極秘



自昭和十七年七月一日
至昭和十七年七月三十一日

調製部教之部
第七號



陣中日誌

第拾號

W7C#11330

獨立自動車第四二大隊第一中隊



中隊命令(日命第八九號)

陸軍一等兵 小川 徳太郎

七月五日

右者頁碼ノタメ在昭南第六十八兵站病院ニ入院ヲ

命ス(横山部隊)

五本日ノ勤務者左ノ如シ

日直將校 守山准尉

日直下士 露木兵長

衛兵司令 清水(三)兵長

六、給與ハ中隊給與トス

七月六日

清

一、昭南島ニ駐留ス

二、〇九。〇中隊ハ引續キ前任務ヲ續行シヨホリ北地

區ニ至リテ、輸送ニ任ス

の第一小隊ハ小隊長山本中尉、塔禪ニ依リ一三車輛

ヲ以テ「ジヨホリ」北地方一五料地兵スクダシ

三

送スヘシ

七 一七。〇。〇。注、獨自四二大日命突五六拜受領ス

日々命令

七月四日一七。〇。朝

(他中隊、殺勳日命ニ付キ省略ス)

八 一七。〇。〇。左ノ軍會報受領ス

(1) 軍會報

七月四日一七。〇。朝

山下軍司令官ノ新任務在(地共)ニ関シテハ國軍ノ機密ニ関スルヲ以テ嚴ニ秘匿方留意セラレヌ

(2) 軍會報

七月四日一七。〇。朝

九 風紀ノ肅正並ニ防諜及恙疾豫防、爲自今軍ニ於テ設置シタル特殊慰安所以外特ニ私娼寮等ニ於テ特殊慰安ヲ求ムル事ヲ禁ス
一七。〇。〇。左ノ警備會報受領ス

昭南警備會報

七月三日

一 將校階級ヲ企圖マシ不逞圖ヲ檢察シタル處彼等ハ

將校俱樂部酒場、使用人ヲ買収シ毒藥使用ヲ準備
シアリシコト判明セリ注意セラレタシ

二自動車交通事故依然多發シテノ速度制限一般運轉
規定等ヲ嚴守スルハ勿論車体検査重量積載狀況等
ヲモ検査シ事故絶無ヲ期セラレタシ

一七。左ノ兵站指定營業者ニ對スル規定受領ス
兵站指定營業者ニ對スル規定

省略

二一八。中隊ハ軍宣傳班ニ實施スル當部隊慰問映

画ヲ芙蓉劇場ニ於テ觀覽ス

二一八三。左ノ中隊會報下達ス

會報

七月五日

一軍及警備隊ヨリ左記ノ如ク會報アリタルニ付徹底
セラレタシ

左記

三三

以下略

⑤9 戰時月報 [獨立守備步兵第35大隊] (昭17・7・31)

軍事極秘

自七月三十一日
至七月三十一日

戰時月報

獨立守備步兵第三十五大隊



① 1914年
但し和伯は
既病作

四 其ノ他

患者ナルモ三名ハ再發患者ナリ然レ共再發患者ノ症状ハ
初發ニ比シ輕症ナリ 次イテ急性咽喉炎一七名 外傷九名
ナリ 特ニ重視スヘキ疾患ノ發生ヲ認メズ
多發疾病トシテハ外被病多數發生ス 雨期ニ依ル濕度
ノ關係ニ系因スルモノト認ム

目下隸下部隊及在留邦人ノ診療 宜撫施療ヲ為シアリ
又當カグヤン市ハ慰安婦捕四名アリ 全部健康ニシテ
持ニ嚴重ナル監督指導ヲ為シアリ

軍人俱樂部規定

一 軍人俱樂部 軍人(軍屬含) 慰安ヲ求ムル所トス
 二 使用配当 日割左ノ如シ

本隊本部 行李

月曜日 第十一中隊

火曜日 機關銃中隊 歩兵砲隊

水曜日 衛生隊

木曜日 工兵隊 韜重隊 無線

金曜日 体育隊 通信 彈藥班

土曜日 午前検査

三 使用時間 左ノ通り定ム

矢 一〇〇〇
 下士官 一六三〇

四 慰安料 左ノ如シ 一七〇〇
 一九三〇

下士官兵

將校

一比五〇仙
二比五〇仙

ケツの件

但シ實施ハ一回トシ其時間ハ四十分以内トス

四十分増ス毎ニ一比宛増額トス

俱樂部ニ於テ守ルベキ件左ノ如シ

ハ慰安ヲ求メントスルモノハ心ス受付ニ於テ

番號札ヲ受ケ其順序ヲ守リ料金ハ慰安婦ニ

渡スコト

規定ヲ嚴守シ公德ヲ重シジ他人ニ迷惑ヲ及

採^テサ^ザルコト（一割五錢）ハ之ヲ慰安婦ヨリ受領シ

又豫防法ハ心ス實行シ花柳病ニ懼ラザルコト

ハ不用意ノ言動ヲ慎ミ防諜ニ注意スルコト

ハ慰安所ニ於テハ飲酒ヲ禁ズ

6. 酩酊ノ上暴行等ノ行為アルバカラザルコト
 7. 毎週土曜日昼間ハ健康診断休業トス

六、其、他

1. 俱樂部部ニ到ル下士官兵ハ中隊長(獨立小隊長
 工兵隊ハ韃韋小隊長)ノ卷行スル外出証ヲ
 携行スルモノトシ一人以上同行シ且途中市
 内ヲ漫歩セザルコト
 2. 服装ハ略装ニシテ帶劍シ卷脚絆ヲ穿ツ

⑥1 獨立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌 (昭17・8・18、24)

昭和一七、二一、二五、三二

獨立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌

防衛研修所戦史室



八月十八日



八月十八日	日道士管	日道下士管	日道上等兵
八月十九日	菱見惣管	小口伍長	柳澤上等兵
八月二十日	霜形少尉	須田軍曹	箕谷上等兵
八月二十一日	清水曹長	平野伍長	山田上等兵
八月二十二日		須井軍曹	遠田上等兵

八、本日、勤務員左ノ如シ

日道勤務者前日ニ同シ

車廠當番 田中上等兵以下七名

九、本日、人車數左ノ如シ

將校四、下士管兵一三七 計一四一

自動車前日ニ同シ

中隊長以下九時出發附夜ノ如ク行勤輸送

於テ之ガ整備ヲナシアリ

ニ別紙衛生ニ關スル注意カリ教育徹底セシメ

ラレ度

三、明十九日九時三十分各中隊（含特殊自勤

軍隊）ハ貨車ニ騎兵ニ名宛ヲ兵器委

員ノ許ニ差出シ遠衛兵長ノ指示ヲ受ケシ

メラレ度

警備會報

八月十八日

ハ左記ノ如ク慰安所（六）軍慰安所位置ニ

於テ八月十六日より開業ス

左記

慰安婦（朝鮮人）

七名

六、（又）市内出張事務所設置間興行在

軍會報

八月二十四日

一、慰安施設之關、左記事項、意見、明年
五日會報時迄、提出相成度

左記

- 1. 慰安所之導人用、軍屬用之區分、可否
 - 2. 現在慰安所之位置、適否
 - 3. 慰安所或慰安婦、増減
 - 4. 慰安所、設備之就否
 - 5. 料金之就否
 - 6. 其、他改善又、希望事項
- 右ノ事項、可成理由、附記セシ度
- 右ノ事項、部隊會報、八月三日
- 一、先頃豫報之置キ、現在除隊者、該衛

〔以下略〕

⑥2 獨立自動車第四二大隊第一中隊行動詳報(昭17・8・24)

軍事極秘

自昭和十七年八月一日
至昭和十七年八月三十一日

調製部教九部之内
第七號

行動詳報

第七拾號

WDC #11331

獨立自動車第四二大隊第一中隊



1915

リヲ渡スル等危急迄予所及皇軍ノ威容保持上衷心ニ堪ヘサルモノナリ

又管内下士官兵ノ外出時限ハ軍隊内務書ニ示サレアル如ク實施スルト共ニ外出証モ軍隊内務書ニ規定セラレタル正規ノモノヲ調製使用セシメラレ度
又待機自動車ニシテ標識旗ヲ附シタルママノモノ多ク上官車内ニ左ラサル場合ハ必ス標識旗ハ取り置ク様指導セラレ度
又西日ニ於ケル注意者別紙ノ如シ

(別紙省略ス)

二 一七〇〇左ノ軍會報受領ス

軍會報

八月二十四日

一 近時軍人軍屬ニシテ軍用車又ハ人カ車等ニ地方ノ婦女子ヨリ乘セシムルモノアリ殊ニ慰安婦等ヲ同乘セシムル者ヲ散見スルハ頗ル遺憾トスル處ニシ

(21)

テ自今嚴ニ戒慎セラレ度
 一 飲食店慰安所等ニモビール瓶「コップ」ヲ故意ニ破損
 スル者丁ルモ屢次ノ注意ニ鑑ミ嚴ニ戒メラレ度
 尚自今故意ニ破損スル者ハ業者ニ對シ辦償スルモ
 ノトス

三 將校慰安所眞砂ハ從業婦ノ監督不行屆ノ厥ニ依リ
 來ル二十五日(火)及二十六日(水)ノ兩日營業ヲ停止セ
 シムルヲ以テ同日ノ利用ヲ禁止ス

一七〇〇左ノ部隊會報受領ス

會報

八月二十四日
 南

近來交通事故ノ大ナルモノ惹起ノ傾向アリ幹部ハ次
 ノ事項ヲ良ク理解セシメ之カ絶無ヲ期スベシ
 一 作戦時ト異リ何等生命ヲ賄シテ迄速度ヲ出シ或ハ
 危険ナル操作ヲナス要毫モ無シ
 二 全ク本八ノ不注意ニ起因スル交通事故ハ其ノ程度

= 應シ將來隊長ニ於テ處分スルヲ要ス
 小事故頻發者及細心ナラサル運轉手ハ將來運轉証明
 書ヲ剝脱シ運轉セシメサル様スルニト
 4. 不注意ニ依リ死亡セル者ハ増國神社ニ合祀セサル
 如ク通牒アリ

敬禮ニ関スル件

細部ニ関シ若干疑議ヲ矣アリシヲ以テ左ノ通り定ム

一 車輶(軍獨)走行間ノ敬禮

人操縦手ハ上官ニ對シ前方ヲ直視シタル儘上体ヲ

十五度前傾シ助手(助手台ニナル者)ハ操手注目ノ

敬禮ヲナスモノトス

(部隊ヨリ甚シク離隔シ當然單獨車輶ト自覺シタ

ル場合ヲ含ム)

○ 荷櫃ニ搭乗者ハ最上級者長トナリ「気ヲ付ケ」呼

ビ向人ノ々敬禮シ他ハ上体ノ姿勢ヲ正ス

第 四	第 三	第 二	第 一	目 次
其 他	岩 安 工 作 狀 況	治 安 狀 況	概 況	

4 州別市分布状態

各州市分布状況ハ昭南市ノ二八三名ヲ最多トシ
 「ジョホール」州一三七名之ニ次デ「ネグリセンピラン」州
 ノ二名ヲ最少トス

渡來府縣別ハ朝鮮ノ一九六名 長崎縣五九名
 臺灣ノ四九名ノ順序トス

5. 教去月程度及職業別

在住邦人ノ教去月程度ハ次表ノ如クニシテ無
 學一六七名 又職業別ハ慰安婦ノ一九四名

ヲ最高トスルハ注意ヲ要ス

専問學校以上

六七
(六)

中等學校程度

一六三
(三)

小學校程度

三四一
(八)

無學

一六天
(七九)

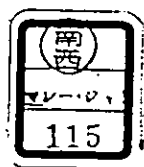
計

七三七
(二七七)

(一) 八戰前渡來在住者トス

昭和十七年九月二十八日三。

獨立自動車第三九大隊第四中隊陣中日誌



防衛研修所戦史部

三、ダンジョンプリヤ、埠頭内ニ取殺入ニ設
置ニテ、付爾今取殺入ニキ場所ニ於テハ絶
對ニ喫煙セサル様各隊ニ於テ之ガ徹底ヲ
期セシメ度

警備會報

八月八日

一、八月二十七日、バセルバルウレ、ヘチヤ上ニ於テ左記
物品ヲ拾得セリ、憲兵隊ニ於テ保管シ
タルニ付該當者調査ノ上來隊セシメテ度
左記

夏ニツ、防暑標幟(道上カ松下註記ナリ)ニ
腹巻一

二、八月二十七日、振天慰安所内、バスマ上ニ左記
物品遺棄シテ、波木部隊佐々木隊志

村任長拾得セリ(憲兵隊保管)

在 託

桑田、印鑑(カ)リニ抗戰必勝ト書シテ煙

草ナシタル一

三九日七日軍會報ニ依ル御賜煙草發

送ニ付テ、野戰郵便所ニ於テ連絡中ニ

付發送中止サレ度

尚決定次第野戰郵便所ヨリ通牒ス

七、本日、勤務員左ノ如シ

日直勤務者前日ニ同ジ

部隊衛兵 大谷軍曹以下九名

車廠當番 千場上等兵以下七名

八、本日、人車數前日ニ同ジ

⑥步兵第一聯隊第一大隊砲小隊陣中日誌 (昭17・9・8)

昭和十七年七月二十五日

步兵第一聯隊
第一大隊砲小隊
陣中日誌

防衛研修所戰史部



月日 九月八日 火曜日
天候 晴

位置 於マラッカ北部兵營

行事 一曰朝点時後馳歩及保健体操ヲ實施ス

二糧秣及酒保ヲ受領使役トシテ十七時小島一等

兵以下三名新宅伍長ノ指揮ニ入ラレム

三夕食後約一時間全員コフトボールニ依ル球

戲ヲ實施ス

會報 一軍紀風紀ニ就テ

私物褻褻ヲ著用シ外出スル下士官アリ不可ナリ

公用者ニシテ歩哨立哨ニアラザル處ヨリ出入スルモノ

アリ

一マラッカ軍人俱樂部(倫敦慰安所)ハ本八日限り

閉業セシメタルニ附屬今立入ラザル様注意相成度

以下略

⑥ 獨立守備步兵第三五大隊陣中日誌(昭17・10・5)

戰事機密

自昭和十七年十月一日
至昭和十七年十月三十一日

陣中日誌

獨立守備步兵第三五大隊

十月五日
日
於カニナラン

一、本日生田部隊日々命令ニ基キ外出日ヲ別
紙ニテ江部隊日々命令ノ通リ定ム

二、カハヤン出張中ノ吉江大隊長ヨリ司令音ニ
左記電報アリ

左記

一、アツアツ方面ノ情勢ハ逮捕セル密偵及捕

虜ノ言ヲ綜合スルニ叛乱軍ハ依然アツア

ツ其他ニ対シ企圖ヲ有スルモノノ如シ

ニ、アツアツ部隊ヲシテ積極的ニ之カ禍根

絶ツヲ速カニ、ガニナランニ復帰スル如ク指示

三、小官五日期野砲ト共ニ、ガニナランニ向フ

四、本日生田部隊會報別紙ノ如シ

五、本日吉江部隊會報別紙ノ如シ

陸

軍

〔以下略〕

生日命第一五七號

生田部隊日々命令
十月五日

一 外出日ヲ別紙第一篇ニ依リ規定ス
細部ハ各隊長ニ於テ規定スルモノトス

別紙省略

吉江部隊日々命令

十月五日
 ダンテレン



一、外出ニ関シ左記ノ通り規定ス

二、外出ハ一般ニ一ニ、三ノ後トシ必ずニ名以上

同行スルモノトス

三、民家ニ立寄ルヲ禁ズ

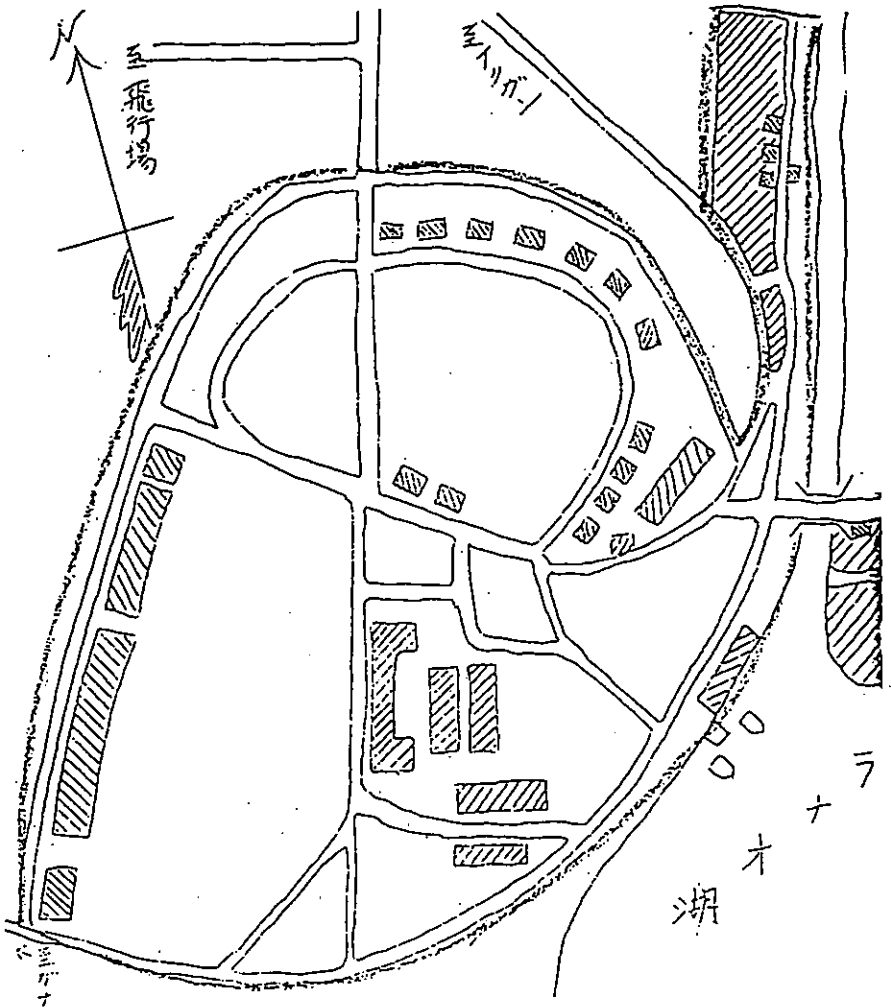
四、外出散歩區域別紙第一ノ如シ

五、慰安所使用日割表別紙第二ノ如シ

外區區域要圖

外區區域

別紙第一



別紙第二

慰安所使用日割表

曜日	使用日割表
月	田中大隊
火	司令部、竹下隊(内匠大隊)
水	吉岡隊、市原隊
木	田中大隊
金	司令部、竹下隊(内匠大隊)
土	
日	本部、村山隊、川村隊
備考	人使用時間 八、一六、〇〇迄 下士官 八一九、〇〇迄 卜ス

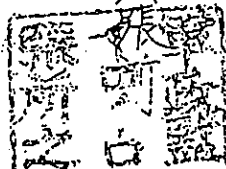
⑥慰安所規定送付ノ件 [軍政監部ヒサヤ支部イロイロ出張所] (昭17・11・22)

15-2
外

尉安所 (亞細亞會館) 第一慰安所 規定送付ノ件

昭和十七年十一月二十二日

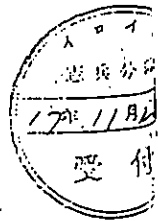
軍政監部ヒサヤ支部イロイロ出張所



イロイロ憲兵分隊 御中

首題ノ件別紙、如ク送付ス

以上



慰安所規定 第一慰安所 五細五命館

一本規定ハ比島軍政監部ビヤヤ支部イニ出張所管理地区内ニ於

ケル慰安所實施ニ関スル事項ヲ規定ス

ニ慰安所ノ監督指導ハ軍政監部之ヲ管掌ス

三警備隊醫官ハ衛生ニ関スル監督指導ヲ担侍ルモノトス

四本慰安所ヲ利用シ得ベキモノハ判服着肩用ノ軍人軍屬ニ限ル

五慰安所經營者ハ左記事項ヲ遵守スベシ

一 家屋寢具ノ清潔並日先消毒

二 洗滌消毒施設ノ完備

三 「ヤック」使用セサル者ノ遊興拒止

接客婦ノ檢査
ハ毎週火曜日
拾五時ヨリ行フ

4. 患婦接客禁止

5. 慰安婦外出ヲ嚴重取締

6. 毎日入浴ノ實施

7. 規定以外ノ遊興拒止

8. 營業者ハ毎日營業狀態ヲ軍政監部ニ報告ノ事

六. 慰安所ヲ利用セントスル者ハ左記事項ヲ嚴守スヘシ

1. 防牒ノ絶對嚴守

2. 慰安婦及樽主ニ對シ暴行脅迫行為ナキ事

3. 料金ハ軍票トシテ前押トス

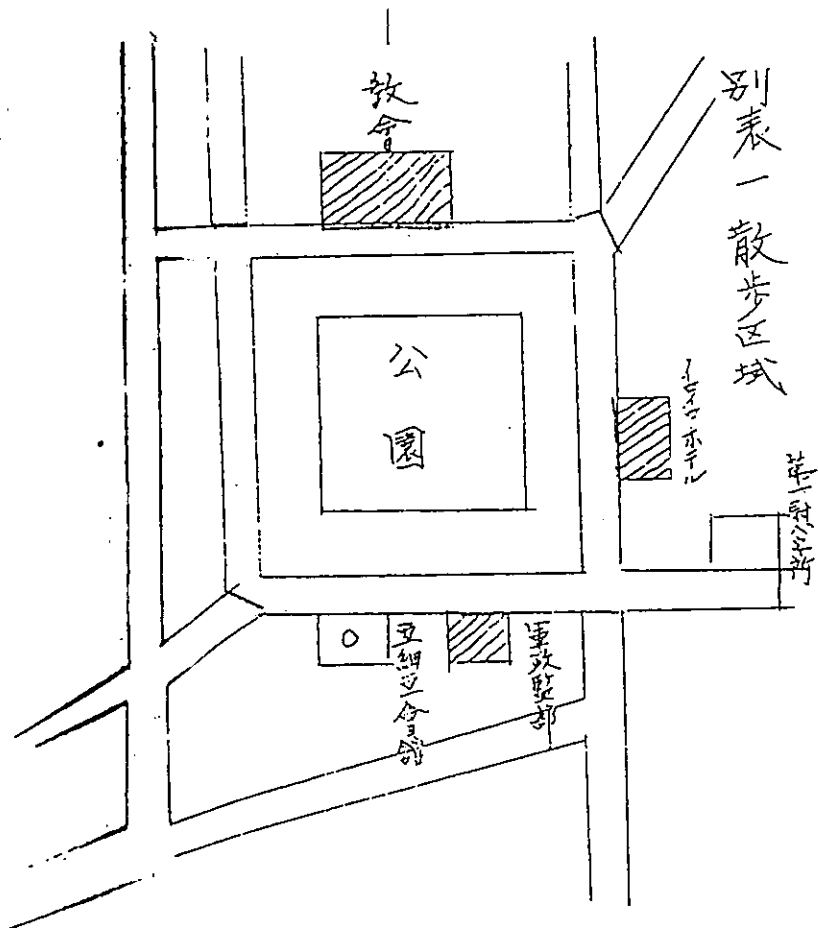
4. 消毒使用シ且洗滌ヲ確實ニ實行シ性病預防ニ
萬全ヲ期スコト

5. 比島軍政監部ヒサヤ支部ノ女子出張所長ノ許可ナクテ

慰安婦ヲ送出スル事ヲ禁止ス

- 七、慰安婦散步ハ毎日午前八時ヨリ午前十時迄トシ其他
 ニアリテハ比島軍政監部ヒテヤ支部イヨク出張所長ノ許可
 ヲ受ケベン尚散步区域ハ別表ニ依ル
- 八、慰安婦所使用ハ外出許可証(亦ハ之ニ代リテ證明書)携帯有限
- 九、營業時間及料金ハ別紙ニ依ル

別表一 散歩区域



公園を中心とする赤区界
、範圍内トス



別表二

將校		下士官		兵		区分	
見習士官 至二四〇	自一九〇	至一九〇	自一六〇	至一六〇	自九〇	營業時間	
一時間	三〇分	三〇分	三〇分	三〇分	三〇分	遊興時間	
三〇〇	一五〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	料	第一慰勞所
六〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	金	至師團會館
						備序	

營業時間及料金表

⑥ 兵站勤務ニ關スル規定ノ件達 [第14軍司令官] (昭17・11・17)

渡示 第八號

兵站勤務ニ關スル規定ノ件達

兵站勤務ニ關スル規定本册ノ添訂ス

昭和十七年十一月十七日

第十四軍司令官 田中 澄 登

三 慰安ニ關スル事項

四 兵站地ノ施設ハ既存ノ施設ヲ利用スルヲ本則トシ兵站地勤務ヲ擔任スル部隊長之ヲ實施スルモノトス 但シ新築改築等大ナル工學ヲ要スル場合ハ豫メ軍司令官ノ認可ヲ受クルモノトス

六 兵站地勤務ヲ擔任スル部隊長ハ軍ノ認可ヲ受ケ所要ノ旅館又ハ家庭ヲ兵站旅館ニ指定シ其ノ經營ヲ依託、解除シ又所要ノ飲食店及慰安所ヲ指定、解除スルコトヲ得

七 兵站地勤務ヲ擔任スル部隊長ハ狀況止ムヲ得スト認ムル場合ハ兵站旅館ニ軍人軍屬以外ノ者ノ宿泊ヲ認可スルコトヲ得 但シ宿泊給養ニ要スル經費ハ一切自辨セシムルモノトス

八 兵站旅館宿泊者ニシテ連續宿泊二十日以上ニ亘ル場合ハ軍ノ承認ヲ要ス

兵站指定旅館、飲食店又ハ慰安所ノ取締リニ關シテハ所要ノ規定

ヲ定メ送進ナカラシムルモノトス

飲食品ノ販賣價格及慰安所ノ料金ノ公定ニ關シテハ軍ノ評直ヲ要ス

六

兵站勤務ヲ擔任スル部隊長（文官ナル場合ヲ除ク）ハ其ノ兵站地ニ於テ宿治給養ヲ受ケツツアル懲罰權ナキ指揮官ノ率ユル軍隊及軍人軍隊中ノ下士官以下ニ對シテハ懲罰令第二十四條第二項及第三項ニ據リ處罰シ得ルモノトス

十

各部隊ハ遂行不能ナル軍需品其ノ他ノ荷物ノ保管ヲ補給施設又ハ兵站地勤務ヲ擔任スル部隊等ニ依託スル場合ニ於テハ特ニ極易ナルモノヲ除キ監應者ヲ附スルヲ原則トス

第三章 補給

十一 補給及補給請求ノ系統ハ軍兵站勤務令附屬第一乃至第七ニ據ル外

左記ニ據ルモノトス

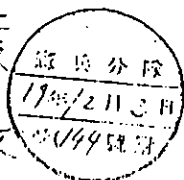
一 補給態度ハ左ノ區分ニ依リ擔任地域内ニ於ケル各部隊（軍以下、



連絡

昭和十七年十一月二十日

本部 庶務科



カトバロガン分隊庶務科 申

且曩ニ本部ヨリ配布シタル「サツク」ヲ某分隊ニ於
 テハ下士官以下ニ於テ適宜分配シタル事例多
 ルモ之ハ令(遣)隊長以下全員ニ對スル令ト
 シテ配布シタルモノニ付承知相成度
 但シ傭人(含比島人)ニシテ妻帯シアルモノ及ニ十
 才未滿ノモノニハ配布セザル様セラレ度尚之カ
 使用ニ關シテハ充分教育サレ度爲念



連絡

十二月十二日

庶務係

本部 庶務

別送ガツクノ宛記ヨリ分配相成度

左記

一 將校以下各二個宛トス

但シ家族ト同棲シアル通譯其他ノ傭人及

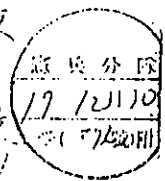
未成年者ニハ分配セサルモノトス

二 若シ員數ニ不足アル場合ハ彼是融通

ノ上分配セラレ度

三 使用ニ關スル教育ヲ十分徹底セシメ分配

セラレ度





パナイ島
事業統制會

會長 石井禮一
會計 花村屋好成

① 統制會下各組合ハ在セズ、ヒサヤ日本人會ヲ
經由シテ、セブ軍政監部支部長ノ認可ヲ
受ケタル組合ニテ、サレバ正式組合ト認メス
ナリ、ナリタル故目下各組合共認可方申請中

ハナイ島接客業組合
 軍指導 監督下ニ置ル
 一 軍人、軍属ヲ主トシテ取扱ヒ、(一)定時宿ルニ一般邦人
 = 接客スルコトヲ得)

二 一般治安行政上風紀ニ注意シ軍政監督ヲ施行セ
 るル法規ヲ嚴守スルモノトス

三 九ノ事業ヲ行フ

- (一) 酒場 主任 増子喜作
 - (二) 娯樂場 宮田共三吉
 - (三) 理髮業 親川源次
 - (四) 映画 " " 増子喜作
 - (五) ホテル " " 増子喜作
 - (六) 慰安所 " " 増子喜作
- 助手 檀上寛夫、城向正辰

四 營業より生ズル収入ハ十日毎ニ事業統制會ニ納入ス、
 會計、直接監督權ハ事業統制會ニアリ

上

組合員ハ月十五比純ラ小使トシテ事業統制会ヨリ
借入レラナスコトヲ得

六

組合員

〃 〃 〃 〃 〃 〃

増子喜作
宮田與三吉
城前正辰
檀山寛夫
親川源次
宮城真勝
伴村 隼 鋸

⑦情報旬報〔獨立守備步兵第35大隊〕(昭17・12)

軍

秘

昭和十七年十二月下旬



防衛研修所戦史室

情報旬報
〔第十九號〕

獨立守備步兵第三十五大隊

四 其ノ他

インバルタオ米軍病院閉鎖ニ伴ヒ諸衛生材
 料ヲ接收之ヲ南方第十三陸軍病院カガヤ
 ン分院ニ引繼ヲ爲セリ 性病豫防ニ關シテハ
 嚴ニ注意ヲ拂ヒ月例身體検査 衛生知識ノ
 向上 檢査ノ徹底 慰安所ノ監視ニ努メ月
 間性病患者ナシ

⑫ 在淮陰藝娼妓檢徹成績表〔步兵第54聯隊〕（昭18・1・29、18・4）

昭和十八年四月一、二、六、四

17D 步兵第五十四聯隊（月七三五）資料

原本史料

防衛研修所戰史室





左邊陰數增檢檢成續表		驗和拾八年三月廿九日	
壺樓名	藝名	至	今成績摘要
1	善樂	三十二	休業
2	阿	二十四	合格
3	阿	二十四	合格
4	山天	十九	合格
5	阿	十九	合格
6	阿	二十一	月經中
7	阿	十九	合格
8	阿	二十一	合格
9	阿	十九	
10	阿	十九	
11	阿	二十三	合格
12	阿	二十六	合格
13	阿	十九	月經中
14			

本表由金橋上工毛也又檢活法中檢入

檢檢官 陸軍中 中 姓 吳

極秘

一五師醫務部第五號

調製官 陸軍軍醫大佐 原田嘉

昭和十八年一月 自一日 至三十一日 衛生業務要報

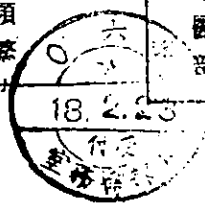
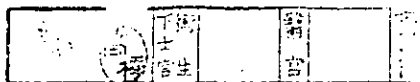
地名	南京
部隊號	第十五師團軍醫部

一 部隊行動ノ概要

(一) 敵情

第三戰區ノ敵ハ依然部署ノ變更人事ノ更送ヲ實施中ニシテ移動頻繁ナリ
 師團當面ノ敵正規軍ハ一部部署ノ變更ヲ實施セル外消極退嬰的ニシテ何等見ルヘキモノナシ
 在支米空軍ハ依然昆明及潯益竝ニ雲南驛飛行場ヲ基地トシテ緬甸方面出擊ニ專念シアルモノノ如シ
 然レ共中旬以降昆明、衡陽、芷江等ノ電臺間ニ於ケル交信相當活潑化ナリ亦重慶空軍ハ國民政府參戰ニ伴ヒ荆門及當陽ニ來襲スル等陸海ヲ要スルモノアリ

月末現在師團當面敵情附圖第一ノ如シ



(5) 工一五、師團通信隊機一五ハ夫々特別訓練班ヲ設置ス

2. 一般兵ノ保育狀況

各級幹部ノ保育ニ關スル識能竝ニ熱意向上ニ伴ヒ漸進的訓練ト給養休養ノ適正ヲ具現シツ、アリ

3. 結核豫防ノ狀況

近ク現地到着ノ昭和十七年度徵集初年兵ヲ迎ヘントスルニ方リ營内淨化ニ着意實施シツ、アリ

尙來月當初師團統一シテ結核檢索作業及營内、供用物件ノ消毒ヲ實施スル豫定ナリ

(三) 衛生部員ノ表彰懲罰ニ關スル事項

1. 表彰

浙贛作戰間衛生部員トシテ責任觀念旺盛ニシテ其ノ職責ヲ完遂セ
ル左記ノ者ニ對シ師團長ヨリ別紙第ハ六一〇、如ク夫々賞詞ヲ附與

セラレタリ

計	鎮江	金壇
二一四	四	三一四
九四〇	三一	二二
一〇九三		
一九八		一一
八二〇	一二四	九四
二二二	一二四	六六
二〇		
九		
九三	一八	一九
八四	一八	一九

(五) 衛生材料ノ狀況

1. 月間常額補給ハ願調ニ實施セラレ前月ニ引續キ衛生材料檢査ヲ實施
 之カ狀況ヲ既査セリ

2. 昭和十八年五期四種混合接種液及痘苗ヲ各部隊ニ交付セリ

月間中支那野戰貨物廠ヨリ受領セルモノ左記ノ如シ

器械 拔栓 子外一三點

藥物 一イヒナオール外八一點

消耗品 鹿脂 綿外二七點

各月間部下配屬部隊ヘ交付セル材料左記ノ如シ

器械 計外六三點
 藥物 健胃 錠外一三八點

其ノ他

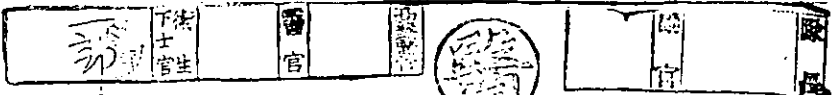
隸下配屬部隊ニ入營スヘキ初年兵ニ使用スル「ツベルクリン」溶液及血液検査ニ必要ナル所要材料ヲ交付スルト共ニ入隊時身體検査ニ支障ナカラシム可ク適宜材料ヲ交付貸與セリ

七氣 象

別表第一ノ如シ

ハ將來ニ對スル意見

ナシ



秘
一五師醫療第九五號

調製官 陸軍軍醫大佐 原 田 嘉

昭和十八年二月 自 一日 至 二十八日		衛生業務要報	
名	地	南京	
號	部	第十五師團軍醫部	

一部隊行動、概要

(一) 敵情

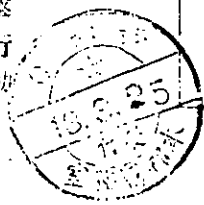
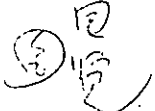
師團當面、敵ハ依然部署、變更或ニ整軍ニ没頭シアリテ何等游撃行動、認ムヘキモノナク極メテ靜穩ナリ

敵ノ偵諜行動ハ最近活潑化シツ、アリテ特ニ我カ占據地區内飛行場、調至チ企圖シアルモノ、如シ

重慶空軍ハ一部ヲ以テ揚子江上船舶航行ノ掩護ニ任セシムルト共ニ機ヲ見テ中北支前線方面ニ對シ游撃的出動ヲ企圖セルモノ、如ク主力ハ

依然成都及重慶地區ニ在リテ防空及訓練ヲ實施シアリ

在支米空軍ハ依然昆明以西地區ニ在リテ一部緬甸方面出撃ニ從事シア
ルカ如キモ主力ハ専ラ戦力ノ回復向上ヲ圖リツ、アルモノ、如ク其ノ



劍術 防具 防毒面 各部隊 ○、五%「ネオキシロン」水擦拭消毒

(2) 師團全員、喀痰検査、實施

初年兵入隊前ニ於テ開放性結核ヲ摘發芟除シ營内淨化ヲ圖ル爲本
 月十日ヨリ二十五日ニ亘リ一齊ニ喀痰検査ヲ實施セリ本検査能率
 向上ノタメ検査班三ヲ編成シ各地區發備隊ノ實施スル検査作業ニ
 協力ヤシメタリ検査班ノ編成ハ軍醫將校一、衛生下士官二、衛生
 兵五、(携行材料ハ顯微鏡二具其ノ他)ニシテ師團野戰病院一箇
 班ヲ中支那防疫給水部第四支部二箇班ヲ差出サシメタリ、詳細ハ
 別紙第二一五師作命丙第二〇號、如シ
 本成果ハ検査人員七六三八名中五名ノ陽性件數ヲ摘發セリ
 七 特殊慰安婦検査ノ狀況

地區別	分	検査	平均一日	検査	延	人員	不合	格	者	數
	同致	現在人員								
	内地人	半島人	中國人	計	内地人	半島人	中國人	計		

へ衛生材料、状況

(一) 補給、状況

師團衛生材料整備、状況ハ前月ニ引續キ順調ニ行ハレ野戦貨物廠ヨリ、受領各隊ヘ、交付等定期補給業務モ極メテ圓滑ニ行ハレタリ
 (イ) 中支那野戦貨物廠ヨリ受領セルモノ

器械 體溫計 外一〇點
 藥物 硫黃浴劑 外三八點

計	凉水	巢縣	鎮江	金壇	蕪湖	南京
三一四	三	三	四	四	三一四	四
六二八	一〇	三	三九	一一	九七	五七
一〇七四			一二		一一四	九八
一七四		一一		一九	九三	八一
九七一	四〇	九	一四	二二	一五九	九七
二二〇〇	三〇	一〇	一九	一四	三四六	一九六
二二			七		五	一七
八		三		一	五	
一〇八	一一	一一	四	六	二〇	一九
一三一	一一	一六	九〇	七	二七	三二

防疫給水部第四支部月間給水量左表ノ如シ

計	燕 湖 支 表 所	金 壇 支 表 所	支 表 所 別	地 區 別	總 給 水 量	一 日 平 均 給 水 量
一七九四石	四三〇石	一三六四石				四 五 石
五九石						一 四 石

月初ヨリ實施セル衛生沙水機ノ巡回性能調査ハ本月
中旬ヲ以テ終了セリ其ノ成績附表第四ノ如シ

(二) 健兵對策實施ノ狀況

ノ特別訓練兵保育ノ狀況

師團特別訓練隊ノ狀況

第十三軍結核豫防規定第三條ニ基キ先月二十五日畿
 師參甲第四五三號ニ依リ結核性疾患ノ絶滅ヲ期シ
 又要保護兵ヲ訓練シテ健兵ヲ育成シ之ヲ射撃ノ
 精兵トラシムル目的ヲ以テ湯水鎮ニ設置セル特別訓
 練隊ハ本月五日編成ヲ完結シ十日訓練兵三八名入
 隊ヲ見目下銳意保育訓練ニ勉メアリ
 保育上特ニ着意實施シアル事項左ノ如シ
 (1) 教育ニ於ケル保育

師團特別訓練隊ニ於ケル教育企畫別冊ノ如クニシテ
 保育上著眼シアル事項ヲ摘記セハ左ノ如ク

地方衛生事業ノ向上ニ資セリ

地方接客業者衛生施設指導並特種慰安婦検診 關

スル事項

南京蕪湖鎮江其他各小地区ニ於テハ毎週概ネ一回
 軍醫將校ヲシテ地方接客業 店ノ衛生巡察ヲ實
 施セシメ衛生思想ノ普及向上同施設ノ改善ヲ促進
 シアリ

特種慰安婦検診ノ狀況左表ノ如シ

乙) 衛生材料ノ狀況

ノ月間常續補給一般ニ順調ニ安實施セラレアリテ師團ニ於テハ軍指示ニ基キ隸下隊屬部隊所蒙戰傷一會戰分戰病一ヶ月分^我料ヲ師團倉庫ニ整備シテ

計	鎮江	金壇	蕪湖	南京	地区別	
					内地	支那
三二五	四	四一五	三一四	五	四	検査回数
五六八	二九	三〇	七六	四三三	七四九	平均一月現在人員
八五一			一〇二	七四九	五	内地人員
一五九		二七	八二	五	二二	支那人
九三	一一四	九〇	一〇五	二二	二四二	計
二九三	一一四	二七	三八九	八		内地人員
一四			六			支那人
七		六	一			支那人
五〇	一八	一五	一〇	七		支那人
七一	一八	二一	一七	一五		計
						不合格者数

⑭ 獨立自動車第四二大隊第一中隊行動詳報 (昭18・1・13)

昭和十八年一月十三日

獨立自動車第四二大隊第一中隊行動詳報

防衛研修所戰史部



二月十三日

晴

一 昭南島ニ駐留ス

二 〇八三。青水軍曹以下四名持設自動車千隊ニ至

リ該隊ノ輸送業務班ニ教育指導ニ任ス

三 〇九〇。中隊ハ依然貨物廠ニ協カ各分隊長ノ指

揮ヲ以テ貨車一〇輛ニテ左ノ輸送ニ任ス

(1) 小泉軍曹ハ貨車五輛ヲ以テ西草頭ニ至リ糧秣馬

糧ヲ全廠本倉庫ニ輸送シ一七三。歸隊ス

(2) 小侯軍曹ハ貨車五輛ヲ以テ西草頭ニ至リ糧秣ヲ

全草頭内ニ於テ輸送シ一七四。歸隊ス

〇九三。中隊ハ携帶兵器検査ヲ實施ス

一七〇。左ノ獨自四ニ大作命受ニ二二號受領ス

大隊命令

一 第一中隊長ハ明日十四日刻ニ一分隊(三車輛)ヲ茂三

佐軍兵虎ノ陣營具輸送ニ協カセシムヘシ

輸送ノ細部ハ該營院官前書長ト協定セシムヘシ

略一月十三日

曰トシ許可スハキモノニ非ス(内一九七)

(四) 遊興等ノ目的ヲ以テ許可スルハ誤リトス(内二〇二)

(ハ) 許可権疑ハシキ者ニシテ許可スル尙アルモ證

明書ニハ職名(校長副官總番司令等)ヲ明示スル

ヲ要ス

名刺ヲ以テ代用シ或ハ時間ヲ明示セサレモノ

等アリテ適當ナラス

乙 引率外出ニ就テ

引率外出ハ指揮官ノ直接指揮下ニ在リテ行動ス

ハキモノニシテ途中解散シ各個行動セシムルハ

本音ニ非ス即チ引率外出ニテ慰安所等ニ至リ送

受セシムル等ハ適當ナラス

丙 公用外出ニ就テ

公用ト認め難キ用件ニテ公用外出セシムル尙ア

リテ送ニ公用外出者自ラ公私ノ別ヲ誤リ私用ヲ

【以下略】

⑦ 獨立守備步兵第三五大隊陣中日誌(昭18・2・14)

軍事機密

自昭和十八年二月一日
至昭和十八年二月二十八日

陣中日誌

(第四號)

獨立守備步兵第三五大隊

二本日一〇、一〇ヨリ警備會報ヲ実施ス

會議事項左ノ如シ

左記

一、カドヤン駐屯地警備計畫ノ説明

二、カドヤン周辺ノ敵蠢動状況

三、本日命令別隊ノ進下進ス

四、本日會報別隊ノ如シ

一、〇九、三〇生田部系長宛左記電報

報告ス

左記

二月十四日
日 晴
於カドヤン

「ダラカグ」方面匪首「ホーレル」(元少佐)目下

該地東方約十五村「インハト」一在ルコト

會 報

カガヤン

一左記ノ如ク兵站警備隊ニ公用證及
外出證ヲ交付ス

左記

公用證	至	至	至	至
外出證	至	至	至	至
	警	警	警	警
	行	行	行	行
	五	一	五	一
	五	一	五	一

一 朔十四日ヨリ別紙要圖ノ個所ニ下士
官及兵田トシテ才三尉心字所ヲ開
業セシム
續用時限ハ從前通リトシ之ヲ嚴守
スヘシ

三 朔十四日以降尉心字所ノ料金ヲ左ノ如ク

定ム

下士官

左

英

比島人慰勞會
通リノトス

所

ノ料

金

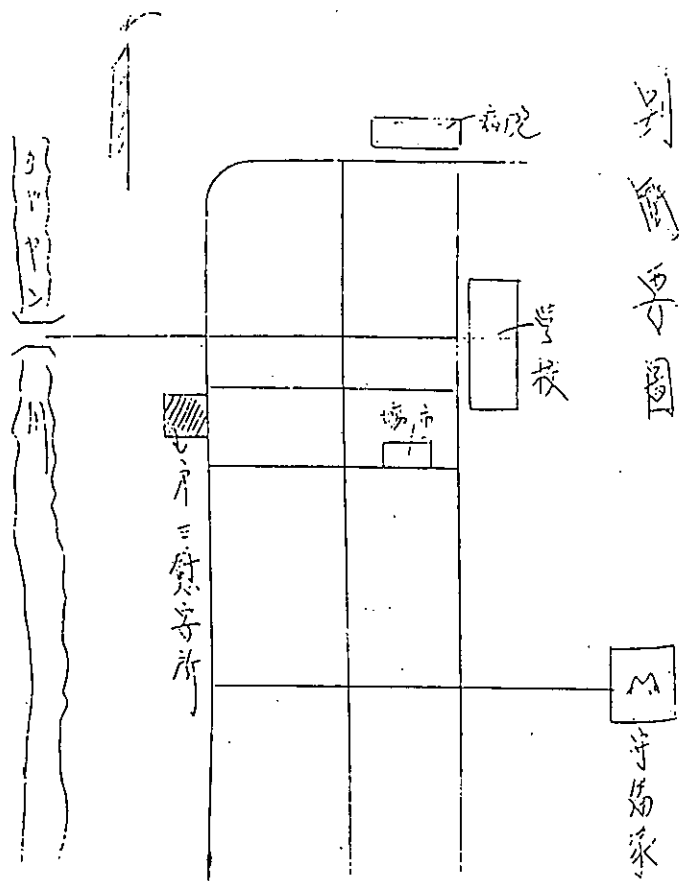
ニ

関シテハ從前

一二月
一用五
ノ費

記

(三十分)



⑦ 防犯資料 [第36師團司令部] (昭18・3・4)



別紙

自昭和十八年三月
至昭和十八年五月

防 犯 資 料



第三十六師團司令部



22-13

懲罰

山砲兵第三十六聯隊

陸軍上等兵

犯行ノ概要

昭和十八年二月十一日沁縣城內ノ朝鮮妓樓ニ於テ登樓遊興シ花柳病

ニ罹病シ軍務ヲ怠ル

罰目 經營倉三日

(昭一八三一五)
中 監 長

◎性病ニ際シテハ精神訓話、衛生講話及予防手段等各般ニ亘リ教育ヲ

周到ニ實施スルノ要アリ

教育ヲ行ハスシテ帶病ノ事實ノミヲ察ムルカ如キコトナキタス

懲罰

步兵第二百二十二聯隊第一中隊 陸軍上等兵

犯行ノ概要

昭和十八年三月七日飲酒酩酊ノ外出先ニ於テ餌食被奪ニ於テ遊興性
病ニ感染シ軍務ヲ怠ル

罰目 重懲倉三日

(中隊一八四番)

步兵第二百二十二聯隊第四中隊 陸軍上等兵

犯行ノ概要

右ニ同シ

罰目 重懲倉三日

(中隊一八四番)

◎右ニ同シ

後 罰

山砲兵第三十六聯隊第九中隊

陸軍上等兵

犯行ノ概要

昭和十八年三月三十一日促馬村親米料理店ニ登樓シ花柳病ニ罹病ス

罰 目 重懲倉二日

(昭一八四一一
中 隊 長)

◎ 右ニ同シ



發 罰

歩兵第二二二十三聯隊第九中隊

陸軍上等兵

犯行ノ概要

昭和十八年三月三日 師團衛兵司令トシテ任務終了下番ノ際屋外ニ於テ彈藥箱ケヲ忘リ室内ニ於テ銃ヲ手入セントシテ

罰 目 重懲倉三日

（昭一八三三）
中 隊 長

◎制式動作ヲ確實ニ實行セハ暴發事故ハ絶無ナル筈ナリ日常ニ於ケル諸動作ニ際シ幹部ハ克ク部下ノ銃砲操作ヲ凝視シ制式履行ノ善性ヲ附與セサルヘカラス

326



① 軍慰安並娛樂設備狀況ニ關スル件照會「バギ才憲兵分隊長」(昭18・8・2)

バギ才憲兵分隊長

軍慰安並娛樂設備狀況ニ関

スル件照會

昭和十八年八月二日

バギ才憲兵分隊長

セブ憲兵分隊長殿

首題ノ件當地兵團ヨリノ依頼有之参考ニ資シ度
ニ付貴配屬管下取纏メ左記ニ依リ可成詳細ニ調
査相成度照會ス

左記

町市	慰安所数	慰安婦数	料金時間	参考
口口	口口	口口	口口	口口
日人	口口	口口	兵口分口比	
北人	口口	口口	下士官口分口比	
其他	口口	口口	將校口分口比	



494

市町名	〇	〇
種別 玉突口軒 ボリング口軒 射的口軒 撞金口軒 其他	誤樂場	
料全		泊
参考考		比

追而参考事項ニハ特ニ慰安所並誤樂場ノ特徴ヲ記セラ
 レ度
 發送 セブ、タバオ、タルラック、各分隊
 (了)

192

① 2 軍慰安並娛樂設備状況調査ノ件「通牒」〔セブ憲兵分隊長〕(昭18・8・10)

係	主	長	分	隊
福元	三		三	三

245

セブ 警 第七六號

軍慰安並娛樂設備状況調査ノ

件「通牒」

昭和十八年八月十日

セブ憲兵分隊長 備前製鐵大廠 憲兵分

タクロバン憲兵分隊長 殿

別紙寫ノ如クバギ才分隊ヨリ照會有之ニ付貴管

内ニ於ケル狀況至急調査ノ上バギ才分隊ニ直接回

答セラレ度 通牒ス

追而右圓答ノ際当隊ニ於テモ参考ト爲ニ付キ同寫ヲ

送付相成度

9/28/18
憲兵分隊
昭和十八年八月/日
三〇九三號

324
247

係	任主	班	附	長隊分

控

⑦-3 軍慰安所並娛樂状況調査ノ件 (回答) 「タクロバン憲兵分隊長」 (昭18・8・14)

タクロバン憲兵第一八號

西 慰安所並娛樂

状況調査ノ件 回答

昭和十八年八月十四日タクロバン憲兵分隊長東平健

八月二日バギオ憲兵第一八號照會ニ基ク
前題ノ件別紙ノ通りニ付一回答ス

(了)

發送先

バギオ分隊長

寫セバ分隊長

別紙

慰心心女所

町名	慰安所数	慰安婦数	料金	時間	参考事項
夕陽バン町	壹	九名 (比)	五比	五比	経営者ハ比人(女)ニシテ監 督兼通譯トシテ在留邦 人一ヲ配置セシメアリ ニ夕陽バン以外ノ各警備地区 ニハ不定期ニ出張セシメアリ

兵士時間 比五比

軍儀 比二比

壹

九名
(比)

下士官 比二比

將校 比三比

五比

陸軍

娯樂場

町名 種別 料金 参考事項

バドリー
場一軒
面
五錢

一ホール
場
ククロバン町内北人経営ニヨル只一、遊
戯場ニシテ軍人、未遊ヲ觀迦シアリ

バン
指定食堂
四軒

二指定食堂
邦人経営ニ比人経営ニ計四軒八軍指
定指定食堂トシテ駐屯部隊ヨリヨル

ククロバン
常設映画
館一軒

三常設映画館
特配あり(各軒一月予約ニヨル)
此人経営ニシテ併地ナハト交通不便ニヨリ
手持、戦前映更上映多シ時折ニリス
ノ上映アリ

⑦慰安婦一ノ金銭紛失ニ關スル件報告 (タクロバン憲兵分隊長あて) (昭18・8・3)

慰安婦一ノ金銭紛失ノ關スル件

報告

昭和十八年八月三日

奥田米長

分隊長殿

首題件状況左記報告矣

右記

一被害者住所氏名年齢

本籍

比女



当 二十九年

保留

二被害日時及場所

八月二日 目一五〇部一五一五〇分間
アリス之慰字所 四号室

三被室 西目

金十八回五十枚

収款 軍票 五回三枚 一回三枚 十枚五枚

旧紙幣 一回一枚

四被室前後ノ状況

本名ハ数々日ニ制ヨリ病氣ニイ休養シテ
リ其下當日々自室ニ於テ休養シテヨリタル處
五時頃迄卷多敷(十ニ三枚)アリタルヲ以テ
自室ヨリ起シテキツクシヨ敷賣レテリタル

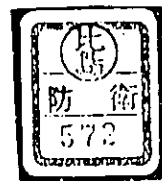
處士並將手分項部處言り出する事、各其ハ
 婦人甲香水一ツ所持(大ホシ物ハ一押入トシテ
 リ花ヲ以テ不審ヲ拘ル事其返緋方ヲ依頼之
 ヲ受領本名ハ香水ト名一ツルヲ以テ自室
 ニ非リ、此處被報柵(戸ヲハリ左側ニ位置
 ス)ノ鏡カ外サレテ産如開ケ放サレタルヲ以テ更
 ニ不審ヲ拘キ、内部ヲ點檢スルニ金一圓
 五才美粉尖(戸ヲ開キ直ニ財布ノ中味ノミヲ
 撥出シ他被報ニハ手ヲ付ケアズ)ニアルヲ以テ
 監督者(平年)ニ届出スルモイヤリ
 三監督者(処置)
 五監督者該事件、部外ニ洩ルヲ極度ニ

⑦9 巡察計画表「タクロバン憲兵分隊」(昭18・10・14)



昭和十八年四月二十六日

タクロバン憲兵分隊勤務関係参考綴



昭和十八年十月十日 日 葉

巡察計画表

服務者 井上兵長
田村一等兵
比警四名

巡察経路 警署自標	立寄先及 連絡箇所	時刻	主要著眼事項	摘要
分隊 リサール街	市場	刑務所	一 外部的思想宣傳状 況 二 附近ニ反戦反軍的 引等添付セル者 ナキヤ	一 話者殿ノ外 行政上ノ行キ モ着意ス
ベテラノス街	華僑倉庫	自警團	一 敵匪ノ連絡箇所ノ 有無ナキヤ	一 巡察出ノ意ヲ 要スルモノアリ 要事項ノ直ニ 禱慮一ツニシテ 分隊ニ報告シ 其他ノモノハ隊 隊後報告ス
レアル街	波止場	詰所	一 敵匪侵入ノ史料耐 近状況 二 附近遊路ノ行爲 ナキヤ	
カネカミ街	飲食店	巡警隊	一 敵匪ニ依リ住民ノ勤 向如何ナルヤ	
クニデイオ街	慰安所	墓場分哨	一 軍人巡警ノ状況 二 歩哨ノ勤情 三 自警團員ノ勤情	
ツエルソン街	慰安所	墓場分哨	一 軍人外去者ニシテ 紀風紀ヲ紊ズル モノナキヤ	
マルテレス街				
分隊				



⑧雪第三五二五部隊日々命令(昭18・11・7)

雪三五日命第二六號

雪第三五二五部隊日々命令

十一月七日十時
金路



一 明八日九時迄糧秣受領ノ勤務員トシテ土井

部隊ヨリ兵三口名炊事ニ差出シ糧秣委員ノ

ノ指示ヲ受ケシムベシ

服装ハ單獨ノ軍装トス

陸軍軍曹

梅津秀雄

外兵一名

業務連絡ノタメ本七日ヨリ三泊四日ノ予

定ヲ以テ上海並杭州ニ出張ヲ命ズ

陸軍少尉

岡松朝雄

三 聯隊榎手上海出張不在間同官代理ヲ命ズ

四 雪三五日命第六號第三項中週番司令石塚中

尉トアヲ山形中尉ニ變更ス

〔中略〕

九十一日七日以後將校以下ニ一般外出ヲ許可

各部隊長ハ外出ニ當リ左記出ニ關スル細部

ノ注意ヲ嚴守セシムルヲ左記

(一) 將校准士官下士官ハ三名以上ノ組ヲ以

テ行動シ單獨ニテ行動セサルモノトス

(二) 兵ハ引率外トシ映画館慰安所以外ニ於テ

解散ヲ禁ス用齋後ハ部隊ヲ纏メ販還スルモノトス

(三) 軍隊ニテ經營又ハ特ニ指定シテ出入ヲ許

可セル飲食店以外ニ立入ルヲ禁ス

(四) 南京警備規定ニヨル松山部隊外出日ハ毎

週木曜日トス

(五) 將校以下外出先ニ於テ特ニ左ノ件ニ注意

スルモノトス

イ附謀上部隊ノ企圖行動等ヨロ外セサルコト

〔以下略〕

⑧ 1 林第三六二九部隊日日命令 (昭18・12・11、21、25)

軍事極秘

自昭和十八年十二月一日
至昭和十八年十二月三十一日

陣中日誌

第三七號

21030

野戰高射砲第五十大隊本部

FD 721

FD 821

林三六九日命第七號

林第三六九部隊

日日命令

十二月十一日

一本職

自十二月十四日開

マシケル

駐屯地司令官代理ス

二 通信工手

本

部陸軍一等兵

松本半三郎

同

同

同

谷島良佐

同

同

同

花塚三男

同

同

同

清水三男

同 電氣工手

同 銃列

同

服部鏗二

同

同

同

遠藤恒夫

同 鍛工手

同

同

石田豊治

同

同

同

茅嶋晴八

右者夫々顔書ノ通リ通信工手電氣工手及鍛工手ヲ

命ズ

三

陸軍大尉

山田

俊

四

陸軍中尉 鏡味 徳次
 右者夫之業務連絡ノ為本千一日ヨリ泊ノ豫定ヲ以
 テ明妙 軍司令部ニ出張ヲ命ズ
 乗用車一(操縦手共)ヲ附ス

陸軍中尉 中村 宗一

右者十二月十三日 自一八〇〇間「アマラプラ」及「シング」渡河
 點附近第二種巡察勤務ニ服スベシ
 着眼ノ服装態度特ニ敬禮ノ勵行狀況

1. 無許可外出
2. 慰安所等ニ於テ下士官兵ノ行動態度
3. 慰安所等ニ於テ下士官兵ノ行動態度

下邊法 印刷交付

林三六九日命第一二號

林第三六九部隊日日命令 十二月二十一日

一 第三中隊 陸軍軍曹 後藤松夫

殺勲七等授瑞寶章 (昭和十八年九月十一日附)

二 第二中隊 陸軍一等兵 上岡康治

第一中隊 同 高木末吉

第三中隊 同 大阪芳雄

右者豫備役主計下士官要員被教育者トシテ十二月二十六日

ヨリ約三ヶ月ノ豫定ヲ以テ第十五軍經理部ニ分遣ヲ命ズ

依ツテ十二月二十五日迄ニ明妙ニ第十五軍經理部ニ到着ス

陸軍軍曹長 佐原健

右者本二十一日至二十三日間マシテ第三區第二種巡察勤

務ニ服スベシ

着眼ノ 服裝 態度 敬禮ノ 狀況

下
遠
法

又 3. 無許可外出
 空襲時於此待遠狀況
 食堂及慰安所等於此行動
 印刷交付

林三六九日命第一三號

林第三六九部隊 日命令

十二月二十五日

陸軍大尉 山田 俊

右者本職代理トシテ明二十六日ヨリ一泊ノ豫定ヲ以テ第三

中隊慰靈祭ニ参列ヲ命ズ

乗用車一(操縦手共)ヲ附ス

二 來ル三十日別紙計畫ニ基キ緬甸防衛軍三吋臨時高射

砲要員ノ後期査閲ヲ實施ス

三 陸軍少尉 伊藤 武夫

右者十二月三十日自一九〇〇年至一九〇〇年間於テアマラアラ及ミンゲ

渡河點附近第二種巡察勤務ニ服スベシ

着眼ノ服裝態度敬禮ノ狀況ニ空襲時於テ待避狀況

3. 無許可外出 4. 食堂及慰安所等ニ於テ行動

下 達 法 印刷交付

⑧1-2 林第三六二九部隊日日命令 (昭19・1・1、3、6)

軍事極秘

自昭和十九年一月一日
至昭和十九年一月三十一日

外D C#
47722

陣中日誌

第三八號

378

野戰高射砲第五十二大隊本部

林三六九日命第一八號

林第三六九部隊日日命令

一月一日

一

陸軍中尉

武田

宗三

右者一月四日

マンダニ山出發

新任地

赴任スベシ

二

本 部 陸軍兵長

瀧川

一 義

第三中隊同

安田

由左工門

第一中隊同

水野

登雄

第三中隊同

宇佐美

益一

第一中隊同

鈴木

木 貞雄

任 陸軍伍長

三

本 部 陸軍上等兵

萩原

政人

同

二 村

作次郎

第一中隊同

鈴木

木 俊二

同

青木

勇三

段 列 陸軍一等兵
 同 同 陸軍上等兵
 命 陸軍上等兵
 鷺 鷹 見 圖 一 武

五 陸軍少尉 横地 寛

右者一月四日 至二時 詰間ニ於テ「アマラアラ」及「サカイン」渡河

點附近第二種巡察勤務ニ服スベシ

着眼ノ服装態度敬禮ノ狀況ニ無許可外出

3. 慰安所食堂等ニ於テ行動ノ空襲時於テ待

機狀況

六 第一號 陸軍曹長 中島 登夫

第二號 同 提端 義雄

第三號 陸軍兵技曹長 中村 見三

第四號 陸軍曹長 坪井 容正

第五號 同 佐原 健

林三六三九日命第二〇號

林第三六三九部隊日日命令一月三日

一本職至一朋六日間、マシダトシテ、警言備隊長ヲ代理ス

二昭和十八年七月二十日命令第八九號第二項各隊ノ休

務日、外出日ヲ左記ノ通り變更ス

左記

休務日日曜日

外出日 第一 第二中隊 大土日曜日

大隊本部 大隊段列 大日曜日

注意 態度 服装 敬禮ヲ嚴正ニシ 外出日時限

並ニ慰安所使用時限ヲ嚴守スベシ

下達法 印刷交付

林三六九日命第二號

林三六九部隊日日命令 一月六日

陸軍主計中尉 西卷孝一郎

右者

首一册計

間昭和十九年度陸軍經理學校田種

學生候補者試験受験_ノ爲明妙第十五軍經理部

ニ出張ヲ命ズ

依ッテ一月九日迄ニ同部ニ到着スベシ

細部ニ關シテハ別ニ指示ス

二

陸軍准尉 加藤

私

右者一月九日_{至一三}。間ニ於テ「マシタ」第一等ニ這

第二種巡察勤務ニ服スヘシ

着眼_ル 服裝態度敬禮ノ狀況_ニ 無許可外出

慰安所食堂等ニ於テ行動 空襲時ニ於テ

ル待機狀況

⑧ 外出及軍人俱樂部ニ關スル規定 [直兵團遠山隊] (昭19)

昭和十九年

外出及軍人俱樂部ニ關スル規定

遠山隊



外方及軍人俱樂部ニ関スル規定

第一條

本規定ハ中山警備隊外方及軍人俱樂部ニ必要ナル事項ヲ規定ス

本規定以外ノ事項ニ関シテハ軍隊内務令中山駐留規定及中山警備隊軍人俱樂部規定ニ依ルモノトス

第二條

外方ニ際シテハ服装治安勢態ノ度ヲ嚴正ニシ皇軍タルヲ自覺ヲ以テ行動セザルベカラズ

第三條

外方日及時間等、如シ

兵 日曜日トシ十二時ヨリ十八時迄トス

下士官水曜日トシ十二時ヨリ日夕點呼迄トス

營外者ニ關シテハ規定ニ從フ

外方区域ハ部落内ハ東面護沙隊分哨迄トシ表門前

ハ約二百米橋梁迄トス

部落内、行動中ハ二名以上同行シ單獨行動スル者

週番士官ハ外方日ハ第二種巡察ニ任シ軍紀嚴シク

第四條

取締ヲ爲ヌモノトス
 第五條 服裝ハ軍獨ノ軍装トシ兵ニ在リテハ外劣腕章ヲ腕ニ附ス
 第六條 外劣章ノ保管及授受ニ関シテハ軍隊内務令ニ依ルモノトス

第七條 軍人俱樂部ヲ使用シ得ルモノ軍人軍座ニトシテ下士官
 以下ニアリテハ外劣ヲ許可セラレタル日ニ於テ第五條ノ服
 装ヲ爲シタルモノトス

第八條 軍人俱樂部料金左ノ如シ

兵 一時間 八円

下士官 同 拾五円

管外者 同 拾五円

宿泊ハ管外者ノミトシ、四拾五円

第九條 外劣ニ際シテハ防諜ニ注意シ軍人俱樂部ニ於テハ軍紀風

紀ヲ嚴正ニシ著シク酒氣ヲ帯ビタル者ハ劣入ヲ禁ス
 又酒類ヲ持込ムベカラズ

第十條

其ノ他他人ニ送^レ或^レ心ヲ及^ホスバウラズ
 軍人俱樂部營業主ノ別紙^{第一}日^一報ヲ翌日午^中前^中
 ニ又別紙^{第二}月^二報ヲ翌月二日迄ニ警備隊ニ授^出ケス
 ルモノトス

第十一條

庶務掛ハ軍人俱樂部營業務ヲ監督シ其ノ事務ニ任^ズル
 モノトス

第十二條

本規定ヲ遵守セザル者ハ爾後ノ外^方ヲ禁^ズ

第十三條

營業主ニ関スル事項ハ中山警備隊軍人俱樂部規定
 ヲ準用ス

陸軍軍人之軍属非行表 (十四) 六〇ンボン憲兵分隊

所管	役種官等隊	非行	非行ノ概要	処置及結果
----	-------	----	-------	-------

隊	予陸上	一月六日	外出先ニ於テ飲酒被仰	不備止
---	-----	------	------------	-----

初隊			上慰意所ニ於テ登樓	非違
----	--	--	-----------	----

核右隊			其女(妻)即居ニ入リトセ	報(口頭)
-----	--	--	--------------	-------

能ク投剣
 有謀者 衣類、其他金品等
 窃取ト似テ軍人トシテノ件
 初ノ事ナシ

別表并一

陸軍之軍属 非行表 (十月) 以上本室之右側

所屬	威才八要部隊 草崎隊 (自動車隊)	所屬	威才八要部隊 草崎隊 (自動車隊)	非行	自 二、四 三、五	非行ノ概要	上記如左該所屬ノ一員 十取用ニ至リ 出(中)性産 器(新)在印所。管理。係ノ師用 倉庫。ノ非射撥ヲ節級 非自己婚嫁ヲ爲スル爲メニ 查部送迎費ニ充ル	処置以上	所屬長ニ以テ 非直通報
軍管程束 穀部	軍属一	二、三	軍手配示 勤務始限内ニ略務用長中 間知本松 餘ノ人 ヲ願面力改行 軍属ヲ送	書ヲ附 所長ニ以テ 直通報					

⑧ タクロバン憲兵分隊作命綴 [垣第六五五〇部隊參謀長・獨立混成第33旅團長] (昭19・1・10、3・17)

昭和一九、一、二〇、一九、九、二五

タクロバン憲兵分隊作命綴



防衛省

軍事極秘

垣サレ卷甲第二班

師團長レイテ島警備地區巡視ノ件通牒

昭和十九年一月十日 垣第六五五〇部隊卷謀長

東平憲兵隊長殿

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通り巡視セラル、ニ付通牒又
特ニ經路ニ關シテハ防諜ニ注意サレ度為念

通牒先

西村隊 直轄五班
原隊 36品隊
4FL
BO 渡邊隊 各部

MP 軍調査班 物資蒐集班 軍防諜班 患者療養所
破泊場連絡所 日本人會



三 各部隊ハ依然前任致カテ續行スベシ
四 予ハタクロバンニ位置ス

獨立混成第三十三旅團長見城五八郎

下達法

Ⅲ/9c 16P.48s ニハ電報シタル後其ノ他ニ印刷交付

配布先

20c Ⅱ/9c 16P.48s 喜多村 16P 菟原隊 16P 柳隊 22Ps 相原隊 14L

原隊 16P.48s

上村隊 16P

波又自動車修理班 木原隊 20

4FL

今 軍産業調査團 松本建技中尉

通報先

14A 16D 14Ps 22FB

タクロバン憲兵隊

タクロバン渡頭場連絡所

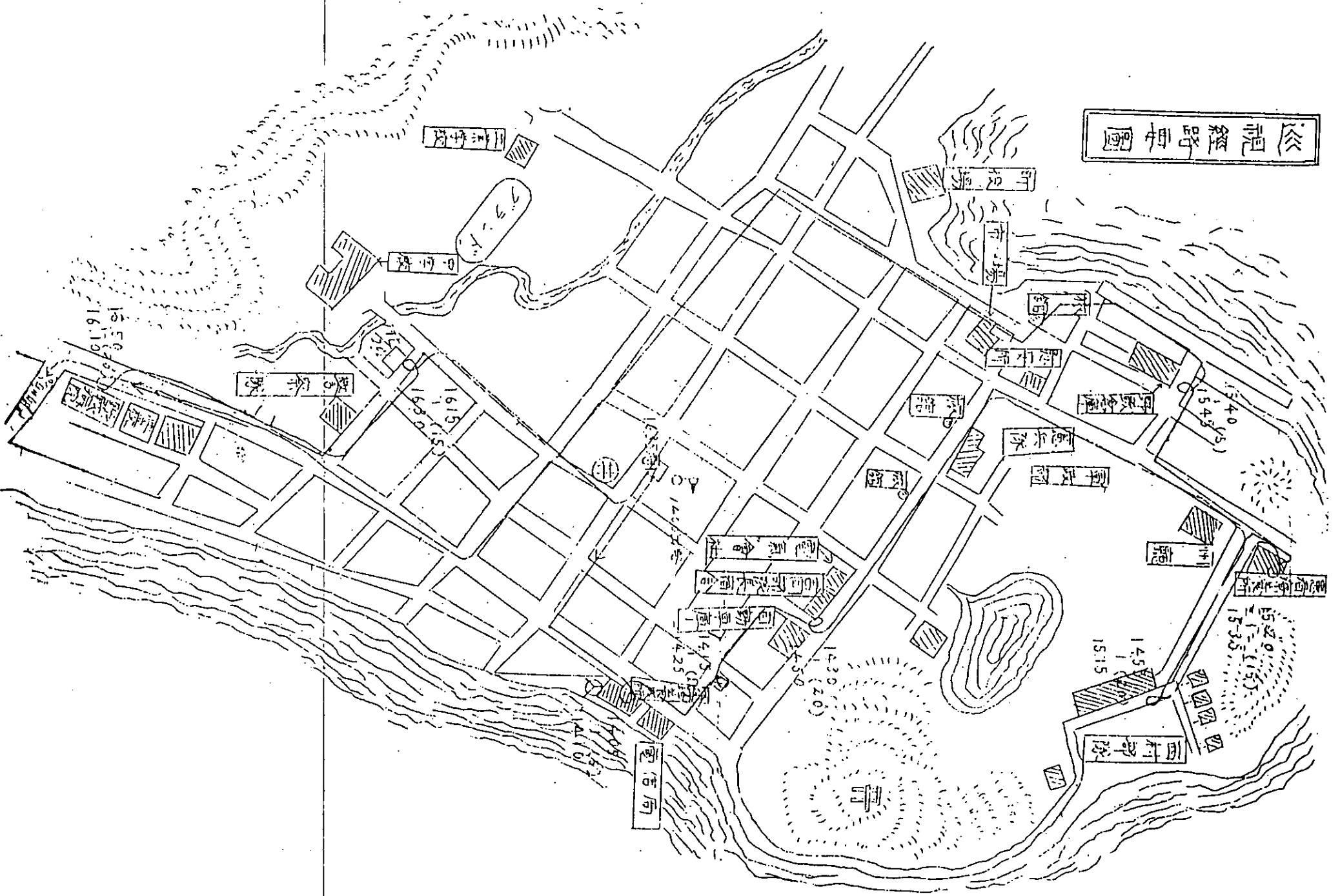
タクロバン氣象班

中津浦少尉

第三三八聯隊郵便所

第一二海軍施設部タクロバン出張所

谷津學堂地圖



兵部

勤作命 下第一八號

獨立混成第三十三旅團命令

三月十七日
夕月クロバン

一 第四野戰病院長ハタクロバン 舎營地ニ於テ陸

軍指定ノ飲食店、同慰安所ノ衛生ニ關スル指導并監

督ニ任スルノ外市内一般ノ衛生施設ニ對スル指導并

助ニ任スヘシ

ニ予ハタクロバンニ任シ

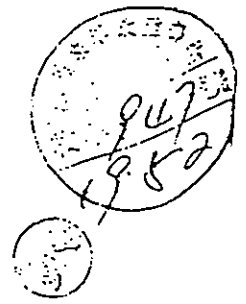
獨立混成第三十三旅團長 見城五八郎



德川 齋河 齋
⑧軍政月報 [馬來軍政監部] (昭19・2・29)

軍政月報

昭和十九年二月廿九日
馬來軍政監部



計	専修科	簿理科	西来入	支那入	印度入	計	累計
五五	二〇	一七					
二一	四	八					
一四	六	五					
九〇	三〇	三〇					
一九五	六〇	三〇					

3. 二月二十九日馬來興亞訓練所第三期生卒業式ヲ挙行セリ

卒業者数 七二名

累計 二六九名

六 衛生

醫藥品衛生材料配給狀況(三月分)

(1) 軍專用特殊慰安所料理店俱樂部用一ヶ月分トシテ

衛生サツク 七五〇〇〇個

過マンガン酸カリ 七瓶

(ロ) ヲ各州市向ニ慰安婦數ニ定シテ配給ス
 尚今後毎月引續キ補給ノ予定ナリ
 流行性感冒針葉トシテ

アスピリン 一〇〇〇ポンド

フェナセチン 五〇〇

硫規錠 二〇〇本(五〇〇入)

各州市向配給中ナリ

(ハ) 其他應急處置用トシテ配給セル分ノ内ナルモノハ鉄道局從
 業員用 土木科 轟山工事場用ナリ

⑧6 サンタクルース患者療養所〔第16師團第2野戦病院陸軍軍醫中尉〕(昭19・5・14)

自昭和十九年二月二十三日
至昭和十九年五月十四日

サンタクルース患者療養所

レイテ島

第16師團第2野戦病院

防衛研究所図書館

第2羊部の一部



8112
6-60

調製官

陸軍醫中尉

福田正 眞 福田

一患者療養所一般行動

部隊の芳作命當の二號ニ基キ系作命第七ニ號ニ依ル人員材料ヲ以テ二月二十

三日ヲケテ州ノゴダムルノ入所ニ到リ同地ニテラダナ州ノ病院内ニ開設中ノ第十

六師團衛生隊ヨリ收容患者十七名並同收療諸施設ヲ引續キ患者療養所ヲ開

シラクナ州一帯ニ警備ヲ付ス諸部隊ノ發生患者ノ收療後送ル同地區ニ般衛生

指導ニ任ジシナリシガ師團轉進ニ伴ヒ五月九日芳作命第五號ニ依リ當患者療養所

閉鎖命令ヲ受ケ直ニ交代準備ヲナシ五月十四日十四時第十六師團衛生隊交代要員

到着ト同時ニ收容患者十八名(内單人重傷外患者三名ヲ含ム)及同收療諸施設ヲ引継

患者療養所ヲ閉鎖シ翌十五日人員並ニ材料ト共ニ本隊本部ニ復歸ス

本期間ニ於テ主要ナル行動行事左如シ

二月二十三日

所長以下二十名並ニ所要ノ材料ヲ以テ同地ニ開設中ノ衛生隊ト收容患者並ニ同業

引継患者療養所ヲ開設ス

七八疥癬濕疹熱帶潰瘍等モ各性状ニ應ジ硫黃浴劑ニ依リ溫浴ヲ施セル
 後ゴヨル軟膏硫黃軟膏愈創膏又ハ糊軟膏等ノ貼用ミチカナル塗布
 等ヲ行ハリ挫傷患者ハハイヒチカール酒精ヲ塗布ゴロ液發法等ヲ施行シ骨折
 患者ニ對スル何レハ副木ニ依リ固定スルニ鑄帶ヲ施行セリ

〔花柳病〕

花柳病患者ハ依然減少ヲ見ズ他疾病ニ比シテ罹患率大ナリ之ガ傳染源莫除ニ爲
 慰安婦ノ検査ヲ嚴密ニ一般兵員ノ個人衛生ヲ徹底ヲ期シ罹患絶滅ニ努力セリ

其ノ大部ヲ示スル淋疾ニ對スルホチコントチル筋注レキオンドリハロミンノ靜注ナルヲ
 ミン劑ノ衝擊療法等ヲ行ヒロ五ノニハロミンヲアルゴールニ〇%硝酸水液ヲ漸
 進的尿道遠藤ヲ長期ニ行ヒ施行シ第四性病ニ專ラアルヲミン劑ノ衝擊内服ニ依リ
 根治ヲ計リ破性下疳ニハアルサノ劑ヲ注射ヲ行ヒ硬軟下疳性潰瘍ハ燒灼ヨルマ
 ールヨードアルハ末撒布愈創膏點布等ヲ行ヒ前記疾患何レモ全治期ニ至レハ誘
 發法ヲ施行檢血檢鏡ヲ實施シ根治ニ努メタリ

本閣設期間中ニ於ケル午冊名簿寫附表第四ノ如シ

〔中略〕

2 内科

本園設期間中内科疾患の收容總數ハ三名業發ヲ含ムニシテ之ガ主ナルモノハ細菌性赤痢ニ肺結核ニ脚氣ニ急性大腸炎ニ「マラリア」ニ「デング熱」一蛔蟲病ニ濕性胸膜炎ニ「カサ」性黄疸一急性咽頭炎一「クル」性肺炎一急性扁桃腺炎ニ渴病一左腹壁神經痛一其他七名ナリ

主要疾病別ニ癒狀況左ノ如シ

一「マラリア」

本園設期間中ニ收容セル「マラリア」患者ノ多ク兼發ニシテ「マラリア」ニ據ル入院ハ僅少ナリ何レモ(三百熱)ニシテ重篤ナル者ヲ收容セルニ名中一名ハ治愈一名ハ轉送セリ

「マラリア」患者ニシテ再發傾向大ナルモノニ對シテハ收容上都合ニテリ後送依リ専門的加療ヲ受ケンメタリ

二赤痢性疾患

第十六師團衛生隊ヨリ引継グル赤痢患者ハ三名ニシテ内一名ハ治愈後体力恢復ハ必ず認メ「カサ」性療養所ニ轉送セリ他ノ二名ハ何レモ治愈傾向ニテリ現今銳

附表第四

自昭和十九年二月二十五日
至昭和十九年五月十五日
サンタムス大患者療養所手術名簿

病名
手術記号
階級
氏名

左指指端右中指指端
痲痺傳染性膿瘍疹

一月二日
二月三日

疼痛

切開・甲剝離

釋送
一本
陸二補

辻 春一

第四腰椎骨折

二月三日
三月二日

股椎部疼痛

火灸療法

釋送
一本
陸二補

鈴木逸二

左第六七肋骨骨折

二月三日
三月一日

絆創膏固定

釋送
一本
陸二補

真村光雄

急性虫様突起炎

二月三日
三月二日

腰部疼痛

患部起點注射

釋送
一本
陸二

中林國雄

急性虫様突起炎

三月一日

腰部疼痛

患部起點注射

釋送
一本
陸二

片田 薫

〔以下略〕

⑧1 要塞建築勤務第六中隊陣中日誌 (昭19・5・24、26、27、31)

控

自昭十九年五月一日
至昭和十九年五月三十一日
軍事秘密

陣中日誌

第二號

陣中日誌

要塞建築勤務第六中隊

RS 02300
Cincpac-Cincpoa
B- 24 4/3
OKINAWA 10 July

勤務

五月二十四日

曇天

伊江島

命令
作命

行動

二 前日ニ同シ

出場人員

將校三

進下士官九

兵三三七

小遣派遣隊

將校一

進下士官一

兵五三

高手納分遣隊

進下士官一

兵二六

小那覇分遣隊

兵二四

一 作為セシ命令左ノ如シ

要建六中作命第三十九號

要塞建築業勤務第六中隊命令

五月二十五日
伊江島中隊

一中隊八明二十五日建築中ノ兵寮ヲ物品販賣所ニ改築シ新ニ

慰安所 建築木作業ニ任セントス

二 樋渡少尉八橋元介隊及野下介隊ノ一部ヲ指揮シ前項作業ヲ

実施スベシ

三 所要材料ニ關シテハ 決田中尉及比平野少尉ニ連絡スベシ

〔並進〕

二 古瀬伍長以下田三名ハ要立第一工區ニ至リト云コ設備作業

陸軍省 陸軍部

陸軍部

陸軍部

ニ從事セリ

進度 布設線路四〇〇米撤收後新ニ三〇〇米布設ト〇〇用枠は相

一一個製作ト〇〇臺天板取付四七台食卓一脚釜蓋一個

食器入箱一個(何モ現場事務所用)

實働時間 一〇時間三〇分

〇車信伍長以下四三名八翼立第三區ニ至リト〇〇設備作業

ニ從事セリ

進度 ト〇〇線路布設一〇〇米ト〇〇枠箱 九個製作

實働時間 一〇時間三〇分

ハ橋元伍長以下三九名ハ酒保建築作業ニ從事セリ

兵寮トシテ建築セシキ 都合ニ依リ酒保ニ変更ノ為

既設々備ヲ撤收シ内部ノ模様替ヲ実施ス

進度 各間仕切 各室床設備 撤收後酒保トシテ新計團ニ

其基キ土間 食卓 賣店設備 及土壁土塗

〔中略〕

車 中 手 志

進

進

運搬ニ從事セリ

進度 根倒シ松丸太 枝拂と崖木積一九〇本 兵密建築木敷地

(約一〇〇〇米突)へ手挽車輛ニテ運搬ニハ〇本

實働時間 一〇時間

ハ古瀬伍長以下四三名ハ翼立第一工區ニ至リトロコ設備

作業ニ從事セリ

進度 トロコ軌條ニ〇五米突撤收 布設三八〇米突レール轉止

大五〇〇個 小四二〇個 製作

實働時間 一〇時間三〇分

ニ重信伍長以下四三名ハ翼立第一工區ニ至リトロコ設備

作業ニ從事セリ

進度 軌條布設一一九米 引續キ掘開土運搬五五立方米

實働時間 一〇時間三〇分

ホ松原上等守兵以下四名 器具貸出 返納整理及大鑑五丁

尺横鋸四丁 鍍金七丁 刃研手入

實働時間 九時間

(海老原二等兵以下三名八部隊本部ニ至リ備品製作ニ從事セリ)

進度 印鑑箱一個 豆腐製造箱三個 釜蓋一個 製作

實働時間 九時間

(小中隊事務室 上田曹長以下九名事務整理 其他連絡

事務ニ從事ス)

井久保軍曹八内務監視兵八名ヲ指揮シ 露天侍避壕構築

ニ從事セリ

進度 帳ヲ三課ヲ七分通り掘南

一八〇〇ヨリ部隊醫務室ニ於テ月例身体検査ヲ実施セリ

四週番下士一同上等兵一 中隊当番一 炊事五 測量助手一

吉元衛生女長作業隊救護所勤務

出場人員 將校三 進下官九 女三二七

警備作業

衛生

勤務



五月二日

日誌

巻

頁

晴天

伊江島

小灣派遣隊

將校

一 進下士官

一 兵

五三

嘉手納分遣隊

進下士官

一 兵

二六

小那覇分遣隊

兵

二四

行動

中隊ハ前日ニ引續キ左ノ各作業ヲ実施セリ

(1) 橋元伍長以下五ニ名ハ慰安所建築ヲ爲用材伐採運搬

並ニ敷地經始ニ從事セリ

進度 柱材梁材其他一六七本伐採手挽車輛一〇台ニテ

建築敷地ニ運搬 敷地經始

實働時間

八時間

(2) 野下兵長以下三〇名ハ前日ニ引續キ伐採丸木 整理運搬ニ

從事セリ

進度 枝拂ヒ集積ニ〇〇本 手挽車輛ニテ運搬ニ九五本

實働時間

一〇時間三〇分

ハ重信伍長以下四〇名ハ翌日 第一工區ニ至リトコッコ設備

作業ニ從事セリ

進度軌條布設一七四米トロツニ依ル掘開土運搬四四立方米

實働時間 一〇時間三〇分

(二)古瀬伍長以下四名ハ翼立第一工區ニ至リトロツコ線路布設

作業ニ從業セリ

進度既布設線撤收三米 布設二九八米レール止大三五〇個

小田二〇個 トロツコブレーキ四〇台令別製作

實働時間 一〇時間三〇分

(ホ)松原上等守兵以下四名ハ中隊器材ノ手入整理ニ從事セリ

進度未使用木工器具二八箱開梱 油引キキ入後格納

斧一五丁 又研 山鋸二〇本目立

實働時間 九時間三〇分

(ロ)中隊事務室上田曹長以下九名ハ書類製作整理

連絡事務ニ從事セリ

衛生

勤務

命令

日命

五月二十七日

晴後曇

伊江島



二 一八三〇リ部隊醫務室ニ於テ月例身体検査ヲ実施セリ

三 週番下士官一週番上等兵一隊當番一炊事五測量助手一

作業隊收護所一

受領セシ命令左如シ

五〇飛大日命三七號

第五〇飛行場大隊日日命令

五月二十七日
伊江島支令

一 明二十七日二〇〇以後休務ヲ実施ス 依テ勤務ニ支障無キモノ

ハ夕食時限迄 伊江村内ニ外出ヲ許可ス

二 勞務者ハ作業隊長ニ於テ一三〇〇以後適宜休務ニ

伊江村内ニ外出セシムルヲ得

出場人員 將校三 准下士官九 兵三二七

小灣派遣隊 准下士官一 兵五三

吉野納分遣隊 准下士官一 兵二六

小那覇分遣隊 兵二四

行勤

中隊八前日ニ引續キ午前中左ノ各作業ヲ實施セリ

(イ)橋元伍長以下八七名ハ慰安所建築敷地ノ敷正備ニ從事セリ

進度 敷地ノ積土及埋立 敷地ノ道路一〇〇米補修

實働時間 三時間三〇分

(ロ)古瀬伍長以下四〇名ハ翼立第三區ニ至リトロッコ設備及ビ

修理作業ニ從事セリ

進度 既設線路補修ニ〇〇米トロッコ枠箱修理三個トロッコ

ブリーキ修理八個 同製作七個

實働時間 五時間

(ハ)重信伍長以下四〇名ハ翼立第三區ニ至リトロッコ設備ニ

從事セリ

進度 軌條布設七三米لیل轉止製作五〇〇個

實働時間 四時間三〇分

(ニ)松原上等兵以下三名ハ中隊器材手入整備ニ從事セリ

[中略]

車 中 日 志

卷

三

命令
作命

第五〇飛行場大隊長 第三飛行場中隊長 要塞建築勤務第六

中隊長ハ各々現任務ヲ續行スベシ

五第一二九飛行場設定隊ノ任務ハ那覇到着後別ニ示ス

大予ハ那覇ニ在リ

航空地區司令官

青柳時香

三 受領セシ命令左ノ如シ

五〇飛大作命第四九號

第五〇飛行場大隊命令

五月二十九日
伊江島兵舎

一 軍ノ任務及軍隊區分其他ハ一九航地作命申第八號ノ如シ

二 大隊依然現任務ヲ續行セントス

三 兩中隊長 要塞建築勤務第六中隊長 伊江島中飛行場

作業隊長ハ各々現任務ヲ續行スベシ

四 予ハ伊江島兵舎ニ在リ

下達法 將校全員ヲ集メ 口達後印刷配交付

勤務

五月三日

晴天

伊江島

行動

四 廻番下官一 同上等夾二 中隊當番一 筆五 測量班助手一

作業隊救護所一

出場人員 將校三 準下官九 女三二七

小灣派遣隊 將校一 準下官一 女五三

高島手納令遣隊 準下官一 女二六

小那雷令遣隊 兵二四

一 中隊八前日三引續キ左ノ各作業ヲ實施セリ

(1) 橋元伍長以下五三名ハ慰安所建築ヲ續行セリ

進度 重木用松丸太二〇〇本成採運搬 根木取付圖固定済

間柱取付五分通り 通貫取付五分通り 大槓一個刷木作

實働時間 八時間

(2) 野下女長以下三八名ハ物品販賣所 増築作業ヲ續行セリ

進度 物置 製品臺 竈 設備

(3) 古瀬伍長以下四九名ハ覆立第三工區ニ至リト品ヲ設備作業

ニ從事セリ

進度 軌條布設一三〇本米布設軌條修理一〇〇米 軌條配置

一三五米トロッコ修理六臺 連結代用板一〇〇枚 全釘二八〇本

割棟三〇本 工具格納箱一個製作

實働時間 一〇時間三〇分

(三)重信伍長以下四名ハ翼立 第三區ニ至リトロッコ設備

作業ヲ續行セリ

進度 軌條布設一三九米レル轉止六〇〇個製作

實働時間 一〇時間

(六)松原上等女共下三名ハ中隊器具庫ニテ器具手ニ從事セリ

進度 梱包器具庫三箱手入油引格納

實働時間 九時間

(ハ)中隊本部上田曹長以下九名ハ書類整理及ビ諸連絡

事務ニ從事セリ

勤務

二 週番下士官 同上等兵 一中隊當番 一炊事五

測量班助手 一 作業隊救護所 一

命令

三 作為セル命令左ノ如シ

要建六中日命第十八號

要塞建築米勤務第六中隊日日命令
五月三十一日 〇〇〇
伊江島 兵全

一本職派遣隊業務指導並ニ地區司令部連絡ノ為

本三十一日ヨリ四泊五日ノ豫定ヲ以テ 小鴻 嘉手納 那霸

各派遣隊及那霸市ニ出張ス

陸軍上等兵 山堀敏治

二等兵 坂本基一

山田兼則

右本職ニ隨行ヲ命ズ

命令

四 受領セル命令左ノ如シ

五〇飛大日命第四三號

軍中志

誌

Ms. Nakahara

陣中日誌

要塞建築勤務第六中隊

第三號

軍事秘密

自昭和十九年六月一日
至昭和十九年六月三十日

⑧7-2 要塞建築勤務第六中隊陣中日誌(昭19・6・4・5)

RS 77922

Cinopac-Cinopoa

B-13088

Okinawa 26 April 46

WDC #

595 1/2

(ハ) 門扉ニ等兵以下三名ハ翼、五第三區ニテ設定隊長ノ命令

ニ基キ假設工場開設並ニ修理作業ニ從事セリ

進度 火造爐設置 鐵ニメ釘四製作 十字鋸修理 四丁

實働時間 一〇時間

(イ) 中隊本部以上曹長以下七名書類整理及連絡事務ニ從事スリ

四 廻番下士官一同ニ等兵一、中隊當番一、炊事五、測量助手一、救護所一

五 受領セル命令左ノ如シ

五〇番大佐命令 號外 口達

第五〇飛行場大隊命令 六月四日二〇〇〇
伊江島英空隊

一 建築中隊長ハ必要ノ人員ヲ以テ可成速ニ假意支所ノ設備ヲ完成スル

スベシ

二 新筆資材ニ関シテ八月下建築中ノ必要用材料ヲ一時轉用スル

ノ外副官ニ連絡スベシ

三 副官ハ建築中隊長ト協定シテ前項作業ノ區署及資材ヲ

勤務
命令
作命

命令
作命

準備スベシ

六 作爲セル命令在ノ如シ

要建六中作命第三號

要建建築勤務第六中隊命令
六月廿一日
伊江島兵舎

一 中隊八明五日前命ノ家屋ニ假慰安所設備ヲ急造セントス

二 福渡少尉ノ部ノ兵力ヲ以テ前項作業ヲ實施スベシ

三 作業ノ細部並ニ主要材料ハ兵舎建築採用材轉用ヲナスト



共ニ不足ノ介ハ部隊副官ニ連絡スベシ

六月五日

出場人員 將校三 進下士官九 兵三二七

晴天

川湾 派遣 " " " 五三

伊江島

嘉手納 介遣 " " " 二六

川那覇 介遣 " " " 二四

行動

一 中隊八前日作業續行ト共ニ假慰安所設備作業ヲ果シ

セリ

(1) 橋元伍長以下八七名ハ兵寮屋根葺及ビ假慰安所設備
作業ニ從事セリ

進度 兵寮屋根葺ノ員六三名茅及竹連搬屋根茅葺約五分
通り進捗假慰安所設備三四名天幕布及ビ座三間在功
炊事場便所設備全完了

實働時間 九時間三〇分

(2) 古瀬伍長以下四六名ハ翼立第二工區ニ至リ線路補修
其他雜作業ヲ續行セリ

進度 軌條布設五三〇米同補修七〇〇米トゴ修理一七台
連結板代用板二五三枚スパイク代用三八〇個製作湯呑
用杓子四個製作

實働時間 一〇時間

(3) 重信伍長以下四八名ハ翼立第三工區ニ至リトゴ設備
其他雜作業ヲ續行セリ

行動

山那霸令遣

〃 二四

一、降雨、爲舍内待機、其後天候回復、爲前日作業續行

左ノ各作業ヲ実施セリ

(1)古瀬伍長以下四八名ハ翼^ケ五^ノ第一工區ニ至リ線路補修

其他雜務ニ從事ス

進度 線路補修三〇〇米、トコ^ニ車輪修理八台、代用釘

一〇〇本、フ^レキ棒六本、製^ス樑、鍛工場用天幕支柱及ビ

桁製作

實働時間 五時間

(2)重信伍長以下三九名ハ翼^ケ五^ノ第一工區ニ至リ土作業

ニ從事セリ

進度、トコ^ニヨリ掘^リ土搬送五二立方

實働時間 五時間

(3)橋元伍長以下五八名ハ女寮建設未續行其他雜作業

二從事又

進度 六月五日急設、假慰安所、施設撤收及び兵食

ノ床板張り四三、三五平方米、屋根葺用茅、整理收場

設備、爲、杭木伐採一間毎打入

實働時間 四時間三〇分

(三)松原上等兵以下七名ハ中隊器材庫ニテ器具手入其他

雑務ニ從事又

進度 鋼鉄、鍛鉄、選別整理後、大斧刃立六丁、釘刃立

六丁、大山鋸目立七丁、補給中隊、警備中隊、宿舍窓明ハ

亦門脇ニ等女外三名ハ翼立、鍛工場ニ至リ設定隊

器材修理ニ從事又

進度 野臺台一、炭桶キ一、修理、大釘六本、削木、爆破、野臺

(長四五種)二、同上修理八本

(ハ)中隊本部并久保軍曹以下七名ハ書類整理及諸連絡ニ

昭和十九年五月二十七日

オルモツク派遣隊長 栗山達治

第三十一警備隊先任游校殿

オルモツク派遣隊現状報告

一 隊員ノ状況
 (一) 現員

士	官	警	部	下士官	兵	警備員	合計
	一		三	三	三	七	五
			三	三			八
							五

(二) 軍紀風紀

軍紀ハ嚴正ニテ風紀ハ良好ニ保タレリ

(三) 衛生状況

隊員一同元氣旺盛トシテ割合ニ受診患者多シ

才一次 警備員受診患者

却發一 (輕業) 淋病一 (就業)

(業三)

(木村)

味噌醬油等も又塩ヲ用フゝ方 又老不自ナシ
居住関係

別ニ不自由ナシ 航空隊各令(警備隊本部)ハ電灯及入
浴室炊飯備束完成ナシ 近ク完成ス見込 入浴ハ

附近ハウシ河ニテ水浴ヲ以テ之ニ代ヘツルアリ

(4) 其他 篠園ヲ作り野探ノ自給ヲ計ヘト昔慰安ノ端下計画實施

(1) 娛樂 現在ノ處塔^{カサ}施設部ニラカオ^{カサ}一アルノミナリ

(2) 慰安所指定今食堂等陸軍関係ノモノモナシ^{カサ}アルノミナリ

ニ賣ル女婦 十四五名アル由ナシ 全部有毒者^{カサ}ニテ立入^{カサ}禁止

止

刺刀ハ各自持参ス

(3) 老地ニハ理髮店ナリ^{カサ}アルノミナリ 行力カシハ用ヲ達シ得ス

刺刀ハ各自持参ス^{カサ}ハカリカトナシ 出来得トハ一二個送

アリ

(2) 且甲品酒類、理他三買入スモ一箱十十の増減若水綿糸綿布
(被服修理布及銃器手入布)等送付承取

付願度

二 治安ノ状況

最近陸軍側ノ討伐頻繁ナト警備員ノ増加ニ依リ

稍々平穩トナリ民心安定モ見ルノ如シ

飛行場休業人夫七四月三十日襲撃事件ヲ以テ急激

一千三百余ノ人夫約三四百名トナリ之 五月七八日頃ヨリ

増加シ理夜一千數百名トナリ之 亦モ順調ニ進捗シテ

アリ

五月五日以後發生スル主要事件(海軍側ノミ)

五月六日 飛行場作業場ニ兵船不審ニテ捕獲 調査ノ後

果「ヒリヤレン」匪「スパイ」ト判明 陸軍ニ移牒 五月八日

陸軍ニテ刺殺

五月八日 ハウ「河砂利採集場」附近ニ兵船不審ニテ

海軍

[以下略]

⑧ 軍人俱樂部利用規定 [中山警備隊 (在広東)] (昭19・5)

昭和十九年五月

軍人俱樂部利用規定

改採用
「真兵団」

中山警備隊

(四七五三中隊)



軍人俱樂部利用規定

第一章 總則

第一條 本規定ハ軍人俱樂部ノ利用ニ関シ必要ナル

事項ヲ規定ス

第二條 本規定中第一軍人俱樂部ト稱スルハ食堂

ヲ第二軍人俱樂部ト稱スルハ慰安所トス

第三條 部隊副官ハ軍人俱樂部ノ業務ヲ統轄

監督指導シ且正確実テル運営ヲ爲スモノ

トス

第四條 部隊附醫官ハ軍人俱樂部ノ衛生施設及

衛生施設、実施状況並ニ家族、稼業婦
 使用人、保健、調理、献立等、衛生ニ関ス
 ル業、務ヲ担任ス

第五條 部課附主計官ハ軍人俱樂部、經理ニ関
 スル業、務ヲ担任ス

第六條 第二軍人俱樂部、利用込分並ニ料金表
 別紙、如シ

第二章 第一軍人俱樂部

第七條 第一軍人俱樂部ニ於ケル飲食物ハ該營業

主ノ調理セルモノ及酒保品ニ限ル

第八條 庄ノ者ハ單人俱樂部ノ利用ヲ禁ス

ノ所定ノ服裝ヲナサハル者

ニ第七條以外ノ飲食物ヲ携行セル者

3 他人ニ迷惑ヲ及ボス者

第九條 第一單人俱樂部ニ於テ宴會又ハ會食ヲ

行ハントスルトギハ前日迄ニ副官ニ通報シ營

業主ニ交渉スルモノトス

第十條 第一單人俱樂部ニ於テ利用者器物ヲ破

捐シタル場合ハ正當ノ價格ヲ支辨スルモノトス
 第十條 第一軍人俱樂部ヨリ部隊其ノ他ノ場所ニ
 飲食物ノ搬出給仕婦ノ出花ヲ要求スルコ
 トヲ許サス 但シ宴會其ノ他ノ理由ニヨリ之
 ヲ爲サントスル者ハ豫メ警備隊長ノ許可ヲ
 受クルモノトス

第十條 第一軍人俱樂部ノ營業時間ハ一〇〇〇ヨリ
 二四〇〇ノ間トス

第三章 第二軍人俱樂部

第十條 第二軍人俱樂部ニ於ケテ飲食スルコトヲ許サス

第十四條 料金ハ現金先拂トス

第十五條 妓女ノ出花ハ原則トシテ之ヲ許サス

第十六條 左記ノ者ハ第三軍人俱樂部ノ利用ヲ禁ス

ノ前定時間以外ニ利用セントスル者

ニ前定ノ服装ヲ為サハル者

3 著シク酒氣ヲ帯ヒタル者

4 他ニ迷惑ヲ及ボス惧レアル者

5 第十七條以外ノ者及之ヲ同伴セル者

第十七條 軍人俱樂部ノ利用ハ軍人軍屬ニ限ル但

シ第一軍人俱樂部ノミ將校ノ同伴セル場合

ハ地方人ト雖モ之ヲ許可ス

第四章 雜 件

第六條 利用者ハ防諜ニ関シテ細心ノ注意ヲ拂フヘシ

第七條 利用者ハ營業主、奴婢、施設其ノ他軍人、

樂部ニ関シ不當ナルコト見出セハ部隊副官

ニ通報スルモノトス

第三條 利用者ニシテ本規定ヲ遵守セサル者ハ直ニ利

用ヲ禁止スルト共ニ爾後外出ヲ禁ス

第二軍人俱樂部利用時間表

名稱之別	兵	下士官軍屬	將校准士官
利用時間	自〇九三〇 至一五三〇	自一六〇〇 至二〇〇〇	二〇三〇以降 營業時間内

第二軍人俱樂部料金表

階級	料金		備考
	日分	月分	
將校	三〇分仕切	一時間仕切	後半夜仕切
准士官	二〇〇	一七〇	後半夜仕切 料金上三四時 迄時間花代 が加へシヌ
軍屬	九〇	九〇	
下士官	六〇	九〇	
兵	六〇	九〇	

備考
本料金ハ備備券拂トス

⑨第三魚雷艇隊戰時日誌(昭19・7・20)

第三魚雷艇隊戰時日誌

自昭和十九年七月一日

至昭和十九年七月三十一日

九月六日送付



第三魚雷艇隊戰時日誌

第三魚雷艇隊

當魚雷艇ニハ醫務科治療施設ハ無ク隊ノ基地ニ於テ設備シ
現在當隊ニ於テハ民家ヲ借用シ居ルニ依リ治療施設ノ完備ハ
不可能ナルモ其ノ民家ノ一部ヲ治療室及ビ事務室並ニ倉庫ト區
割シ使用シ居ル狀態

第二出征中ノ事項

(一) 醫務科員ノ異動 本期間中軍醫科士官着任ス

着任年月日	前所轄	職	官	氏名	記事
一九一七一	橫五廠	軍醫長	軍醫中尉	濱本央雄	

(二) 天候ノ概要並ニ氣象衛生的ノ影響

本期間中ニ於ケル釧路氣候概況左表ノ如シ

最高氣溫 二四九〇度(前月ニ比シ〇八〇下降)

最低氣溫 九四〇度(前月ニ比シ六〇下降)

平均氣溫 一六四〇度(前月ニ比シ二六七下降)

(三) 月日所在及任務行動ノ概要

當釧路海灣附近 對潛警戒及整備訓練

(四) 出征中ニ於ケル治療品被服糧食飲料水其他衛生ニ關
係アル物品ニ關スル事項並ニ搭載補給ノ概要

(イ) 治療品ニ於テハ主トシテ橫病藥劑又ハ大湊病藥劑部ヨリ

(ロ) 被服糧食ニ於テハ大湊海軍ヲ需部ヨリ

(ハ) 生糧品ニ於テハ當地指定所ヨリ補給シ居レリ

(ニ) 醫務科治療施設新設改造ノ概要 略

(六) 出征中ノ衛生狀況

(イ) 受診患者ノ狀況

本期間中ニ於ケル患者實數三名患者延數三一名卒病一名
外傷二名ナリ

(ロ) 傳染病流行病一時ニ多発セル傷病ノ概要 魚

(七) 被服防寒ニ防熱換氣入浴等ノ衛生ニ關スル事項

當隊主計科ニ於テハ被服防寒衣半長靴等貸與現在兵舎、
新設兵舎モ換氣入浴等モ適當良好ニ行ナワレ居レリ

(八) 寄泊地舎營地占領地ノ衛生概観

現在釧路市ニ於ケル傳染病患者ハ揚チブス三名發疹チブス二
名有リ市立避病院ニ隔離ス現在ハ多發流行病ナリ七月七日
ヨリ一週間ニ亘リ市役所衛生課ニ於テ各工場學校市民ニ對
シチブスヲ防止射ヲ施行セリ

(九) 防疫傷病防止ノ他保健ニ關スル事項

(一) 七月十九日 月例健康檢查施行(發見患者ナレ)

(二) 七月二十日 海軍指尾食堂及當市遊廊ヲ視察点檢シ洗滌室ノ
完備其ノ他衛生狀況良好ト認ル前六軒ヲ指定シ兵員ノ慰
安所トシ七月二十八日總員ニ對シ衛生講話ヲ行ニ一般衛生ニ
關スル諸注意事項ヲ達シ傳染病及性病患者ノ發生防止ヲ計

Handwritten scribbles and initials in the top left corner.

Batch No 186
Class "B"
Quantity 962 CIC Det.
at 8175 W
26-2-45

石兵團會報

昭和十九年度
秘
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z

(六二部通)

22 TABos
五五七六部隊

WD # 72094

OB 70209

會報

CONFIDENTIAL

RS 80190
Cincpac-Cincpoa
B-6667
Cinawa 14 Max

CONFIDENTIAL

第五四號

石兵團會報



九月十四日二八〇〇
仲 間



一 原職檢事ノモリノ有無ヲ調査ノ上十六日正午迄ニ報告ノコト
ニ 外出ニ關シ左ノ如ク實施シテ
ノ 下士官兵ノ延刻外出ハ許可セザルコト

統制ノコト

1 直轄部隊ノ外出區域及外出日ハ別紙ノ如シ(外出許可時期別ニ示ス)
2 慰安所ノ價格ハ左ノ如ク暫定ス

一 時間
ニ 三時以降翌日朝迄

兵 四〇〇〇 將校 一五〇〇

下士官 五〇〇〇 佐官 二〇〇〇

將校 六〇〇 (本價格ニ付ニ割ノ税ヲ含ム)

取敢ヘス當分ノ間馴致ノ爲切符制トシ慰安婦一人ニ對シ兵ニ枚

下士官一枚 將校一枚ト概定

各部隊ハ師團旅團ノ統制ノ許ニ外出ヲ許可スルコトヲ得

三 各部隊ニ於テ要修理兵器及部品材料ノ必要ヲ生ジタル場合ハ撥

ツ失セス速カニ兵器部ニ電話等ヲ以テ連絡處置シ常ニ兵器

整備ノ危壁ヲ期スル如ク努メラレ度

四 最近石第三五九部隊ニ於テ、乘馬ノ騷擾ニ際シ乘馬者ノ佩刀

ヨリ刀身抜ケ落チ其ノ刀尖ヲ以テ乘馬ニ腸露脱ニ至ル傷害ヲ與ヘ

遂ニ斃死セシメタル事例アリ

本件ニ關シテハ兵團編成以來三件ノ前例アリ 自今乘馬セントスル帶

刀本分者ハ其ノ鯉口ノ故障有無ニ就キ特ニ注意セラレ度

五 石第三五九六部隊ニ於テ過勞ニ基ク起立不能(腰疼)馬ヲ發生ス

馬數僅少ナルヲ以テ或ハ乘用トシ或ハ馱載鞭曳等々般ノ用役ニ

之ヲ用フルハ止ムヲ得ザルモ 此ノ際過勞ニ陥ラシメザル如ク特ニ注意セシ度

石

狀況下キラザル時ハ右繰波敷範圍各條項中必要事項ハ必ズ守ルモトス

五 在仲間後方施設ヲ左ノ如ク稱呼シ九月二十日ヨリ營業ヲ開始ス

所在地名	稱	所在地名	稱
安波茶	見晴亭	經塚	觀月亭
		安波茶	軍人會館

又司令部及直轄部隊外出ハ二十日ヨリ實施セヨト

六 巡察報告中左ノ如キ事例アリ各隊ハ嚴密監督指導セラレ度

七 各部隊ハ慰安所開設ニ當リ左記事項ヲ速ニ報告セラレ度
(自後變更正シキハ別記
 付テモ付基ニ報告)

左

記

1 後方施設擔任委員名(委員全員ヲ報告スニ及テス必致掛クニ可)

2 營業開始年月日

3 經營場所
(經營場所ハ現在所ノ外 兼津大田。衣館跡)
 又ハ民家等ノ如ク附記セラレ度

4 經營者氏名

5 妓女數

6 經營內規等アリ其寫

八 本輸送間紛失荷物別紙(各大隊迄)ヲ配布ス各部隊調査上
心當リアラハ通報セラレ度

配布先 各中隊迄 各部班

第五七號

石兵團會報



仲 九月十九日一六〇〇 間

十九日更ニエ兵隊ニテ作業中落盤ヨリ胸部打撲傷ヲ受ケ重傷者一名ヲ生ジリ(杵ガ落盤ニ堪ヘ得ス為ニ負傷ス)各隊ハ杵ヲ組ミタル後作業ヲ進捗セシムル如ク注意ノコト
又杵ハ土質ニ應ズル如ク作成ノコト

ニ巡察報告ニ依レバ左ノ如キ事項アリ各隊注意ノコト

兵舎附近ニテ無帽ニテ出居ル者多シ特ニ日没後ニ多シ

之石第三五九ニ部隊歩兵砲中隊平田一等兵同谷ニ等兵八棚原ニ於テ其ノ指揮シテリタル荷馬車ニ乗込ミ且掌握不確實アリ

石兵團會報第五六號ノ軍人會館ノ營業開始日ヲ九月二十日トアルヲ九月二十五日ト變更ス



第五八號

石兵團會報



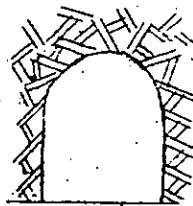
九月二十五日
仲間

一 事務上過失が近來頻發スルニ付各部隊司令部各部副官庶務將校ハ業務手簿ヲ作り遺漏ナキヲ期スルコト

二 爆破作業中ハ附近ノ兵ハ鐵帽ヲ使用ノコト又掩蔽部掘開ニカキ將來框ヲ入ルヲ豫想シテ左ノ如ク爲シアルハ注意ヲ要ス

危険ナリ

框ヲ入レザル時ハ左ノ如ク掘開スルヲ可トス



穹窿型トスルコト
將來框ヲ入レル際ハ右圖ノ如ク隅角ヲ削リ取ルモトス
又框ヲ入レル際ハ頭板上ニ空隙ヲ生ゼル如クスルコト

三 後方施設ニ就キ左ノ件注意セラレ度



ノ税金額ハ營業者ヲシテ貯金ノ方法ニテ保存セシメ他日税額決定ノ折ハ適宜ノ處置ヲ取り得ル如クスルコト

2 檢徴ニ方リテハ妓女ニ不決ノ感ヲ興フルガ如キコトナキコト 某兵團ニハ

妓女ノ顔ト局部ヲ見ツル爲セルモノアリ

3 經營者ト妓女トノ關係ヲ調査シ 分至別等ヲ研究シ遺漏ナキヤクセラレ度

4 他兵團方面ニテハ國民學校兒童ガノゾキ見風教上不可ナルモノアリノゾケザル如ク施設セラレ度

5 風教上妓女ヲシテ附近ヲ猥リニ散策セシメザル如ク村民ヨリ申出アリ

場所ニヨリテハ注意セラレ度

6 妓女等ガ那覇ニ時折歸リ度キ希望アリ然ルトキハ便アリハ證明書ヲ委員ニ於テ發行シ自働貨車等ヲ利用セシメラレ度

然ル時ハ助手台ニ乗セヌコト

7 妓女ハ煙草ニ苦シミアル旨申出アリ出來得ル便宜ヲ與ヘラレ度

ト三八日以降ハ切符ヲ更ニ兵一下士官一ヲ増加差支ヘナシ

ノ配當外出差未得ザル時ハ少ナクモ前曰正午迄届出ノコト

無届ニテ當日ヲ使用セザルニ至リタル部隊ニ後方施設ノ使用ヲ

禁止セシムルコト

四 下士官中ニ陸軍刑法第ニ十條ノ軍事緊急行爲ト第四十六條ノ部

下多衆犯不鎮定ノ解釋ヲ誤リアルモノアリ(狀況口達)

教育ヲ要ス

五 別紙ノ如キ通牒アリタリ各部隊ハ心當リク有無ヲ二十五日迄ニ覺書

ニテ可ナルニ付報告ノコト

六 當部ヨリ發行スル 碎令ニシテ未ダ交付ヲ受ケザル者アラバ調査上

所屬部隊發令月日官氏名ヲ九月未迄ニ通報セラレ度

七 各部隊ニテ搜查處分ニ付スベキ事件發生セル時ハ司法警察官更

ノ職務ノ執行スベキモハ陸訓第三十七號陸軍司法警察執行心得ヲ

熟讀シ職務ヲ下 搜查事件ノ處理ニ付檢察官ニ送致スベキヤ

長官ニ搜查報告スベキハ第五章明カニテ各調査ニハ署名スベキト記

第六二號

石兵團會報



九月二十日
浦添國民學校

一 二十六日午前飛行場ノ作業中石第三五九三部隊ノ兵一爆破實質
 施中ニ負傷セリ各隊ハ遺漏ナカルベキモ兵團會報第五六號
 四ノ爆破軍紀ノ確立ニハ一段ノ注意ヲ拂フコト

ニ 某隊ニテ六月二十五日新鄭患者療養所ニ於テ死亡セル兵ノ速報
 電報ヲ九月二十五日ニ當部ニテ受領セリ調査セルニ遺骨還送
 名簿ニナシカ、ル事^事務上ノ粗漏ト謂フベシ當部ニテハ死歿者ノ連
 名簿ヲ作製シ處理シテリ各隊モ是ニ準スルモノヲ作製シ茲ニ
 理シカ、ルコトナキ様嚴ニ注意セラレ度

第	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
第	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十

七後方施設ニ就キ

八「サック」ノ支給ヲ適切ニシ不足ナキ如クセラレ度

九燈火材料ノ配給ハ注意セラレ度又燈火管制ハ軍施設ナルヲ以テ

免ルニト能ザルモノナルヲ以テ注意ノコト

〇經營者ト被セトノ關係ヲ具體的ニ調査シ次期會報時鉛筆書

ニテ可ナルニ付報告ノコト

〇外出者中水筒ニ酒ヲ入レテ携行シ登樓飲酒スル者アリ

カ、ルモノヲ發見セル其ノ部隊ニ使用禁止ヲセシメラレ度

〇兵中切符ナクシテ慰安所ニ至ルモノ及切符ヲ見セルトテ各室ヲ

覗キ廻ルモノアリ爾今使用時間ヲ十時三十分ヨリ概ネ指定スルコト

又切符ハ張場ニ直テ提示スル如ク指導ノコト

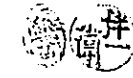
配布先 中隊連 各部隊

第六四號

石兵團會報



十月二日一六〇〇
浦添國民學校



一 自今申告書ハ端書(端書ナキトキハ端書ノ形式ニテ用紙隨意)ニテ提出ノコト

ニ 各部隊現地自活用仔豚ノ飼育ハ遂次開始セラレアルモ津繩縣ハ豚ノ傳染病濃厚常在地ニシテ豫防注射ヲセザレバ全滅スルコトアリ 依テ巡回豫防注射實施上必要ナルニ付各部隊ハ仔豚購入ノ都度其ノ頭數購入町村名ヲ獸醫部ニ通報ノコト

三 那霸開南中學校ニ開設中ノ陸軍病院ハ沖繩陸軍病院ニシテ那霸陸軍病院ニアラゲルニ付承知ノコト

四 巡察報告中左ノ如キモノアリ

ノ 石第四八四部隊欽津隊林兵長曾如上等兵ハ九月ニ太白外生證ヲ所持セテ外出シ理髮店ニ立入りアリタリ

2 各隊共出入口ハ亂雜ニシテ泥靴跡多シ(九月廿日石原四番部隊)

3 石原三五九ニ部隊陸軍上等兵田中清ハ公用證ヲ所持セスシテ

九月廿九日築城材料ヲ運搬シアルハ不可ナリ

4 部隊號ノ標識ヲ附セザル兵多シ(九月廿六日)

5 巡察懸章ヲ附シアル巡察官ヲ見テ道路上ヨリ急ニ隠蔽ス

者アリ(九月廿六日)

6 石原三五九七部隊柴橋小隊ハ九月廿六日西原糧秣輸送ノ歸途

西原一公筒長道ニ於テ轉覆セル山部隊ノ自動貨車ノ引上テ作

業ニ全員協力三十分後之が引上テ作業ヲ完了セリ

小隊長以下終始一貫徹底ニテ援助セル行爲ハ可ナリ

五 衛生場クハ後方施設担任部隊ニ一括交付シ直接慰安所ヲ備

付シアルニ付衣服等アリ

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

將 1 2 3 4 5 6 7
下 1 2 3 4 5 6 7

第七四號

石兵團會報

第三編

十月十九日
清泰國民學校

一 野外ニ於ケル射撃ハ危險ヲ伴フヲ以テ諸兵射撃ノ教範第四

節第二節ノ實施ヲ確實ニシ危險ヲ豫防ニ注意セラレ度

特ニ地方官憲ト連絡シ部外者ニ危險ヲ及ボザルヲト注意事

ニ 石第三五九六部隊地區内ニアル餘行故禮ノ標示ハ兵團ハ何等

開與シアルモノニアラス念ノ爲

三 過般靖國神社合祀名簿ノ記載要領ニ關シ主任書記ヲ集合セシメ

懇切丁寧ニテヲトル如ク教育セシメカハハラス石第三五九三部隊ノ

如キハ殆ト盡クガ不備ナリ近來提出セララル書類ハ規則規定ニ

準據セズ慣例常識ニヨルト思ハル節ナキニアラス各隊ハカカ

リットナキ操縦ニ注意ノコト 靖國神社合祀名簿ハ石第三五九

二部隊ハ名簿十五通中脱字一字ナミナリシハ最近異色アル

仔成績ナリ

倉庫被焚テ禁シアルヲ聞キタルカト尋又ルモ聞キタルコト答ヘリ

12 石塚四八二部隊(島袋)陣地構築材料監視犬内一等兵態

度嚴正守則ヲ理解シアリテ良好ナリ(十月十六日)

14 島袋兵隊部、火薬庫ハ茅屋ニシテ戸手ク倉庫内ニハ爆

破用火薬ト夫ニ乾草ヲ置キ其ハ側ニ天幕ニ連本シアリ

又監視兵ヲ附シアラス危険ニシテ不可ナリ(十月十六日)

15 石塚三五九九部隊衛兵司令中川上等兵以下態度嚴正ニシテ

良ク任務ヲ理解シ熱心ニ服務シアリテ良好ナリ(十月十五日)

16 軍醫部公用兵谷岡一等兵(石塚三五九四部隊)ハ公用證ヲ持参

スルモ無帶劍ニテ仲間村内ヲ歩行シアリ(十月十五日)

17 球第一〇九九部隊松尾隊北住上等兵ハ散發屋ノ歸ヘリト稱

シ地下足袋ニゴホセヲカケス階級章モ附ク歩行シアリ(十月十五日)

18 石塚三五九四部隊谷川隊彈藥庫ハ茅屋ニシテ破損大ナリ

雨天ノ際等ヲ考慮スルニ適當ナラス(十月十五日)

○クハ安波茶区方約ニロ米附近ニ部隊使用ノ馬車ニシテ監視者ヲ
タメ長時間道路ニ停止休息シ道路ヲ閉鎖シアルモナリ注意
ヲ要ス

20 石第四八七部隊ノ兵舎内外ノ清潔整理ハ良好ナリ

21 石第一八八二部隊兵器部勤務(石第四八三部隊平井隊)ノ兵ノ敬

禮ハ厳正ニシテ良好ナリ

十 後方施設ニ就キ

ノ兵團會報第六ニ就ニ注意セラレアル所ナルモ未ダ兵ニシテ切符ヲ

見セルコトナク各室ヲ覗キ或ハ妓女ノ手ヲ握リ強要スル者アリ

又夜間切符ヲ持ツズニテ張場ニ至リ断ラレバ投石シ暴行

ヲナスモノアリ斯ルコトナキ様注意ノコト

2 兵團會報第六號ニテ經營者ト妓女トノ關係ヲ調査報告

スコトトアルモ未ダ提出セザル部隊アリ速クニ提出ノコト

又經營者ト妓女トノ分前ハ今後七分(妓女三分(經營者)トシテ)

經費ハ全部經營者ノ負担ス但シ以前ヨリ現在ノ經營者ト妓女トノ關係

ニアルモノハコノ限りニ非ズ

〔以下略〕

第九號

石兵團會報



十月二十六日
浦添國民學校

一司令部彈藥庫(表門衛兵所附近)ニ二十五日六六〇頃約ニ米ノ金ハブ

一ガ彈藥庫内ニ入ラントスルヲ捕獲セリ

バブ冬眠ノ準備トシテ倉庫等ニ入ルニ非スマト思料セラルニ付

各隊ハ注意ノコト

往長ノ言ニ依シババブハ硫黄ヲ備フヲ以テ洞穴ノ如キニ硫黄ヲ

燃ス時ハ數ヶ月ハバブ來ラザル由

ニ遺骨ハ昨二十五日司令部ニ於テ兵團長以下幕僚部長

皆列ノ後球却隊本部ニ安置セリ遺留品ハ追ツテ示ス時

機近各部隊保管ノ事

三質疑事項ハ一件一葉トスル如ク先ニ指示シアルニ未タ數件

ヲ一葉トスル向キアリ一件一葉ヲ嚴守セラレ度

過般行ヒタル將校特別補充上申者ノ昭和十九年度考科表

八後亦施設ニ就キ

八慰安所ノ切符ノ月日及時間等ヲ故意ニ訂正シテ持戻スル者
 一人ニテ四枚ノ切符ヲ持戻スルモノ 翌朝上ヨリ頃來ルモノ
 准尉ニシテ切符ヲクニシテ飲酒泥酔シテ登樓シ張場又ハ妓女
 ノ部屋ニ寢轉ヒ無理ヲ強要スルモノアリ（三四日石第四八三部隊）
 月日時間ヲ訂正セルモノハ無効トシ切符餘リタル際ハ速カニ査員
 ニ返納シカルゴトナキ如クセラレ度

配布先 中隊迄各部隊

等八四號

石兵團會報

十二月三日
浦添國民學校

將下
社

1 (陸)

2 (海)

3 (空)

4 (農)

5 (商)

6 (工)

7 (學)

8 (醫)

9 (法)

10 (文)

11 (理)

12 (史)

13 (地)

14 (天)

一 洞窟同丸太の近時船舶の増加配當ヨリ概本順調に入荷シテ

揚陸場ニ於ケル迅速處理ヲ圖リ輸送回數ヲ増加ラ圖ク度キニ付各

部隊ニ於テハ支付指示ヲ承知セバ可及的速ク受領手配セラレ度

ニ空襲時那覇ヨリ避難民ヨリ農作物ノ被害ハ農民ニ對シ生産

意欲ニ相當ノ影響ヲ與ヘコトガ減退ヲ來シアルノ現況ナリ

是ノハ軍所要供出農産物ノ供出減ノ口實ヲ與フル原因トナルベ

キヲ以テ農作物ノ愛護觀念ヲ強調ニ關シテハ軍民ヲ問ハズ指

導セラレ度

三 陸地ニ事ノ爲公共物ヲ何等連絡交渉モモズ無斷使用セル向キルコト

ルニ材料ノ取得ニ關シテハ幹部ニ於テ現地現物ニ於テ的確ナル指示ヲ

與ヘ又事前ノ連絡ヲ密ニ紛議非難等ケキ如ク處理セラレ度

例ハ某部隊兵ハ某請負師ヲ採集シタル碎石ヲ工事ニ使用シテ之ガ

非ラ注意セル所將校命令ヨリモノカト稍シ工事ニ使用セリ

2 某部隊ハ無断排水溝ノ石垣ヲ崩シ採石シニ事ニ使用ス

四 蘇鐵ヲ稍々無亂ノ程度ニ切倒シ又ハ偽裝等ニ相當使用シタル狀況ナルモ軍ハ年産二十八萬貫ヲ目標トシテ蘇鐵澱粉ヲ採取計畫中ナリ 蘇鐵ハ軍現地自毛上相當重要ナルモノニ付一般ニ注意シ必要以外ニ切取ル等ノコトナク發護ノコト

五 各隊ハ空爆ニ依リ避難シ來リ慰安婦トシテ新ニ採用シタル者ニシテ既ニ球軍ト慰安婦トシテ契約シタルモアラバ調査ノ上土月十四日迄左記様式ニ依リ報告ノコト

左記

元住所	元屋號	氏名	年令	摘	要

六 巡察報告中ノ次ノ如キ事項アリ

ノ 石第三五九九部隊衛兵司令花房伍長等ノ服務ハ服裝態度等

嚴正ニシテ良好ナリ(土月四日)

第九〇號

石兵團會報

十二月四日 大田
新添國民學校

十二月二日早朝牧港附近道路上(宮城)ニ於テ左記物品ヲ拾得キリ目下石第三五九五部隊ニテ保管シヤルニ付心當リヌ
該隊ニ連絡セラシ度

左

記

1 腰吊圖囊

一個

2 收入品

現金 貳百參拾圓六拾八錢

白邊 乘ト刻スル印鑑 一個

新潮社文庫 一冊 (大町辻山對ト記入セアリ)

慰安所ニ關シ左ノ如ク改定スルニ付各部隊ニ通宜會報セシメ長
石兵團會報第五四號ニテ、慰安所ノ料金ヲ十二月五日ヨリ左ノ如ク改ム

一時 間 半 夜 一 夜

兵 二、五 日

下士官 三〇〇 將校度 一〇〇〇 二五、〇〇〇

(三、六〇) 准士官 (二、〇〇) (三、〇〇〇)

將校准官 五、〇〇〇 (六、〇〇)

(一) 内ハ藝伎又特ニ他府縣ヨリ招致セル者トシ前半夜ニ引續キ後半夜ニ亘ル時ハ其ノ差額ヲ支拂フモトス即チ後半夜ニ亘ル時ハ十五圓ヲ更ニ支拂ヒ合計二十五圓トナル

2. 慰勞所用時刻ハ共ハ夕食時限一時間前下士官ハ點時時限一時間

前上士開始時間ヲ更ニ繰上ケル如クスルコト

石兵團會報第百五號第三項ノスル五月五日以降廢止 免稅トシ豫定

從來ノ稅額トシテ保存セシムルモノハ別ニ示スモ慰勞婦人收入歸ス

ル如クナル豫定

切符制ハ依然存置シ其ノ枚數ハ適宜各地區毎ニ定ムルコト

4. 仲間ニ際シ慰勞所(軍醫部跡)ニ設ケ十二月五日ヨリ營業ヲ開始ス使

用口割ハ仲間慰勞所内稅依生切符ハ發行スル價格ハノノハ内ニ見下ス

第一〇一號

石兵團會報



十二月三日 日一六。
浦添國民學校

一 内務令ニテ六ノ入退院患者ノ身ヲ其他ノ所要事項ノ通報ノ勵行ヲ確
實ニシテ患者ノ軍紀風紀ノ取締ヲ容易確實ニシテ退院患者ノ
離隊逃亡等ノ事故發生ノ防止ニ努メラレ度

ニ 初年次兵ノ離隊跡ヲ絶タザルニ付 各隊ハ指導守ヲ嚴ニシカシム事故ノ
絶無ヲ期セラレ度 初年次兵中ニハ軍隊生活ト他ノ出稼奉公ト同一
視シ又シテ近キ考ヲ有スルモノノ防犯資料ニアル如ク絶無ニテス 精神
要素涵養ノ參考トセラレ度

三 某隊ニテ内務ニ關スル規定ニ將校ノ宿舍ヲ將校官舎ト記シテモ
將校官舎ノ思想ハ適當ナク又宿舍ノ義トスベシ 又將校ハ兵團ノ規
定ニ於テハ部隊ト同居スルヲ建前トス

四 留守業務ノ規定ニ基ク遠發遺書ノ整備要領ニ關シ
於テ起床中ノ以テ近ク通牒セラルベシ 遠發ハ九州一團

三付今ヨリ準備シ置カレ度

三十二月二十七日石師副人恩第ニテ入院患者ニ對スル傷

等差ニ關シ隸下各訂隊宛ニ通牒セシモモガ内谷ハ中隊幹部ニ至迄

承知セシムト云ニ爾後ニ於テ業務處理ニ關シ關係諸官、指導ヲ適切ナ

ラシメシ度(幹部ハ必ズ閱讀シ置クコト)

六 大政翼賛會廣島支訂ヨリ皇軍感謝決議文ヲ送付セラレタリ、

七 軍會報中必要事項左ノヤシ特ニ憲兵隊申出ノ地方人ノ通信ニ現シテ

事項等ハ兵團ニ絶無ナラシム如ク各訂隊ハ嚴ニ注意シ且〇〇後點檢

スルコト

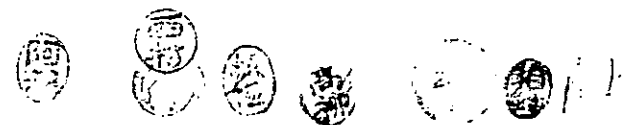
八 九月以降軍内於テ火災ヲ生ゼシ事件八件アリ、一 幹部監督取

締リ不徹底ト取扱者ノ不始末ニヨルモノナリ、火災事件ニ關シテ上

司ニ於テ重要視シテ責任者ハ夫々處罰セラレリ、火災ノ多キ

時期ニハリタルヲ以テ各隊ハ注意ノコト

九 軍内某慰安所ニ於テ飲酒ノ上帳場ニ於テ睡眠シ財布ヲ抜ケタル



事件アリ、遊興ニ於テモ規定ヲ嚴守シ規定外ノ場所等テ遊興睡眠等セザル如ク特ニ注意セシメ度

3 軍内ニ最近飲酒ノ上慰安所ニ於テ暴行ヲス者アリト、慰安所ニ於テ面白ク遊ブ如クセシ度、古語ニ「遊ブ時ニハ馬鹿ニシレト言ヒヤリ

4 軍編成以表飲酒ニヨル犯罪多キニ鑑ミ、年未年迄ニ於ケル此ノ種犯罪防止ニ努メシメ度(法務部)

5 最近各隊、各所ニ於テ檢徴ヲ實施シ此ニ要スル藥品ヲ軍醫部ニ請求スル向クモ此ノ種藥品ハ入手困難ナル現況ニ付最寄部隊協定ノ上一括實施セシメ度(軍醫部)

6 今後入院スル患者ハ個人裝備ノ兵器ヲ持參セムルノ要ナシ陸軍病院用トシテ兵器ヲ交付シタルニヨル(陸軍病院)

7 憲兵隊ノ申出ニ左記要注意事項アリ

不盜難事件頻發ニアリ特ニ自動車部品等ノ窃盜多キニ鑑ミ、車所有部隊ハ注意セシメ度、海軍側ニ於テ

石兵團會報第四三號
陸九項ノ二ノ九ノ懸

車所有部隊ハ注意セシメ度、海軍側ニ於テ

不盜難事件頻發ニアリ特ニ自動車部品等ノ窃盜多キニ鑑ミ、車所有部隊ハ注意セシメ度、海軍側ニ於テ

車所有部隊ハ注意セシメ度、海軍側ニ於テ

車所有部隊ハ注意セシメ度、海軍側ニ於テ

車所有部隊ハ注意セシメ度、海軍側ニ於テ

①

昭和19.10.1~20.3.26

沖繩真志喜警備中隊陣中日誌

62D.13ibS.3Co

⑤2

沖繩

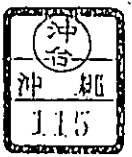
昭和 年度

陣中日誌

真志喜 警備中隊
62D.13ibS.3Co

1944.11.15

(大阪・黒田(田光堂印))



<p>丹羽一等兵以下五名演習終了後其各隊を解散せしむ</p>	<p>二〇九</p>	<p>廿七日 益日 夜 廿七日</p>	<p>一 中隊 昨日三演習三演習習合即西局現任に備へて演習行</p> <p>二 八時演習終了全員異状ナク歸隊ス</p> <p>一 中隊長 第二次演習日見習字ヲ為メ七時三十分召集</p> <p>一 仲間 演習自場ニ至リ十二時丁未解散</p> <p>一 田田 伍長以下五名演習對抗部隊西員トシテ七時</p> <p>一 仲間 演習自場ニ至リ任務終了丁三時田田等ヲ歸</p> <p>一 隊 隊久</p> <p>一 松尾 一等兵 慰安所設置使役兵トシテ七時大隊本部ニ</p> <p>一 八時田田等ヲ解散</p> <p>一 中隊 八演習ニ参加シ異状ナク歸隊後十時ヨリ</p> <p>一 十時迄武器被服等入引実施</p>
--------------------------------	------------	---------------------------------	---

勤儉

部隊日道副官上等
或同族下長服節入

衛生

持記子復了

林少

現員

將校由下言兵六九

命令

別紙知了

掛

殘

現 金 預 金 現 金 預 金 現 金 預 金 計

正月八日
水曜日晴
白雲心晴

一中隊ハ半カクノ以テ現ニ遺作中ノ強化陣地作業ヲ爲シ七時

出奔 一部兵力ヲ我陣週ニ夜間作業ヲ實施工事ノ

疎遠ニ努メテ

一本地上等兵事部並ニ兵器本員共器修理使役兵トシテ

七時十分出奔大隊本や兵共ニ在陣中ニシテ七時迄

隊又

一越村一等兵本の内務衛兵等ノ修理工等ノ爲

七時出奔 十九時退散ナリ歸隊又

一松尾一等兵等ノ夜間ニ爲テ大隊本ヲシテ

十九時退散ナリ

勤務

一日直士官

井上少尉

一办務衛兵

樋口兵長以下二名

一藥倉衛兵 前月兵長以下九名

主計

一持記事項了

現員

一佐士官以上五下七官 十三兵八五六

命令

別紙より知す

年月日	摘要	現	金	金	金	金
二月五日	一 戸隊依然現任給少落合	各隊三丁	各隊三丁	各隊三丁		
同日	担任地出出等十八時歸隊					
初拾	一日直七下成園中長					
二 彈藥倉衛兵相見兵長約十九名						
二全	持子取ナシ					
現負	喰言口及二五下七言十三兵六五四					
今令	別紙ノ如シ					

二月三日

月曜

卯

一 中隊ハ三カヲ以テ担任地ニ陣地作業 自午六時ニ右左奇

一 中隊ハ作令第一六張ニ基キ午前六時至午後八時ノ檢閲ノ

爲 教官ヲ以テ以下九名大山射撃場ニテ終了

時 是 候 予 歸 隊 矣

一 中隊 長 初 年 兵 組 撃 午 檢 閲 ノ 爲 七 時 至 午 八 時 射 撃

場 三 時 至 午 十 時 射 撃 場 也

一 中 西 工 等 兵 以 下 二 名 檢 閲 使 役 兵 上 三 七 時 大 山 射

撃 場 三 時 至 午 三 時 是 候 予 歸 隊 矣

一 松 尾 一 等 兵 慰 安 所 設 置 ノ 爲 大 隊 本 部 三 時 至 午 八 時

歸 隊 矣

進 分	十月十四日 米胆日曇	真志吉	勤務	術	現	今
進 分	一中隊主力以下 十一時與狀力外歸隊入	一中隊長精神刻 教育隊三出發	一高井上等兵慰 二時二十分出發	彈藥倉衛兵 部隊衛兵 日直士高 師團彈藥倉衛兵要員上下	持銃事一項下	生員 生士高 以二五 下
進 分	衛地區 陣地 築 時	話 實施 為 十三時宜野灣初午	安所設置 為大隊本部 （經理室）	市川仁長以下九名 小川伍長以下四名 相尉	北田一等兵八時大隊本部	中 高兵 六 向
進 分						
進 分						

十二月十五日
金曜日
眞志 喜

勤務

午前中内務整理
午後環境整理

本地上等兵本部使役委員トシテ大隊本部ニシテ(十五時歸隊)

一應谷庫曹長

日直士長

單葉名

持記

特別

特別

特別

十月十六日
土曜日
眞志 喜

一中原中將ヨリ發地日陣地作業ヲ實施セシメ歸隊ス

一本地上等兵本部兵務委員ニ使役委員トシテ(十七時三十分出立)

一十八時歸隊

一時歸隊

一井上兵長 交通監安 自トシテ十七時大隊本部ニシテ

一中隊長以下四科隊員同シテ(十七時三十分出立)

一廣田曹長以下四名亦業教習ニシテ(十八時歸隊)

一藤村兵長以下九名

今現衛

令員志

持記
生十官以上 下十官兵六丁

計 金 預 金 現

要 摘 日 年 月

93 獨立混成第一五聯隊聯隊砲中隊陣中日誌(昭19・10・4)



自昭和十九年十月一日
至昭和十九年十月三十一日

陣中日誌

獨立混成第十五聯隊聯隊砲中隊





十月四日

晴天(水)

窪久地

七 謝花北里各分宿小隊ニ於テ各小隊長指導ノ許ニ人夫
三九名使用シ陣地構築ヲナセム

一〇八。中隊ハ兵舎内ニ於テ聯隊ノ指示事項ニ基テ勸諭
奉讀式ヲ興行ス

二〇九。醫務室ニ於テ隊長以下全員体重測定ヲ實施ス
三一〇。兵舎前ニ於テ所田軍醫衛生講話ヲ指揮班
全員ニ聽講セシム

四 同時伊野波及地帯陣地偵察ノ夕ノ出発一四。飯塚

第一小隊長 陸軍少尉

武藤仁雄

七本日患者 練兵休 陸軍々曹 岡 田 夫

八一四〇。第一大隊配備要圖ヲ將校全員提出ス

一〇一五〇。武藤 佐藤 西小隊長ヲ中隊本部ニ招致作命

第七ノ号ヲ依ル築城並ニ分屯ニ関スル指示ヲ與フ

一一謝花北里各分宿小隊ハ作業ヲ中上ト器具及材料ノ
整理及分宿地移動準備ヲナサレム

獨立混成第十五聯隊命令省略
獨立命令支號 一三一九五。

駐屯地命令支號 一三一五〇。北地区駐屯地命令

一本部所渡久地ニ南設セシ軍慰安所ヲ渡久地軍慰安
所ト呼稱ス

三渡久地慰安所ハ十月五日〇〇〇ヨリ使用許可ス

三渡久地慰安所ノ使用ニ関シテハ北地区駐屯地軍慰安
所使用規定ヲ嚴ニ履行スベシ

以下略

⑨4 獨立混成第一五聯隊第二機關銃中隊陣中日誌 (昭19・11・4)

自昭和十九年十一月一日
至昭和十九年十一月三十日

陣中日誌

獨立混成第十五聯隊第二機關銃中隊



晴日
全曜日

二、一〇〇〇（今降作被逐）
三、八〇〇—一八〇〇陣地構築作業

明日
明治節

四、細密診断

衛生課

山本伍長、木村一等兵、大島一等兵

西田上等兵、山田一等兵

以上血況ヲ行ヒタリ

宿營地

五、沖繩縣國頭郡今帰仁村謝名

勤務

大歩哨、前川一等兵、宮林一等兵

預書、勤務ニ服スヘシ

人員

中野中尉以下五二名（中隊長古張）

十月四日

一、本日休養

晴日

二、本日ヨリ兵營開設ス

上曜日

三、慰安場規程配布同時ニ開設

四、一八三〇中隊長帰營

⑨5 1 獨立混成第一五聯隊第一大隊本部陣中日誌(昭19・11・7、15、17、26)

自昭和十九年十月一日
至昭和十九年十月卅日
表紙共
枚

陣中日誌

第六號

獨立混成第一五聯隊第一大隊本部



人員

謝花
十一月是日晴

受領

以下那覇市出張ス

不在間大隊指揮ヲ御子神大尉執ルベシ

三十六名

茶馬 二頭 單犬 二匹

一 大隊長 以上号簿習見學出張

〇五〇〇——二二〇〇

二 彈藥庫 教走作業

〇八〇〇——一七三〇

三 蝟壺式 待遊壕 教走作業

一三〇〇——一五〇〇

四 大隊副官 慰安傳授教件 社々今歸々方面出張

一三〇〇

北地區隊命令

一、七、久、一、〇、〇、〇

一 軍、地方住民ト表位ヲ嚴禁レ一月一〇日マデニ之カ

清掃ヲ期ス

二 地區隊ノ軍方針ニ基キ来ル十日マデニ現ニ地方住民ト

混居ナル部隊ヲ菜屋、葎舍等ニ転居セシメントス

三 本部各隊ノ現作業ヲ實施スル傍一部ハ兵力ヲ以テ陣地

陸軍

二十六日陸軍第四八旅之旨に徹底ヲ期セルヲ旅團ヲ
 左記要領ニ依リ実施スルニトニ定メラレタリニ付各隊一
 毎月二十三日迄ニ齊ヨリ生シタル場合ハ大隊本部兵糧
 抄ニ返納シト

ニ齊ヨリ乾電池ノ復生管ヲ五月取廻メ旅團ニ返納スル
 又トス蓄電池荷造リノ際ハ電化ヲ完全ニ除去シ輸
 送間漏ノタメ他ノ軍需品ヨリ損傷セシムルコトヲ極
 留意セラレタリ

三十八名 茶馬二頭 軍犬二頭

十月七日晴
 謝花

- 一 陣地構築作業 (飯沼伍長以下三名) 〇八〇〇一七三〇
- 二 軍需品及軍慰安所施設作業 〇八〇〇一七三〇
- 三 御子神大尉各隊兩疏戰備状況視察セシムルコト 〇八〇〇一七三〇
- 四 聯隊長第二中隊(對砲爆施設並ニ集積状況視) 〇八〇〇一七三〇

人員

予定及下名護所球一八八〇部隊ニ出張ヲ命ズ
三十四名 軍馬ニ頭 軍犬ニ匹

十月二十日晴

謝花

一市子神大尉以下九名ヲシテ整備隊担架隊訓練セシム
二慰安所設備完了ス

受領

北地區隊命令

二一六 一三〇

独派ニ作命セヨ

一部隊ノ情勢ヲ即應スル為對戰車砲攻資材ノ整備
及之ヲ取扱、教育ヲ実施ス

二兵器委員ハ三十日午前第一大隊同午後第二大隊ノ
下士官以上全員ニ對シテ前項教育ヲ担任実施スベシ

三第三線西大隊ニ專習員トシテ下士官以上全員ヲ召集
兵器委員ノ教育ヲ受ケシムベシ

四本部及独立中隊ハ第一大隊ノ教育ニ參加スベシ

五教育計画ハ別ニ配布ス

一陸 軍

以下略

⑨5 2 獨立混成第一五聯隊本部陣中日誌 (昭19・12・28、31)

自昭和十九年十二月一日
至昭和十九年十二月三十一日

陣中日誌

獨立混成第十五聯隊本部



Handwritten notes and signatures, including "Y.W.K.", "85958", and "1935".

1 90466
C. Capac-Cimpoa
B- 23 634
OKINAWA 2 July

下
三
下
三

十二月二十六日(日) 一大隊長第三大隊ニ出張ス一〇〇〇

二地

二御子神大尉ニ第三林中隊第一機関銃中隊作業
情況ヲ視察セシム一〇〇〇

三御子神大尉渡辺伍長ヲシテ越来村会ニ立会セム

支領

南地区隊命令

島ニヤ、ロヒ、
袋

獨混一五作令一〇〇
一、十二月二十七日ヨリ一泊し豫定ヲ以テ北地区隊配備

號

並ニ陣地施設ヲ視察セシトス

二岡澤大尉及傳令一ハ本職ニ隨行スベシ

南地区隊長 美田大佐

十二月二十八日(日)

二地

一大隊長 戰鬥指揮所作業指示ス一〇〇〇

二大隊長 第三大隊ニ出張ス一五〇〇

三水野少尉旧駐屯地ヨリ連絡ノ為来隊ス一〇〇〇

四御子神大尉ヲシテ第一中隊並ニ大隊戰鬥指揮所

ヲ視察セシム 渡辺伍長隨行一三〇〇

五臨時軍馬受領ノタメ山谷少尉以下二名金武村へ出張

受領

獨立混成第十五聯隊命令

一三三六、一六〇〇 島袋

獨立ニ作命令第一〇二號

一旅團ハ嘉手納連絡所、編成ヲ変更ス
ニ聯隊ハ獨立四旅作命令第一〇六號ニ基キ派遣セル

將校以下一部隊、兵力ヲ撤收シタメ原所屬ニ復歸

セシメントス

三中村中尉ハ十一月二十八日一三〇〇ヲ以テ現任任務ヲ特設

警備第一ニ四中隊ニ移讓スルト共ニ下士官一、兵七

ヲ新連絡所長、指揮下ニ服務セシムヘシ

四中村中尉ハ任務移讓後撤收人員ヲ指揮シ速カニ

原所屬ニ復歸スヘシ

獨立混成第十五聯隊長 美田大佐

會報

桑江慰座所使用ノ件

都屋監視哨長竹内軍曹

歩哨 古林一等兵
鶴見一等兵 夏野一等兵
向川一等兵

渡具和監視哨長松下上等兵

歩哨 平山一等兵
山岡一等兵 鍛冶一等兵

員

渡度次 將校以下七三名

分屯隊 將校以下三〇名

渡 渡將校以下二三名

十二月三十日
渡度次

一 午前中八舎以外、清潔整頓、便所、渡取り、容易施入

二 〇九三〇ヨリ中隊長、内務監視ヲ受ク

三 午後八時入右ヲ行ヒ還境、敷整理ヲ行ヒ後休養スルト

空襲警報 四 〇八〇空襲警報令 〇八三五空襲警報解除

受 命 五 井上隊長命令第廿五號 十二月二十日

廿二日 命 一 明元旦新年拜賀式ヲ舉行ス 依前注、通心得ヘシ

イ 整列 〇九〇

ロ 場所 校庭

ハ 大隊長臨場

ニ 皇居還拜

ホ 訓示

ヘ 萬歳奉唱

ト 警敬 禮

チ 開散

各隊ハ〇八四〇迄ニ整列完了隊形ハ現地ニ於テ示ス
服裝ハ單履ヲ軍靴トシ略後佩用トス

今屯隊ハ現地ニ於テ與テ行スヘシ

ニ 別紙ノ通り直將校ニ服務スヘシ

別紙 三日 田開曹長 十日 田開曹長

四日 大門中尉 十日 大門中尉

日直

一 察

三、第一二區巡察將校左ノ通り版務スヘシ

自十一月三十日
至一月六日

中野中尉

自十一月七日
至十一月十三日

美井少尉

自十一月十四日
至十一月二十日

田村少尉

自十一月二十一日
至一月二十七日

吉川准尉

受會報

六、井上隊會報

一、慰安所使用規定別紙ノ通り配布ス(略ス)

開業ハ一月二日ヨリトス

二、陣中日誌ノ提出ハ用元旦夕刻マテノコト

七、中隊新陣地既備要圖別紙ノ如シ

勤務

中隊目直下士官 奥原軍曹

同上等兵 山城上等兵

部隊衛兵司令 立本伍長

掛岩 上等兵

分屯隊
勤務
八分屯隊八午前中、舍外、整頓午後休養
日直下士官
竹内軍曹

都屋監視哨長
竹前伍長

步哨
澤田一等兵
下山一等兵

渡具知監視哨長
中山伍長

步哨
越巻一等兵
中瀬一等兵

兵移動
九麻柄軍曹以下二名
彈藥集積荷馬車監視下三十分歸

仁ヨリ中隊ニ復歸ス

渡慶次
將校以下
七五名

分屯隊
將校以下
三口名

後發
將校以下
二一名

步哨
松井一等兵
甜天一等兵
堀田一等兵

入井一等兵
小柴一等兵

長瀬一等兵

返 函 史 料

95-3 獨立歩兵第一五聯隊本部陣中日誌 (昭20・1・8、13)

昭和十九年十二月一日

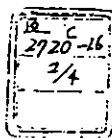
昭和二十年一月三日

一月三日

沖繩陣中日誌

獨立歩兵第一五聯隊本部

防衛研修所



會報



五月八日 一六〇
三城國民學校

- 一 師團第一回武技競技會ハ來ル一月下旬師團司令部於テ科枝下士官兵ニ區分シ銃劍術手榴彈投擲ノ禮目ヲ實施セラル、豫定ニ付各隊ハ一層エケ練磨ニ勉メラレ度
- 二 尚實施方法、細部ハ建テ示サル、ト告
- 三 十一大隊ニ於テ火災ヲ起シ兵舎ヲ燒キ爲ニ輕機四小銃一ニ燒失セリ
- 四 各隊ハ特ニ火災豫防ニ注意且常時豫防對策等ヲ構シトクモ不注意ニ依リ係ル不詳事件ヲ惹起スルガ如キ事ナキ樣嚴ニ監督指導セラレ度
- 五 一月六日附部隊勤務ヲ命セラレタル成毛軍醫少尉ハ一月七日着隊ス
- 六 水崎隊ヨリ左官ノ心得アル兵一名ヲ明九日八時建ニ經理室前ニ差出シ武藤主任計中尉ノ指示ヲ受ケベシ
- 七 後方施設ニ關スル内規ヲ別冊ノ通り定ム
- 八 白砲與山隊(球一八ハ四部隊)富名腰ニ指營ニ胸部標識



後方施設ニ關スル内規

昭和ニシテ石部三五九六部隊



第一本規定ハ石部三五九六部隊後方施設ニ必要ナル事項

ヲ定ム

第二本施設ヲ大和會館(分館)敦島館ト呼稱シ石部三

五九六部隊(配屬部隊ニ含ム)及特ニ指定スル協同部隊

之ヲ使用ス

第三會館ノ使用區分左ノ如シ

大和會館 本部 江戸隊 松島隊 天倉隊 須川隊

外山隊 出村隊 志者療養所

敦島會館 伊藤隊 松田隊 水崎隊 橋本隊 作業

隊 通信班 古瀬隊

第四 左ノ各項ニ該當スルモノハ會館ニ出入スルコトヲ得ズ

ノ見習士官等

2 本業基本教育間、初年兵

3 部隊長又ハ各隊長ニ於テ出入ヲ不適當ト認メタルモノ
第五 會館利用時間ハ其分ニ應ズルノ外、外出期限内トシ正午ヨリ

兵々食時限一時間前、下士官ハ餐時時限一時間前迄トス
(營外下士官ハ營内下士官ニ同シ)

尚下士官以下ノ臨時延刻外出ヲ嚴禁ス

第六 左記委員ヲ設ケ各其ノ業務ヲ分担セシム

左記

全委員長 全級統轄

甲委員 軍紀風紀

乙委員 經理一般

丙委員 衛生一般

第七 會館ヲ利用シテ將校ハ下士官ト下士官ハ兵ト會食スレ

コトヲ禁ス

第八 會食場ノ使用ハ部隊長ヲ將校團結又ハ地方要人ヲ必要上招待スル場合ニ限ル

但シ將校ニシテ會食場ノ使用ヲ是非必要トスル場合ハ利用自的ヲ明ニシ前日正午迄ニ委員長ノ許ニ申出デ部隊長ノ認可ヲ受シルモノトス

第九 會館ノ是休日ハ毎月八日及二十三日トシ從業員ノ身體檢査

ハ毎週土曜日ノ午前ニ於テ軍醫之ヲ實施スルモノトス

第十 會館使用ニ方ヲ堅ク左記諸件ヲ嚴守スルモノトス

ノ軍紀風紀ヲ嚴正ニスルコト 特務局柄地方人ニ惡感作

ヲ及ホサバル如ク注意ノコト

ニ防諜ニ關シ特ニ注意シ宣ノ秘密ヲ暴露スルガ如キ有害

ナル談話ヲ禁ス

ニ禮儀ヲ重ンジ又經營者從業者ニ對シ非常識ナル言

動ヲ爲サバルコト

建築物及備付器物諸物品 破損シ或ハ使用物品ヲ持出

ササルコト

破損ヲ對シテハ損害賠償ノ責ヲ負ハシム

第十一

花代 左ノ如シ

一時間 兵 二五〇 下士官 三〇〇 將校(准士官ヲ含ム) 五〇〇

前半夜(二十三時迄) 一〇〇〇

後半夜(二十三時以後) 一〇〇〇 將校(准士官ヲ含ム) 後半夜三時

前後半夜(三時迄) 一五〇〇 以後ハ懲罰業セス


第十二 當分ノ間切符制トシテ從業員一名ニ對シ一日 下士官 二枚 兵 三枚

以內トス

切符ハ本部ニ於テ發行シ様式左ノ如シ

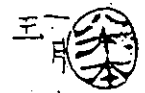
第十四 經營者ハ前項様式ノ慰安券ヲ携行セザル者ハ出入セシメサル

モノトス

券安慰 下 石第3596部 隊 第 號	
隊印	
同	兵
上	

會

報



一月十三日 六〇〇
三城國民學校

三 輕隊(五三三型)下士官以下、外出ハ飯塚部隊外出ニ關スル規定並
後方施設内規ニ基キ毎週日曜日及木曜日ニ宿舎施スルモノトス

尚後方施設ハ宿舎ニ設備シアルモノヲ利用スルモノトス

二 前田隊(石共團病馬廠)將校(下士官一兵一)ハ慶良象ニ宿營
シ作業ヲ開始セリ

一 前田隊(下士官以下)外出ハ飯塚部隊外出ニ關スル規定並後方
施設内規ニ基キ毎週水曜日ニ宿舎施スルモノトス

尚後方施設ハ宿舎ニ設備シアルモノヲ利用スルモノトス

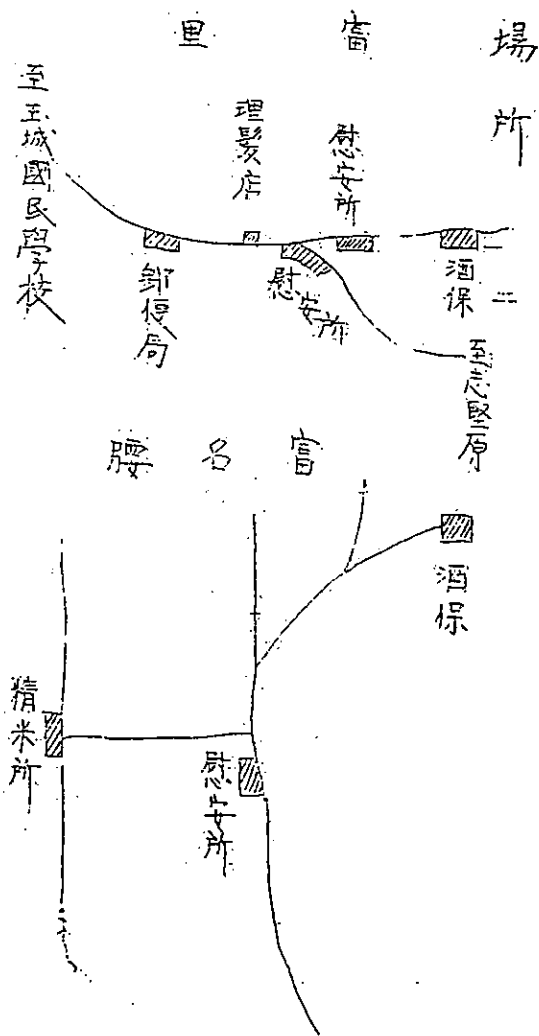
四 橋本隊ハ一ニハ五高地ノ學校裏ノ學校前間ヲ營内ト看做
シ單獨共ヲ無帶劍ニテ行動セシムルハ軍紀上不適當ナリ

營内ハ宿舎ヲ中心トスル一區域トシ戒心可ク小範圍ニ規定スルヲ要ス
自今ラジキノ聽取ヲ禁ジラレタルヲ以テ各種受信機(個人用)ニツキ

調査シ携行者アラハ一時取上ケ處置セラレ度
尚所有者ノ有無ヲ速ニ報告ノコト

六 空襲警報聞ニ於ケル爆破作業中止ニ關シ再三注意シアルナロコナルモ未
徹底セズ速ニ末梢部隊ニ至ル迄停止ヲ徹底セラレ度

(至五公團會報一月九日)



自昭和十九年十一月一日
至昭和十九年十一月十日

本文體表表紙共三十五枚

陣中日誌

10
48

獨立混成第一五聯隊第八中隊調製



支領命令(被奉)
西員第八。號

大隊人員變化ナシ

日直下士官・吉田軍曹

伊江島地區隊命令

十月九日 六〇。伊江島

四日直地ニ巡察將校左ノ通リ服務スベシ

月日	日直將校	巡察將校
二一三		中澤少尉
二五	竹田中尉	
〃元		渡邊中尉

會報

一爾今休日コトヲ記、如ク實施スベシ

左記

水曜日 第八中隊 野砲

二休日ノ日勤勞奉仕アル際ハ各隊ハ午前午後共約半數ノ兵力ヲ陣地構築ニ差出スベシ

三自己中隊休日ニ當リ午後俾地構築ニ出場スル者ニ限リ
自一三〇〇ノ間外出マシムルコトヲ得

四休日ノ際ニ於ケル外出時刻ハ一般ニ一三〇〇以降兵ニ在リ
 テハ一六〇〇迄下士官ニ在リテハ一八〇〇迄トス但シ下士官
 ノ慰安所ノ使用ハ一六〇〇以降トス

五、單療及慰安所ハ毎日(金曜日ヲ除ク)〇九三〇—一八〇〇
 迄開設マシム但シ午前中ノ使用ハ休日配當中隊ノ
 兵員中午後作業ニ出場スル者ノミトシ中隊ニ於テ
 細部ハ指示スベシ

六下士官以下ハ自己配當休日ニ單療慰安所ヲ使用シ
 其他ノ日ニ於ケル外出地ニ使用ハ嚴禁ス

七一般ニ公用以外ノ外出ヲ禁ス 公用者ハ在野以上ノ證
 明書又ハ公用腕章ヲ附シアルヲ要ス

且在野以上ノ單療地ニ慰安所ノ利用ハ日夕點呼後

自昭和十九年十一月一日

至昭和十九年十一月三日表紙共三枚

陣中日誌 第六號

獨立混成第十五聯隊第三中隊



人

員

一 二 二 名

十月三日
四樓

一中隊長〇七三〇ヲ幹部教育出場タシ出發（一泊二日）

小隊長三名ニ隊長ト共ニ出發ス

二 塚越曹長 旅團司令初ニ於テ實施ル法務初將校講

話聽講タメ〇六〇〇出發一九〇〇取隊ス

三 各將校不在タメ各少隊連絡掛下士官指導下ニ兵舎建築

從事ス

四 其他特記事項ナシ

受領命令
後覆命ナシ

獨立混成第十五隊隊命令 十月二十四日

十一月一日ヨリ十一月三日ニ到ル間別紙計畫ニ依テ對戰車肉迫

攻査査閲ヲ實施ス

同日大隊命令

十一月三日ヨリ別命ニ依テ本部及各隊ノ外出ニ関シ左通リ

心得ヘシ

1. 目的 軍慰安所及軍營使用セシム

2. 外出許シ人負 各隊人員、三ノ一以内

3. 外出区域 謝花地区内(各隊ノ駐屯地ヲ謝花通シ道路ノ合)

4. 外出時間 一ニヨリ以後トシ暇時利便ニテハ軍隊内務命令ニ

5. 服装 北地ニ駐屯地規定ニ依ル

6. 外出日 日曜 1 2 中隊

月曜 本 3 149 以下繰返シテ禮休トス

但シ都合ニ依リ各隊ニ於テ外出日ヲ交代スルコトヲ得

ニ各隊内務掛准尉ノ外出簿ヲ作製シ上外出日ヨリ進メテ希望者ノ氏

名ヲ記入セシメ点檢スル後中隊長ノ許可ヲ受ルベトス

三各隊週番(日直)士官ハ外出禁ニ依リ外出人員ヲ承認スル後七ガ服装

〔以下略〕

昭和十九年十二月分

陣中日誌

北飛行場五六飛大派遣

重信班

實働時間 各班共九時間

入院三入室二

出場人員 下土官一 共三八

衛
十月三日
曇 天
三遊行場
行、勤

作業隊長ノ命ニ依リ直信伍長ハ女三名ヲ
區署若シ 左ノ各作業ヲ續行セリ

(イ) 宮田上等立六女二〇名ヲ指揮シ前日ニ引續

キ便所移轉及 洞窟施設作業ニ從事ス

進度便所移轉完了 洞窟扉出嵌込ニケ所

完了

(ロ) 荒武上等立六女二〇名ヲ指揮シ松立木伐採

及 鍛工場設置並ニ木工雜作業ニ從事ス

進度 松立木伐採ニ五四九石 鍛工場

未完

衛



十月三日

晴天

美濃行場

勤

米設置六分通り迄トロツ梓箱修理二台完了

實働時間 各班共九時間

入院三入室二

出場人員 下士官一 女三

作業隊長命ニ依リ重信伍長ハ女三名ヲ

區署シテ各作業ヲ實施セリ

宮田上等兵六女九名ヲ指揮シ洞窟施設

作業ヲ繼續行セリ

進度 洞窟梓箱設置シテ所完了

荒武上等兵六女二名ヲ指揮シ軍人俱樂部

部改築 及木工雜作業ニ從事セリ

進度 軍人俱樂部内部改造三分通り迄

衛生
三月三十一日

學天
北野行場
行動

トロツコ碎箱修理ニ三台完了

買物時間 各班共九時間

入院三人入室二

出場人員 下士官一 女三八

作業隊長久命ニ依リ皇信伍長八十六三名ヲ

區署シ左ノ各作業ヲ實施セリ

(1) 宮田上等女八女九名ヲ指揮シ洞窟屈施設

作業ヲ續行セリ

進度 洞窟屈碎散込メ六ヶ所完了

(2) 吉川武上等女八女二名ヲ指揮シ早久俱樂部

改築及鍛工場設置並木工雜作業ニ從

事セリ

進度 軍入俱樂部内部改造 五分通り迄

鍛冶場設置八分通り迄 松立木伐採一〇石

トロッコ枿箱修理一〇台完了

入院三人入室二

出場人員 下士官一 兵三九

衛生 十二戸三春
曇天 五三行場
行勤

作業隊長ノ命ニ依リ 直信伍長ハ作業班區署

作業指示後 本隊ニ出張 鍛冶場器材ノ受領及

事務連絡ニ從事シ 即日歸隊セリ

各班ノ宿舎施セル 作業成田木左ノ如シ

(イ) 宮田上等兵六名 九名ヲ指揮シ 洞窟屈施設

作業ニ從事セリ

進度 洞窟屈修設迄シ 六分所完了

衛 生
 十月三十日
 晴天
 共體行場
 行 勤

(四) 荒武上等兵八女二〇名ヲ指揮シ第四三部隊

軍人俱樂部改築及鍛工場設置作業ニ

從事セリ

進度 軍人俱樂部内部改造八分通り迄

鍛工場設置完了

實働時間 各班共九時間

要建六中目命第三四号ニ基キ門脇ニ上等兵八

當分ノ間 重信分隊ニ於テ勤務ヲ命ヅラレ

一八〇〇着隊セリ

入院三入室一

出場人員 下士官一 兵三九

作業隊長ノ命ニ依リ 重信伍長八女三名

衛生
十月三日
曇天
北越行場
行勤

ヲ區署シ 松立木伐採及鍛工作業ニ從事セリ

進度 松立木伐採五三日 鍛工場火式及器具修理

實働時間 九時間

入院 三入室ニ

出場人員 下士官一 女三九

作業隊長ノ命ニ依リ 重信伍長ハ女三三名ヲ

區署シ 左ノ各作業ヲ實施セリ

(イ) 宮田上等女ハ女二一名ヲ指揮シ 軍人俱樂部

内部改築作業ニ從事セリ

進度 五兵衛大軍人俱樂部改築ニ介通リ 迄

第四工部隊軍人俱樂部改築模様替ハ完了

(ロ) 荒武上等女ハ女二名ヲ指揮シ 建築材料

<p>伐採及鍛工作業ニ從事セリ</p>	<p>進度 松立木伐採二三石 鍛工場器材修理</p>	<p>實働時間 九時間</p>	<p>入院三入室二</p>	<p>出場人員 下士官一 女三九</p>			<p>作業隊長ノ命ニ依リ車信伍長ハ女三名</p>	<p>ヲ區署シ 爆彈搬送器製作及鍛工作業</p>	<p>ニ從事セリ</p>	<p>進度 爆彈搬送器二個完成 鍛工作業</p>	<p>工具製作 三介通り迄</p>	<p>實働時間 九時間</p>	<p>入院三入室二</p>
---------------------	----------------------------	-----------------	---------------	----------------------	--	--	--------------------------	--------------------------	--------------	--------------------------	-------------------	-----------------	---------------

衛
由

衛
由
十百三十五
曇天
其越行場
行動

陣中日誌用紙

陸軍

十月三十日

曇天

北飛行場

行 勤

出場人員 下士官一兵三九

作業隊長ノ命ニ依リ作業中止重信伍長ハ
午前中被服器材ヲ手入整理ニ從事シ午後
兵三九名ヲ指揮シ本隊ニ至リ演藝會ヲ
觀覽スルニ養セリ

入院三人室二

出場人員 下士官一兵三九

曇天

北飛行場

行 勤

作業隊長ノ命ニ依リ重信伍長ハ兵三三名ヲ
區署シ左ノ各作業ヲ實施セリ

(イ) 荒武隊上等兵八女二三名ヲ指揮シ軍人

衛

生

俱樂部内部改築作業ニ從事セリ

進度 内部改築完了(別紙略圖ノ通り)

(口)宮田上等女八女一七名ヲ指揮シ伐採及

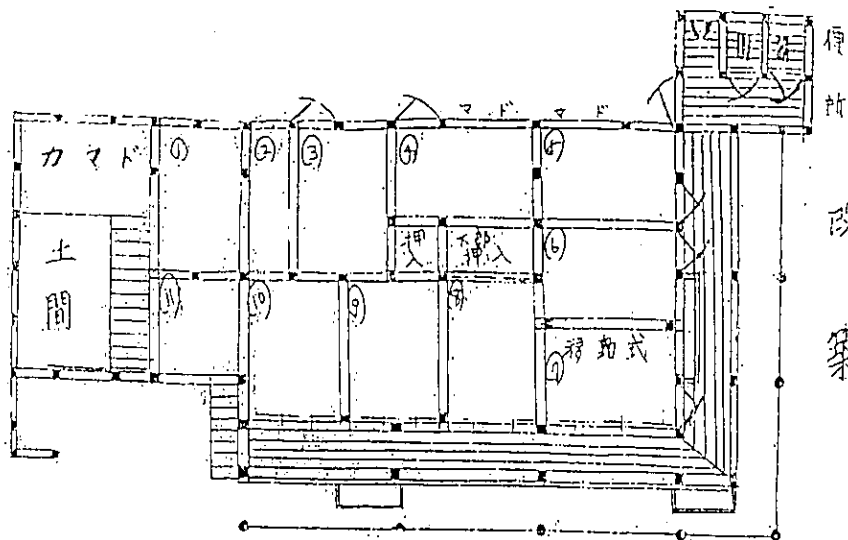
鍛工作業ニ從事セリ

進度 伐採松丸太八箇石 鍛工作業工具

製作 五分通り迄

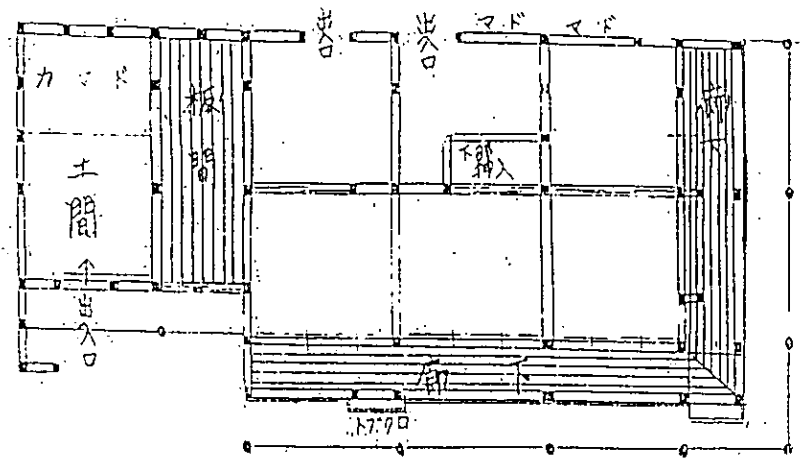
實働時間 各班共 九時間

入院三 入室二



便所
改築

軍人俱樂部内部改築設計略圖



設計



⑨駐屯地會報ニ於ケル示達事項〔南地区駐屯地司令官〕(昭20・1・13)

昭和二十年一月三十一日

自昭和二十年一月一日
至昭和二十年一月三十一日

陣中日誌

獨立混成第五聯隊本部

Jan 31 1959

OKINAWA 2 JULY
B. 28540
CINCENCO-OKINAWA
RS 3042

W. O. [Signature]
85977

駐屯地會報ニ於ケル示達事項

昭和二〇年
南地區駐屯地司令部

一、軍紀ノ振作ニ就テ

駐屯地一般ノ軍紀ハ劃期的ニ振作向上ヲ要ス

左ニ振作、爲要望スル点ヲ示ス

(1) 上ハ大權ノ承行ヲ謹嚴ニシテ下ハ謹シテ服從ノ至誠

ヲ致スル觀念ノ透徹ヲ要ス

(2) 軍紀ノ振作カ戰捷必須ノ要件ニシテ將校ハ軍紀ノ根

源ナルニ思ヒテ致シ自隊ハ勿論他隊ノ者ト雖シ苟モ軍

紀ヲ紊リアルモノニ對シテハ看過放任スルコトナク現場ニ

於テ矯正スル熱意ヲ望ム

(3) 敬禮ノ嚴格ナル實施ヲ強ク要望ス

幹部ハ敬禮ノ實施不正ナル者ハ自他隊ヲ問ハス嚴ニ

矯正シ駐屯地内ノ敬禮ノ實施ヲ劃期的ニ向上センコト



ヲ望ム

(4) 部隊ノ指揮掌握ヲ確實ナラシムルヲ要ス

(5) 巡察將校ノ活躍ヲ望ム

(6) 服裝ヲ端正ニシ態度ヲ嚴肅ナラシムル如ク指導セラレ度

嘉手納ニ於テハ時間外ノ外出、服裝態度特ニ不正ナルモノ多シ將來看過セス

二 部隊ノ混住ニ伴フ風紀對策ニ就テ

三 慰安所ノ問題ニ就テ

四 對住民及物資取得ニ就テ

五 樹木伐採、陣地其ノ他施設構築時ノ相互協定ニ就テ

軍會報事項

軍並ニ旅團ニ於ケル副官會同會報事項

昭和二十一年十一月
南地駐屯地司令部



1. 未ダ自動車事故多發ノ傾向アリ、指揮監督ヲ嚴ニサレタシ
2. 十二月未、未檢閲書簡二千通ニ達ス

尚外テ投函スルモノアリ注意ヲ要ス

3. 1. 部隊一般ニ敬禮良好ナリ、禮貌民ニ對シ金一封ヲ送レルモノモアリ

4. 飲酒ノ上將校ノ部下ヲ刺シタル例宮古島ニアリ

亦本島ニ於テモ正月一日上等兵ガ銃劔ヲ以テ班長ヲ刺シタリ

5. 火災予防ハ嚴ニ注意スベシ(別紙ノ如キ例アリ)

週番日直者ハ内務令ノ通りニ取締ルベシ

6. 十二月十八日嘉手納ヨリ那霸朝行ノ山第三〇三四部隊ノ自動車ヨリ

落セル中尉ノ軍刀アリ

銃劔モ拾得ニアルモ尾出ナシ

7. 外出ハ内務令ニ從フベシ現在ニ於テハ臨時外出ガキモノト思テス

8. 慰安所ノ使用時間ヲ嚴守サレタシ

9. 野戰兵器廠ハ南風原守宮平ノ織物工場ニ移轉セリ

電話津賀山一四

10. 齒科治療ハ昭和十五年陸普第八一三九號ヲ研究ノ上實施セラ

レタシ

旅團長注意事項

1. 敵機行動中ハ自動車ヲ動カスナ

2. 酒ハ善用スベシ 飲酒ニ依ルト雖モ事故者ニ對シテ寛大ニ失スルナ

3. 燒カズ、取ラス、犯サズ、ハニ原則ニ徹セヨ

4. 各級指揮官ノ位置ハ高所ヲ選定シ指揮官ノ位置スベキ場所

ニ本部ハ宿營スベシ

5. 各隊相互ニ惡感情ヲ持合スハ不可ナリ

特ニ嘉手納附近ニ於テアリ

VERY SECRET
ORDERS

ATTACHED UNITS

JAN. - APR. 1945

部指
隊下
作命
綴

吉林

沖
野

JLB

國
頭
支
隊

EX-14489
OKINAWA 10 JULY

F 38502243

44636

⑩ 第二大隊命令 [國頭支隊第2步兵隊第2大隊本部] (昭20・1・14)

佐作命 第三號

第一號 第二大隊命令

一四〇
真部の兵隊を部

一 國頭支隊ハ一月十四日辛作命 第六號ニヨリ真部山陣地内ニ兵察ヲ設置シ兵ノ慰安施設ヲ増強セラル

二 大隊ハ本築造ニ付諸般ノ援助ヲ十サントス

三 各隊ハ之カ築造ノタメ一月十六日ヨリ約十日間ノ

豫定ヲ以テ尤記人員ヲ差出し支隊高級士計ノ指示ヲ受ケルムヘシ

尤記

第四中隊 下士官 一 兵 三

第五中隊 下士官 一 兵 二

第六中隊 將校 一 兵 三

第三機関銃中隊

兵二

尚清木隊 兵三 濶隊 兵二 平山隊 兵二 中山隊 兵二

ヲ差出サル、此等

携行品ハ土工材料各種トシ毎日晝食携行ノ

上通勤トス

第一日ハ〇〇〇〇〇〇運立橋ニ集合スヘシ

四余ハ眞部山 第三大隊本部ニ在リ

第三大隊長

佐藤少佐

下達法 口達筆記

報告先

第三歩兵隊

⑩ 獨立重砲兵第一〇〇大隊平山隊作命綴 [中隊長] (昭20・1・14、2・10)

昭和一九・七・二七—二〇・四・八

獨立重砲兵
第百大隊平山隊

作命綴

(球一八八〇四部隊平山隊)

原本史料

防衛研修所戰史室



平作命第五號(宇作命第六號)

平山 隊命令

一月十四日一八〇〇
陸 陸 台

一 國頭支隊ハ兵ノ慰安施設増強ノタメ一月十六日ヨリ
約十日間ノ豫定ヲ以テ眞部山陣地内ニ兵寮ヲ築
造セラル

二 中隊ハ之ガ築造ノ爲一部兵力ヲ差出サントス

三 指揮小隊及戰砲隊ヨリ各々兵一名ヲ差出シ一月十六日

〇八〇〇造ニ満名運立橋ニ到リ第二歩兵隊中島主計

大尉ノ指示ヲ受ケ右作業ニ参加セシムベシ

服裝ハ單獨ノ單装トシ晝食 土工器具(円匙)十

字鋤各一ヲ携行トス

隊長 平山大尉

下達法 口達

報告(通報)先

22 1/2

平作命茶十七号

平山隊命令

青村 四〇〇
倉 台

一中隊ハ當分、同満名ニ連絡所ヲ設置シ集積糧秣、兵器、築城資材等ノ
監視及對外連絡ノ適確ヲ期セントス

ニ指揮小隊ハ主力ヲ以テ連絡所ノ設備ニ任シ、明上日中ニ之ヲ完成スベシ

連絡所一、中隊事務室同、連絡ハ中隊事務室一、沖繩茶丸砲台同

ヨリ引込ミ三所一系トナスベシ

三、連絡所勤務員ノ編成ハ兵五名(上等兵)以下四名(我流係増減)

一日一〇〇〇以降、服務スベシ

四、細部ニ関シテハ古賀中尉ヲ以テ指示セシム

五、新行橋衛兵二月十日〇〇〇以降、其編成ヲ解キ原所屬ニ復歸スベシ

隊長 平山 大尉

下達迄 〇達

報告(通報)先

2i

I/2d

II/2d

9NA

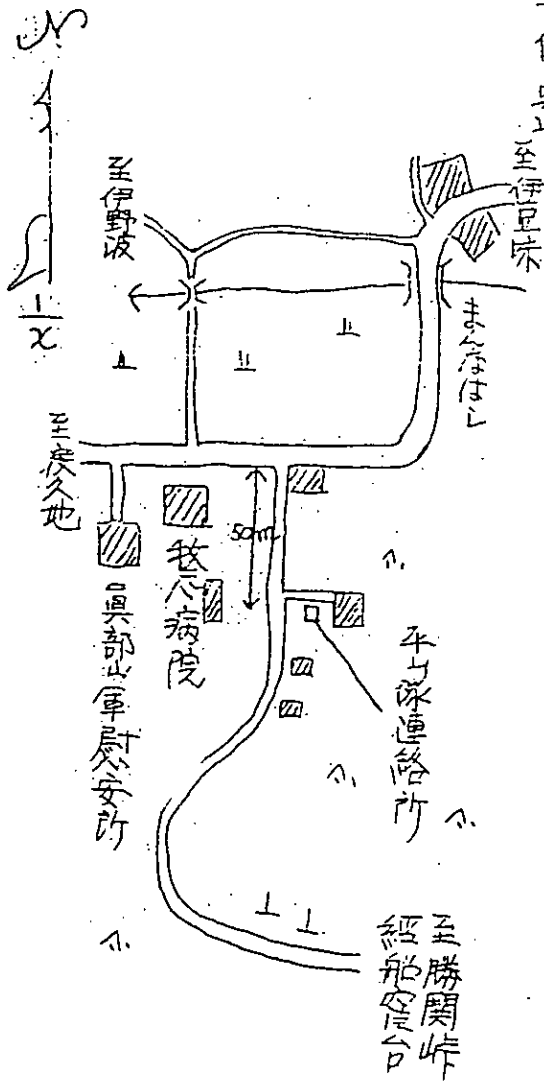
26sep



50ab

平作命第十七号別紙

一名称 平山隊連絡所

二位置



附	部	官副紙大	官副紙大
			

⑩ 第六二師團副官部陣中日誌(昭20・1・15)

軍事極秘



自昭和二十年一月一日
至昭和二十年一月三日

陣中日誌

陣日第九號

第六二師團副官部

<p>一月十五日 月小雨</p>	<p>最高一五度 最低一三度</p>	<p>仲間 命令</p>	<p>命 令</p>	<p>移駐準備</p>				<p>進級</p>			<p>退院</p>
<p>一師團長本郷中將ハ昭和十九年三月七日附</p>	<p>勲一等ニ叙セラレ瑞寶章ヲ賜ハル</p>	<p>ニ別紙左記命令ヲ下達ス</p>	<p>石兵團日々命令第八號</p>	<p>部内日々命令第一四號</p>	<p>先發者條中尉以下掩蔽壕構築及宿舍設備</p>	<p>作業ヲ實施ス</p>	<p>ニ配屬自動貨車ニ依リ陣營具其他物品ヲ輸送ス</p>	<p>ニ管理班山口軍曹以下五名首里慰安所設備</p>	<p>作業ヲ實施ス</p>	<p>四副官却勤務中ノ獨主歩兵第二十三大隊白井一等兵</p>	<p>衛兵隊勤務同山口一等兵近藤一等兵ハ一月十日附陸軍上等兵ヲ命ゼラル</p>
<p>五月一日第二十二師團野戰病院ニ入院セシ管理班</p>											

⑩ 獨立混成第四旅團第二步兵隊第二大隊機關銃中隊日命會報錄(昭20・1・15)

獨立混成第四旅團
第二步兵隊第二大隊

機關銃中隊日命

會報錄

返還史料

防衛研修所戰史室

3-C
2500-25

(沖谷)
神 田
136

一月九日 曜日 無事

陸軍

陸軍部報告第九〇〇門前隊
陸軍部報告第九〇〇門前隊
陸軍部報告第九〇〇門前隊
陸軍部報告第九〇〇門前隊

宇合報

一連射砲中隊附陸軍中尉官の臨
一月二日名護港有療三食所ニ於テ起
依三月一日一四〇〇リ伊豆味部隊中尉
ニ於テ特別式ヲ舉行スルニ付第一大隊及
第二大隊歩兵砲中隊特務隊ヲ士官兵ノ
代表者各二名宛参列セシム
花伊豆味部隊並ニ連射砲中隊ハ全團
参列スルニ 服裝ハ軍靴ノ軍裝トシ
略後佩巾ヲ入
二月一日至二月一日 皇親御子 敬告
教育ヲ一月一日至二月一日ニ考テス

不在者

一月十五日 曜日 無事

中隊命令

一 中隊今宵六時ニ其ノ兵ヲ召集シテ
シテ明ニ六時ヨリ花乳日刺ニ依リ勤ムル
自ニ六時至八時 陸上 手仲排
瑞層見 高心

宇合報

自ニ七時至九時 陸上 佐藤仁太郎
自ニ八時至十時 陸上 橋本良一
自ニ九時至十一時 陸上 橋本良一
自ニ十二時至二時 陸上 橋本良一
自ニ三時至四時 陸上 橋本良一
自ニ五時至六時 陸上 橋本良一
自ニ七時至八時 陸上 橋本良一
自ニ九時至十時 陸上 橋本良一
自ニ十一時至十二時 陸上 橋本良一
自ニ十三時至十四時 陸上 橋本良一
自ニ十五時至十六時 陸上 橋本良一
自ニ十七時至十八時 陸上 橋本良一
自ニ十九時至二十時 陸上 橋本良一
自ニ二十一時至二十二時 陸上 橋本良一
自ニ二十三時至二十四時 陸上 橋本良一
自ニ二十五時至二十六時 陸上 橋本良一
自ニ二十七時至二十八時 陸上 橋本良一
自ニ二十九時至三十時 陸上 橋本良一
自ニ三十一時至三十二時 陸上 橋本良一
自ニ三十三時至三十四時 陸上 橋本良一
自ニ三十五時至三十六時 陸上 橋本良一
自ニ三十七時至三十八時 陸上 橋本良一
自ニ三十九時至四十時 陸上 橋本良一
自ニ四十一時至四十二時 陸上 橋本良一
自ニ四十三時至四十四時 陸上 橋本良一
自ニ四十五時至四十六時 陸上 橋本良一
自ニ四十七時至四十八時 陸上 橋本良一
自ニ四十九時至五十時 陸上 橋本良一
自ニ五十一時至五十二時 陸上 橋本良一
自ニ五十三時至五十四時 陸上 橋本良一
自ニ五十五時至五十六時 陸上 橋本良一
自ニ五十七時至五十八時 陸上 橋本良一
自ニ五十九時至六十時 陸上 橋本良一
自ニ六十一時至六十二時 陸上 橋本良一
自ニ六十三時至六十四時 陸上 橋本良一
自ニ六十五時至六十六時 陸上 橋本良一
自ニ六十七時至六十八時 陸上 橋本良一
自ニ六十九時至七十時 陸上 橋本良一
自ニ七十一時至七十二時 陸上 橋本良一
自ニ七十三時至七十四時 陸上 橋本良一
自ニ七十五時至七十六時 陸上 橋本良一
自ニ七十七時至七十八時 陸上 橋本良一
自ニ七十九時至八十時 陸上 橋本良一
自ニ八十一時至八十二時 陸上 橋本良一
自ニ八十三時至八十四時 陸上 橋本良一
自ニ八十五時至八十六時 陸上 橋本良一
自ニ八十七時至八十八時 陸上 橋本良一
自ニ八十九時至九十時 陸上 橋本良一
自ニ九十一時至九十二時 陸上 橋本良一
自ニ九十三時至九十四時 陸上 橋本良一
自ニ九十五時至九十六時 陸上 橋本良一
自ニ九十七時至九十八時 陸上 橋本良一
自ニ九十九時至一百時 陸上 橋本良一

不在者

⑩輜重兵第四九聯隊第一中隊陣中日誌(昭20・2・1)

昭和二十年二月一日

輜重兵第四九聯隊第一中隊陣中日誌



防衛研修所戦史部

二月一日 晴
 キヤウタン
 日出一八度
 日没二八五度

一〇七。佐藤軍曹以下三七名(戦午車二五車輛)日命ニ基キ午糧受領ノ為「バグ」ニ向ヒ出發ス一七。歸隊ス

二午車、整備ヲ實施セシム

三下士官全員(成山大尉)幹部教育ニ出席セシム

日命

命令

一第一中隊	陸軍兵長	渡邊	知
第三中隊	同	柳井	達男
第二中隊	同	烏川	彦一
第一中隊	同	阿部	弘美
第二中隊	同	生田	太郎
本部	同	小田	島藤吉
第三中隊	同	時任	三郎
任陸軍伍長			

二部隊内務規定第千四條ヲ左記ノ通リ補訂ス一般ニ外出ハ土

曜日二〇〇ヨリ兵ハ夕食時限迄下士官ハ二三〇迄トス

尚下士官ハ令第百八十八條ニヨリ金曜日一八〇ヨリ二三〇迄外出ヲ許可ス

三來ル二月三日獸醫資材臨時検査ヲ實施セララル

依而左記ノ通り心得ベシ

左記

ノ實施時刻及場所 一三〇〇 一三三〇 獸醫室

又受檢ノ細部ニ関シテハ伊林獸醫少尉ヲシテ指示セシム

會報

會報

一爾今部隊ノ休日ハ土曜日ト定メラレタルニ付部隊内務規定第

二十三條中ノ日曜日ハ平日通、服務スルモノニ付承知セラレ度

ニ今般「ギヤウタン」慰安所ヲ開設セラレタルニ付此ノ際特ニ軍人ノ

軍人タル分ヲ銘記シ極端ニ流レズ止ム所ヲ知り左記事項徹底

嚴守セシメテ利用ヲ適切ナラシメラレ度

左記

(一) 言語不適ニ起因シ乱暴ヲナシテ政打セザル事

(二) 官物ヲ携行女子ニ與ヘ或ハ女子ノ持物ヲ持歸ラザル事

(三) 建物ヲ損壞セザル事

(四) 防毒並ニ消毒ヲ嚴ニ病氣ニ罹ラサル様注意スル事

凶使用時間及使用时间別ヲ嚴守スル事

(六) 慰安所、話ヲ絶對隊ニ持歸リ話サザル事

四二〇〇〇ヨリ津末軍醫ヲシテ四五六分隊ニ衛生教育ヲ實施セシム

退院五陸軍一等兵古賀利作退院ス

人員
本日現在員將校以下二八八名

二月二日
晴
一 飼料菓利作業ヲ實施セシム

キヤウラン
日出ニ一度
日没ニ六度
二 一〇ノヲ下士官全員成山大尉^行幹部教育ニ出席セシム

三 一〇ノヨリ外出セシム

日命
四 命 令

返還史料

獨立第二九大隊 (海上挺進基地) 第二九大隊 本部陣中日誌

自昭和二十年二月十七日
至二月廿八日

防衛研修所戰史室



3720C
-21
220

沖台
沖繩
220

二月十四日

兩風

鳥尻部

玉城府

會報

一〇八〇〇本部ニ於テ入隊全將校ニ對シ先成副官ハ旅團並ニ
將隊ノ戰鬥指導方針ニツキ説明ス

二野田中尉ハ先成副官ハ同道陣地偵察ララス

三二三〇〇前川ニ於ケル旅團長 將隊長又各大隊長

ノ陣地配備ニツイテノ打合会同ニ先成副官出席ス

四二五三〇左記今報下達

會報

二月二十四日

一近時慰安所ニ於テ暴行ニ及ブ者アリ 嚴ニ注意スヘシ

二明二十五日左記人員ヲ遊事場ニ差出シ永井軍曹ノ指示ヲ

受ケルムヘシ 第一ニ中隊ヲ兵各一右死

五各中隊別作業出勤人員

第一中隊七二 第二中隊一〇五 第三中隊一三三

六本日ノ人員數前日ニ同シ



號外

陸海軍衛生部

昭和二十年三月十八日

第十二特別根拠地隊司令部

高分ノ間海軍慰安所利用内規ヲ尤ノ通定ム

海軍慰安所管理經營ハ海軍司令部ニ於テ一括之ヲ行フ

家賃ノ業者ニ無償貸與スルモノトシ文具調度品等ハ必ず最々限一

時貸與ス 業者ハ貸與物件保管ノ責ニ任ズルモノトス

業者ハ清潔整頓ヲ旨トシ衛生ニ圖シテ司令部ノ指示ニ從フモノトス

軍医長ハ毎月癸ニ等四大曜日ニ健康診断ヲ行ヒ其ノ結果ヲ報告

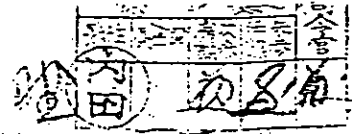
スルモノトシ不合格者ハ各業者ヲ停止セシム

四 海軍慰安所ヲ別々テ鶴ノ交、亀ノ交、松ノ交、竹ノ交、双梅ノ交ノ

ニトス

五 鶴ノ交、亀ノ交(准士官以上用)ノ利用ニ圖シ左ノ通定ム

(1) 時間及料金



- 標準ニ依リ配付ス
- (1) 利用者ハ本券購入(料金ハ前項所定通)ノ上付心券一町ニ於テ相テ業
者ニテ支ス
 - (2) 各隊(被部所)長ハ右料金ヲ取纏メ別紙様式調書ト共ニ毎月毎ニ主
計長宛送付スルモノトス
 - (3) 業者ニ對スル支拂ハ毎月一ヶ月間ニ於ケル被高ニリ生活諸費其ノ他
ヲ控除シテ支給ス
 - (4) 對心券町内ニ於テハ現金支拂ハ一切禁止ス
 - (5) 毎月八日ハ定休日兼ス
 - (6) 利用者業者共ニ被産益ニ備付品等ノ取扱ヲ丁座子ニシ毀損亡失等ナキ様
留善心ノコト
 - (7) 不都合アリト認メタル場合ハ該業主ヲシテ營業停止又ハ高該利用者ノ出
入禁止ヲ命ハルコトアリ
- (別紙)

書調券				兵 用	計
准 第 一 種	官 第 二 種	以 第 三 種	下 士 官 用		

(終)

時	間	料	金	記	率
三〇〇〇	以降	一五〇	〇〇		
三〇〇〇	以升	七〇〇	〇〇	三〇〇〇以前約時間ヲ標準トス	

(四) 利用者ノ範圍

(一) 海軍准士官以上及同待遇者

(二) 判位一等待遇以上ノ海軍文官、軍属

(三) 陸社、司令部ニ於テ許可セラレタル者

(四) 其他特ニ司令部ニテ許可セラレタル者

(五) 其他

慰勞所内ニ於ケル飲食ヲ禁止ス

六 松ノ家(下士官兵用)ノ利用ニ関シ在ノ通定ハ

(イ) 時間及料金

時	間	下士官	兵	記	率
三〇	分	三〇〇〇	二〇〇〇		

(四) 利用者ノ範圍

海軍下士官兵

(五) 其他

(一) 慰勞所内ニ於ケル飲食ヲ禁止ス

⑩性病豫防ニ關スル件通知 [第12特別根拠地隊軍醫長] (昭20・3・29)

先任等
號外

三卷三



昭和二十年三月二十九日

軍醫長

各隊(部所)長殿

性病豫防ニ關スル件通知

ク慰安所開設セラルルニ就テハ性病患者發生ノ絶無ヲ期ス

左記實施相成度

記

一 性病豫防講話 (別紙参照)

二 性病豫防揭示教育 (別紙揭示ノコト「ポスター」作製中)

三 「サツク」及消毒「クリーム」ノ交付

外出員ニ對シテ慰安券ヲ交付スル場合ハ同時ニ「サツク」及消毒「クリーム」各一個宛交付シ之ガ使用ヲ勵行セシメラレ度 (「クリーム」容器「サツク」ハ業者者耐ヲシテ回收セム)

四 早期需診

慰安所利用後局所ニ異狀アルモノハ早期ニ需診セシメラレ度 (別紙添付)

(終)

性病に就て

性病に於

淋病 梅毒 軟性下疳（横痃）等がある

○淋病

急性に感染後二三日間て尿道より膿が流れて致尿の際痛が難い痛が
が女に懷は次第に多くなり疼痛益々強ぼつて来る

此の時期に受療すると意外に早く全治するが受診を怠ると

不養生をすると遂には慢性に成るとして一生苦しむおぼしき人

慢性に成ると尿道の外膀胱・關節等に浸り或る更には攝護腺

腺丸等に浸りて子供が生まれる事がある

淋病が眼に侵入すると膿漏眼（魚鱗）となる事がある

又淋病が膿が流れてくる事がある事がある事がある

何時でも他人に傳染する類である事がある

其の感染経路

主として不潔な性交によつて傳染する等の外病苦のついで指先
手拭 禪 腰巻 下着 寝具等からも感染する

▽梅毒

先天梅毒 親から血液の中を病毒を受け生れて来たもの
後天梅毒 無垢の健康体が他から病毒を受けて發病するもの
後天梅毒 の二つがある

第一期 性交後二―三週間位で龜頭冠溝部に瘡瘻が出來て
堅い横痃が出来る

第二期 第二期から一―二年間皮膚に色々發疹が出来る
頭髮や眉毛が抜けてつむくなつたり声が啞れたりする

第三期 病毒が段々内臓を冒し骨がらみとなつて鼻が落ちて
頭に穴があいたりする

第四期 受毒後十年以上を経過して腦や脊髄を冒して遂には不治の精神病者や脊髄病(ふく)になる

○先天梅毒 親ばかりでなく親の因果が子に報ひ子供に傳染して流産 死産の原因となり又生れた子供は多く弱弱で身障も精神も満足でなく成長しても女推不具、瘡瘻(アトピー)病弱者になる等累を可也い、子孫は遠慮す恐ろしい病氣である

○其の感染経路

主として生殖器からの感染するが接吻授乳指先食器煙草管等からも傳染する事がある

▽軟性下疳

性交後二三日で局部に毛切れ又は浅い瘡が出来それが潰れて段々大きく深くなる又梅毒と混合感染したり横痃がふくまふ事もある

事もある

。其の感染経路

梅毒に同じ

▽横痃

股のつら根の所が次第に腫れて来るもので致性下疳の初期に多く起り淋病でも時々出来ることがある亦

梅毒から来たものは堅いので痛や化膿もしないが軟性下疳から来たものは痛があり紅く腫れて化膿する

▽性病豫防法

(一) 上陸時は必ず「クリーム」と「コンドーム(サック)」を携行し事

(二) 性交時は「コンドーム(サック)」を使用する事

(三) 次で消毒「クリム」のうすを尿道口へ押入れ残りうすを外側全面に塗
沫の消毒紙まで折り紙で包

(三) 性交後は必ず放尿する事(手指で臍頭を軽く叩き腹圧をシキク
と放尿ス)

(四) 次で消毒水で洗滌する事(陰茎の外側を良く洗ひ尿道を洗滌ス)

(五) 次で消毒ケームの1子を尿道口を押し込み残り2子を

外側全面に塗り次の放尿迄2紙で包で置く事

(六) 尿道から膿が出たり瘡が出来たら直に病診する事

石の注意を確實に遵守すれば大体安全であるが必しも

一〇〇% 懼病しなことは云えない

▽絶対完全なる豫防法

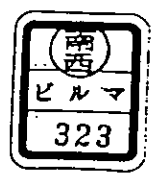
君子危きに近よらず

⑩歩兵第一〇六聯隊聯隊砲中隊陣中日誌 (昭20・2・23)

昭和二十年三月二十八日

歩兵第一〇六聯隊聯隊砲中隊陣中日誌

防衛研修所戦史部



會報要旨一再注意ニアルニ拘テ演習先ニ於テ部ヲ若クハ出スルモアリ

各隊長ハ之カ指導監督ヲ嚴シ今後斯カル行爲ノ絶無ヲ期ス

コト

糧 秣携帶口糧乙及携帶罐詰各二百分受領

兵 器 四式山砲彈藥箱五四個受領

現在人員 中隊長以下一三九名 馬 一匹 牛 一頭 鞍 一具

月 日 二月二十三日

天 候 曇 一府雨

宿營地名 キヤウウノ北野兵舎

教 育 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、中隊長學科(馬事教育)飼育管理(就)ヲ實施

行 事 一、午前中白川少尉指導ヲ聽馬調教

一、午後指揮班通信教育(通話要領各番任務)第一二三

隊分隊戰鬥(對戰車射擊)彈藥少隊役牛調教ヲ各

小隊長指導ヲ實施

森林第一八七〇九部隊ノ自動車一分隊(五輛)

四兩餘ノ各隊(部隊ヲ橋梁警備隊ヲ合シ)ハ速ニ準備ヲ

整ヘ出勤命令受領後三六時間以内ニ出勤シ得ル態勢ニ在
ルハシ

但橋梁警備隊撤收ハ別命ス

五各隊ハ出勤態勢完了ニ報告スヘシ

六出勤其他所要細部ハ別命ス

七余「キヤッタ」本部ニ在リ

部隊長 十時大佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

會報要旨一尉安所附近ニ開設シル現地人賣店ニ一切之寄ラサル様指
導ノト

中隊命令一免

陸軍軍曹

前宗次郎

昭和二十九年四月二十二日、四月廿四日 仙印

金辺憲兵隊日誌

防衛研修所図書館



往敷

寝外異状ナシ
 1. 日夕疾呼時在室ニ對シ日課踏限ニ依
 10 集居ニ初休致活ナラレルト
 2. 所居在構内ニ於テ茶ヲ喫煙ニ收被
 3 投擲セラルト

構内巡視

2. 居室ノ清潔整頓ニ勵行
 3. 構内巡視スルニ異状ナシ
 衛兵ニ服務
 隊員ニ態度良好ナリ

日朝疾呼

7. 日朝疾呼就寝中田帶長梅長ニ等
 矢執卷ノ外異状ナシ

申送要領

片金由外清潔整頓未ク充分ナラス
 勵実施セシムルヲ要ス

九月七日 金曜日

曇

日直ニ官田中准尉

⑩復員並居留民船舶輸送情報第七號 [陸軍省交通部] (昭20・9・29)

復員並居留民船舶輸送情報第七號

昭二〇・九・二九
交通部

北支向船舶運送ニ關シ左記ノ如ク聯合國側ノ認可ヲ得タリ

船名	總噸數	速力	運 航 計 畫		搭 載 物 件	備 考
			運 航	計 畫		
江島丸	六四三五	七	新瀉發	十月三日	新瀉、塘沽、華人五千	
			塘沽着	十月十日		
			塘沽發	十月十二日		
			門司着	十月十七日		
			玉發	十月十七日		
			三池發	十月十二日		
			釜山着	十月十四日		
			釜山發	十月十五日		
			塘沽着	十月二十日		
			塘沽發	十月二十一日		
榮望丸	六八〇〇	七	門司着	十月二十七日	塘沽、門司、邦人五千	
			新瀉發	十月一日		
			小瀉着	十月三日		
			小瀉發	十月五日		
			塘沽着	十月十五日		
辰日丸	六八七三	七	塘沽着	十月十七日	塘沽、門司、邦人五千	
			塘沽發	十月十五日		
			門司着	十月二十一日		
			小瀉着	十月三日		
			小瀉發	十月五日		

船内
機雷
状況
ヨリ
程ヲ
更ス
ルコ
トハ
シ

一、船内治安維持ノ爲メ國憲兵乘船方交渉中(考慮ラ約シアリ) 乘船實現ノ見込ナリ
二、塘沽ニ於ケル搭載邦人ノ選定ハ現地ニ一任セラル

配布先 二課、軍事課、軍務課、兵備課、衣糧課、補任課、戰備課、官房、大臣秘書官
次官秘書官
船司、一船司、内職、
留守兼務部(三)

軍務一課、海軍、船運、右未核備

電報

陸軍省交通部長

通電先 歐・支總・海・船司・二總・北部軍（參考札幌地區鐵）

參考 一、五船司、釜山、大阪、神戶、伏木、室蘭、博多、青島、西部軍

交路電第四四號

神祇丸外配船豫定ノ汗

左記豫定ヲ以テ配船スル如ク聯合國側ト交渉中ニ付準備進メラレ度

一、神祇丸 台湾人三千五百搭載

宇品七日發 崎戸十二日着 パンカー搭載

十四日發 釜山十九日着 台湾人揚陸 二十日發 マニラ二

五日發 邦人三千搭載 二十七日發 門司十一月七日着

二、信濃丸 鮮人三千五百搭載

室蘭十日發 釜山十四日着 鮮人揚陸 十五日發 慶東二十

一日着 邦人三千搭載 二十三日發 門司二十九日着

三、北鮮丸 伏木十日發 唐津十二日着 鮮人一千及パンカー搭載十四日

發 釜山十六日着 鮮人揚陸 同日出發 青島十八日着 邦人

第四十八師團戰史資料並終戰狀況

第四十八師團（ズンバワ島「ロボック」）

昭和五年七月五日 師團長中將 山田國太郎

復員廳總裁殿

一前言

第四十八師團戰史資料ハ停戰時其ノ大部ヲ上司ノ指令ニ基キ
處今シ又殘部モ濠洲軍ニ提出セシヲ以テ正確ナル資料殆ト
比旨無ナリ依ツテ將兵ノ記憶ヲ綜合シ主トシテ「ナモル」島防衛作戰
以降ヲ魁メテ詳細ナラシムル如ク記述シ「アイリツピン」及「ジヤフ」
作戰ハ既提出資料ニ依リ得ヘキヲ以テ概要ニ止メタリ
以下指定様式ニ依リ記述ス

ニ 行動經過ノ概要（別冊第一部隊畧歴參照）

ノ 第四十八師團ハ昭和十五年十月三十日下令同月三十日編成ヲ

昭和十九年十月頃、於此在ナモル陸軍部隊ノ編成
裝備ノ概要附表第一ノ如シ

乙、將校職員表

1. 終戦時ニ於ケル棟指揮下部隊將校職員表別冊二
陸軍

~~終戦後ニ於ケル將校職員表別冊三ノ如シ~~

口、師團司令部ノ將校職員表附表第二ノ如シ

3. 台湾人及朝鮮人ノ使役状況

イ、台湾人ハ編成當初ヨリ主トシテ司令部ニ於テ約一〇〇名
足ラス使役セシモ昭和十八年後半期ヨリ特別志願兵トシテ
到着セルモノ約四五〇名程度ナリ

ロ、朝鮮人ハ慰安業者關係約五〇名程度ノ状況ナリ

4. 現地住民ノ使役ハ概テ五万名ニ達シ内約三十名ハシマズハ

ア、ホシ人等ヨリ採用セラレタルモ兵補又ナモルニ於テハ
更ニ約五千名モ亦兵補ニ準ヒ使役シ他ハ陣地及道路

措築並農耕作業其、他雜用ニ使役セリ

『従軍慰安婦』関係資料集成③

国防庁関係公衆資料(防)

一九九七年三月二十日 第一刷発行

揃定価 一〇〇、〇〇〇円(税別)

後藤 乾一

編集代表 高崎 宗司

和田 春樹

装 幀 三谷 鞆彦

発行者 北村 正光

発行所 猊龍溪書舎

東京都板橋区南町43-4-103

郵便番号 173-0027

電話 03-35541804(代表)

FAX 03-35541844

振替 001301176123

印刷 勝英印刷 製本 岸田製本

検印廃止

ISBN4-8447-3474-1